

**「土庄町障害者計画・障害福祉計画」
策定のためのアンケート調査
結果報告書**

**平成29年10月
土庄町**

目次

I 調査概要	1
1 調査目的.....	1
2 調査設計.....	1
3 報告書の見方.....	1
II 調査の結果	2
1 回答者について.....	2
2 対象者の属性について.....	3
(1) 性別.....	3
(2) 年齢.....	3
(3) 居住地区.....	4
(4) 障害の状況について.....	5
(5) 通院などで困っていること.....	10
(6) 介護保険サービスの利用の有無.....	12
(7) 現在の暮らしについて.....	13
3 困り事に対する相談について.....	22
(1) 現在の生活において困っていること.....	22
(2) 悩みや困ったことの相談先.....	24
(3) 相談体制に関する要望.....	26
4 介助者について.....	28
(1) 主な介助者と介助者の年齢や健康状態.....	28
(2) 主な介助者が不在の場合の対応.....	33
5 福祉サービスについて.....	35
(1) 障害支援区分の認定状況.....	35
(2) 現在利用している福祉サービスと今後利用したいサービス.....	36
(3) 障害福祉サービスに対する要望.....	39
6 情報収集について.....	43
(1) 普段利用する連絡手段.....	43
(2) 情報の入手先.....	45
(3) 今後充実を希望する情報内容.....	47
7 保育・教育について.....	49
(1) 通園・通学の状況.....	49
(2) 障害のある児童のための望ましい就学環境.....	52
(3) 希望とは違う学校に通う理由.....	54
(4) 通園・通学に関して感じること.....	56
(5) 学校教育修了後の社会参加に関する要望.....	58
8 雇用・就労について.....	60
(1) 現在の就労状況.....	60

(2) 就労していない理由.....	63
(3) 今後の就労意向.....	65
(4) 就労のために必要な支援.....	67
9 外出・移動支援について.....	69
(1) 外出時の交通手段.....	69
(2) 外出の頻度.....	71
(3) 外出の際の同伴者.....	72
(4) 外出の目的.....	73
(5) 外出の際に不便に感じる事.....	75
(6) 外出のために整備してほしい事.....	77
10 社会参加について.....	79
(1) 最近の社会参加の状況と今後の希望.....	79
11 地域防災について.....	81
(1) 災害時の避難について.....	81
(2) 一人での避難が困難な理由.....	82
(3) 避難を援助してくれる人の有無.....	83
(4) 災害時に困ること.....	84
12 その他のことについて.....	86
(1) 近所つきあいの程度.....	86
(2) 障害者差別について.....	87
(3) 日常生活で感じる事.....	90
(4) 住みよいまちにするために必要な事.....	92
Ⅲ 自由意見.....	95

I 調査概要

1 調査目的

平成23年度に策定した「土庄町障害者計画」および平成26年度に策定した「土庄町障害福祉計画」の計画見直しの基礎資料とするために実施しました。

2 調査設計

(1) 調査対象

調査対象者	抽出方法
身体障害者手帳所持者、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者	無作為抽出

(2) 実施期間 平成29年9月7日～9月22日

(3) 調査方法 郵送による配布・回収

(4) 配布・回収状況

標本数	回収数	回収率
862	438	50.8%

3 報告書の見方

(1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が100%にならないことがあります。

(2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回る場合があります。

(3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。

(4) グラフ中の数値が0.0%の場合は、数値、選択肢等を表示させていない場合があります。

(5) 身体・知的・精神の障害種別クロス集計では、手帳の複数所持者も含まれています。

また、手帳不明者のデータは省略しており、各障害者別の合計値は全体の合計値と合いません。

Ⅱ 調査の結果

1 回答者について

問1 調査に回答されるのは、どなたですか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

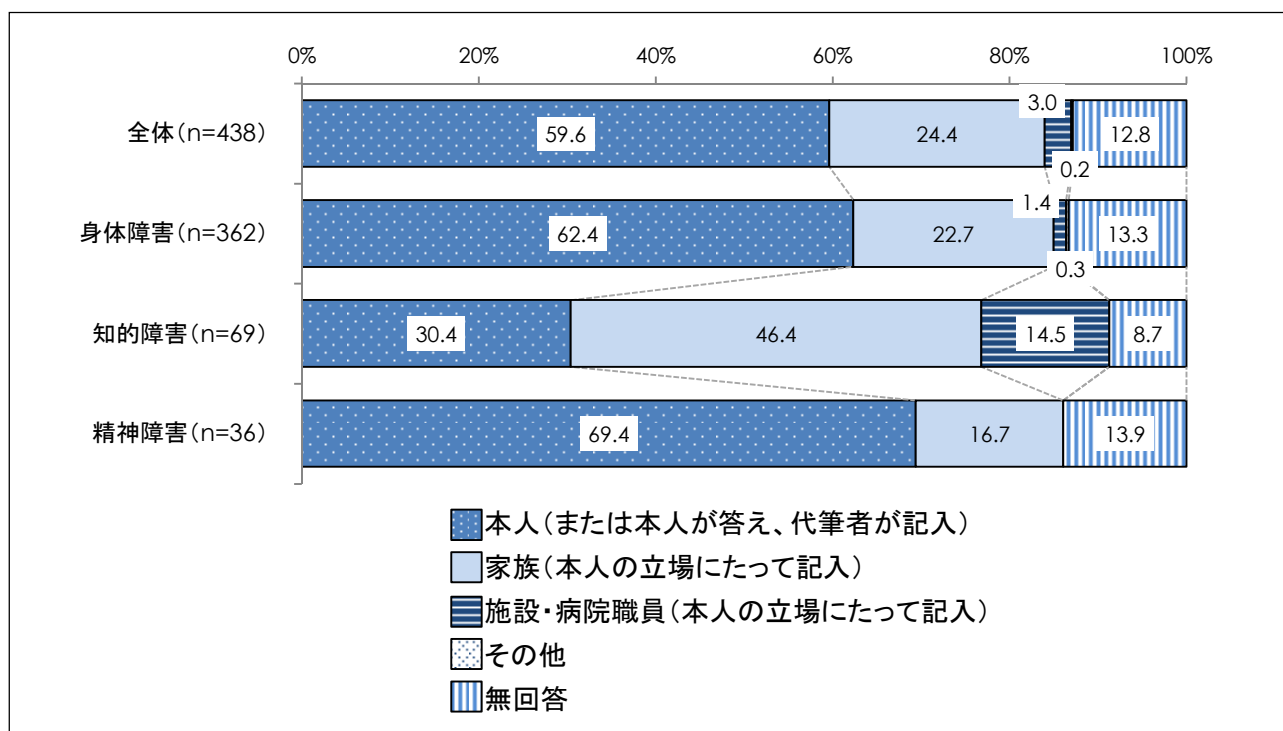
回答者についてみると、全体では「本人（または本人が答え、代筆者が記入）」が59.6%と最も高く、次いで「家族（本人の立場にたって記入）」(24.4%)、「施設・病院職員（本人の立場にたって記入）」(3.0%)、「その他」(0.2%)となっています。

【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害、精神障害では「本人（または本人が答え、代筆者が記入）」が約6割～7割を占めています。

一方、知的障害では「家族（本人の立場にたって記入）」が46.4%と最も高くなっており、「本人（または本人が答え、代筆者が記入）」は30.4%となっています。

図表 1 回答者について（全体、障害別）



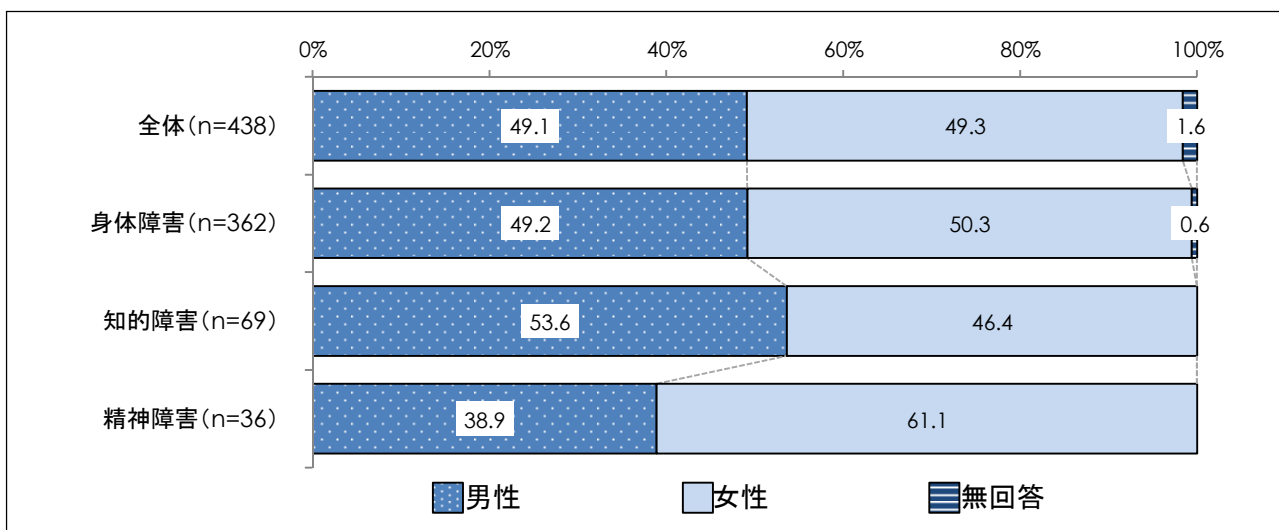
2 対象者の属性について

(1) 性別

問2 あなたの性別は次のうちどれですか。(〇はひとつだけ)

本人の性別をみると、全体では男性に比べ、女性の割合がやや高くなっています。身体、精神障害では女性が多く、知的障害では男性が多くなっています。

図表2 本人の性別（全体、障害別）

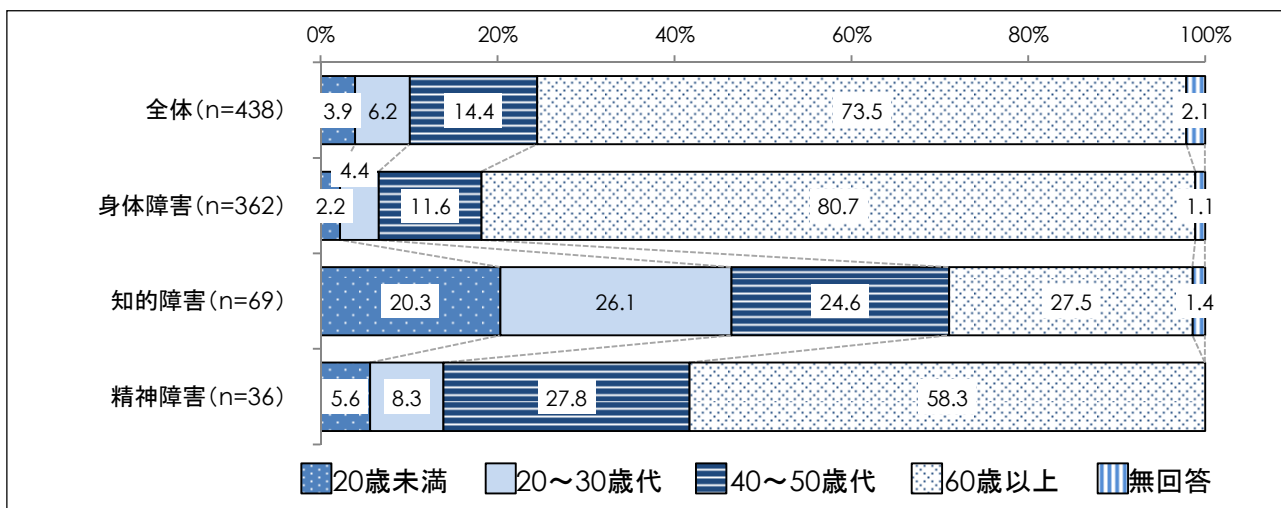


(2) 年齢

問3 あなたの年齢は何歳ですか。(平成29年7月1日現在)

本人の年齢をみると、全体では「60歳以上」が73.5%と最も高くなっています。障害別にみると、身体障害では「60歳以上」が8割を超えており、知的障害では若年層の割合が高くなっています。

図表3 本人の年齢（全体、障害別）



(3) 居住地区

問4 あなたのお住まいはどちらの地区ですか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

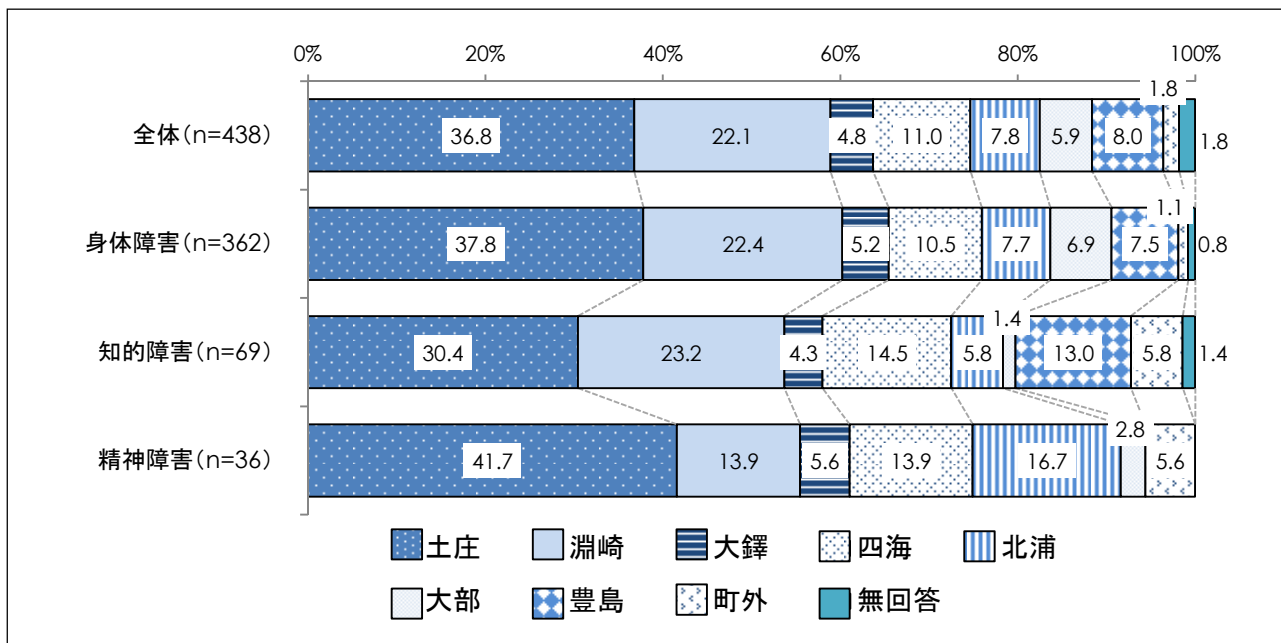
居住区については、「土庄」が36.8%と最も高く、次いで「淵崎」(22.1%)、「四海」(11.0%)、「豊島」(8.0%)、「北浦」(7.8%)、「大部」(5.9%)、「大鐸」(4.8%) などとなっています。

【属性別の傾向】

障害別にみると、「土庄」が最も高く、身体障害では37.8%、知的障害では30.4%、精神障害では41.7%となっています。

また、知的障害では、「豊島」が13.0%、精神障害では「北浦」が16.7%となっており、これら地区については、身体障害の割合と比較するとやや高くなっています。

図表 4 居住地区（全体、障害別）



(4) 障害の状況について

問5 あなたは、身体障害者手帳をお持ちですか。(○はひとつだけ)

問6 身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障害をお答えください。(○はひとつだけ)

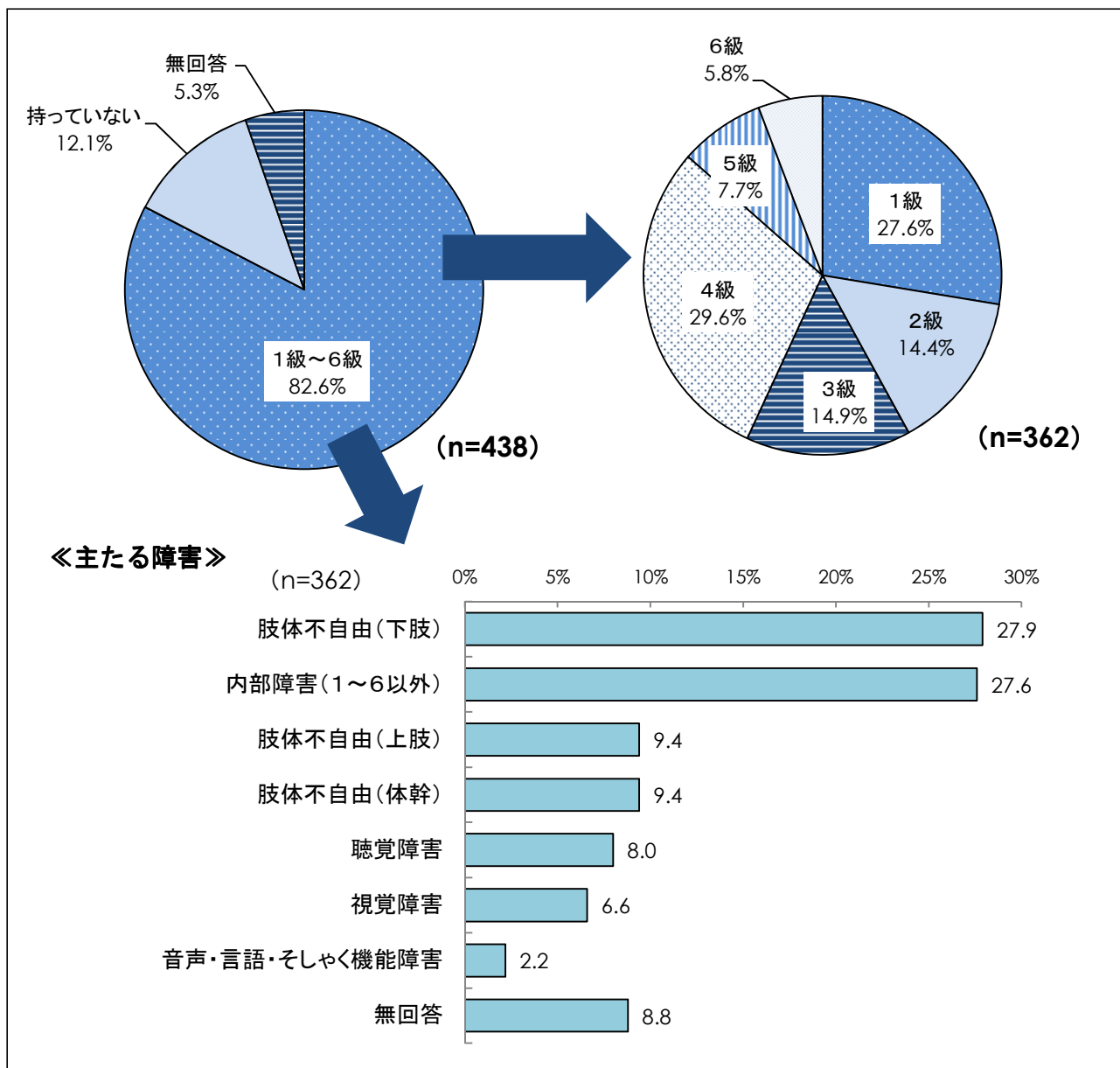
【全体の傾向】

身体障害者手帳の所持状況をたずねたところ、「1級」～「6級」のいずれかを持っていると回答した人の合計は82.6%、「持っていない」は12.1%となっています。

また、身体障害者手帳を所持している人の級別の割合は、「4級」が29.6%と最も高く、次いで「1級」(27.6%)、「3級」(14.9%)などとなっています。

さらに、主たる障害については、「肢体不自由(下肢)」(27.9%)、「内部障害(1～6以外)」(27.6%)が主な障害となっており、その割合は突出しています。

図表 5 身体障害者手帳の所持状況と主たる障害 (全体)

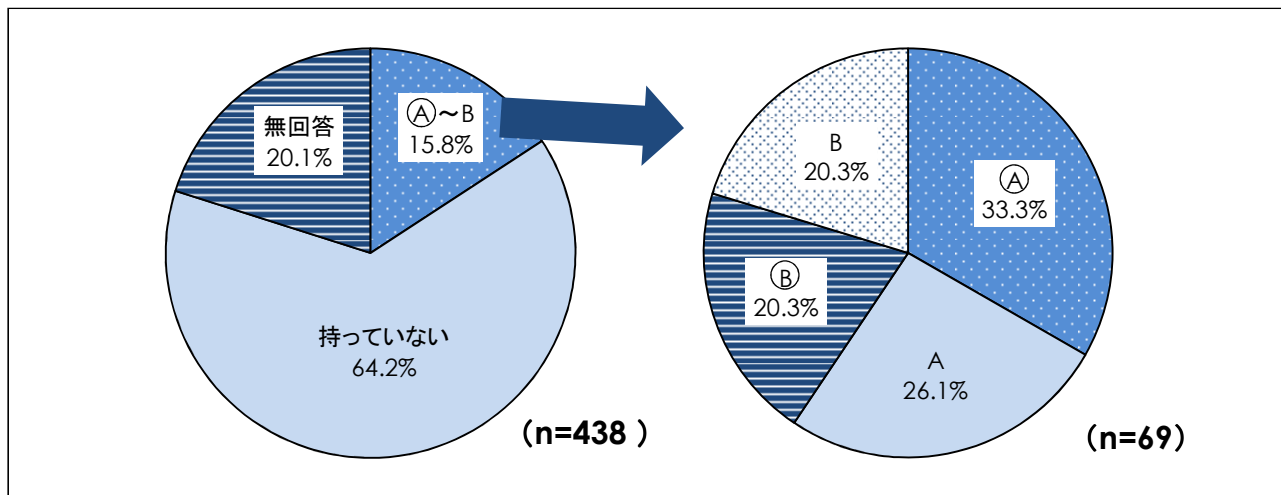


問7 あなたは、療育手帳をお持ちですか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

療育手帳の所持状況については、「A」～「B」のいずれかを持っていると回答した人の合計は 15.8% となっており、その内訳は、A が 33.3%、A が 26.1%、B、B ともに 20.3% となっています。

図表 6 療育手帳の所持状況 (全体)

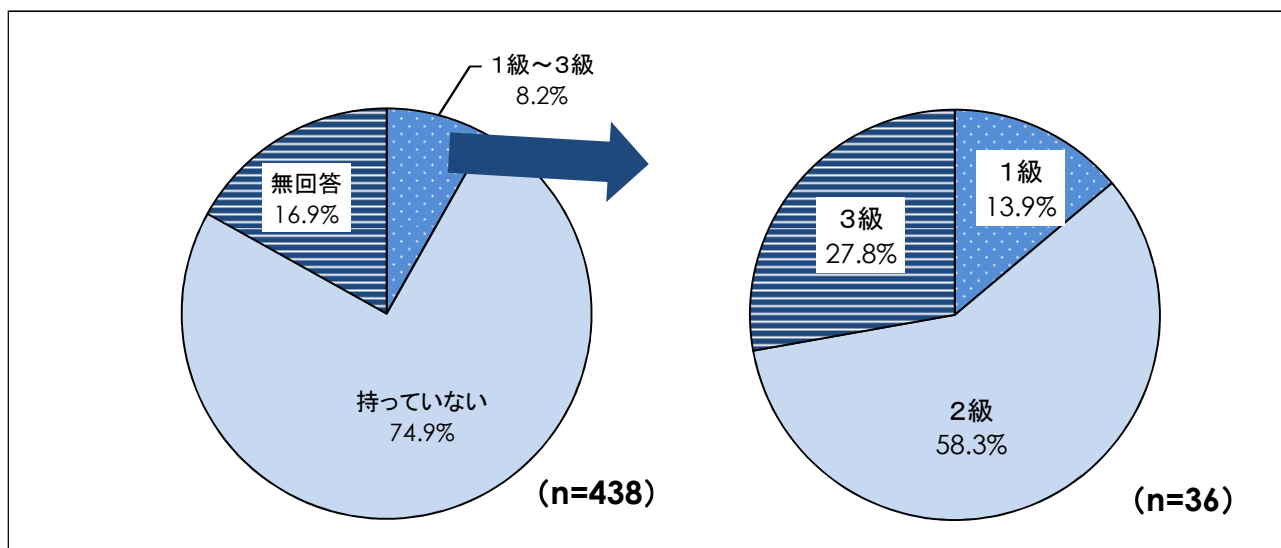


問8 あなたは、精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

精神障害者保健福祉手帳の所持状況をたずねたところ、「1級」～「3級」のいずれかを持っていると回答した人の合計は 8.2% となっており、その内訳は「2級」が 58.3% と約6割を占めています。次いで「3級」(27.8%)、「1級」(13.9%) となっています。

図表 7 精神障害者保健福祉手帳の所持状況 (全体)



問9 あなたは、難病（特定疾患）の認定を受けていますか。（〇はひとつだけ）

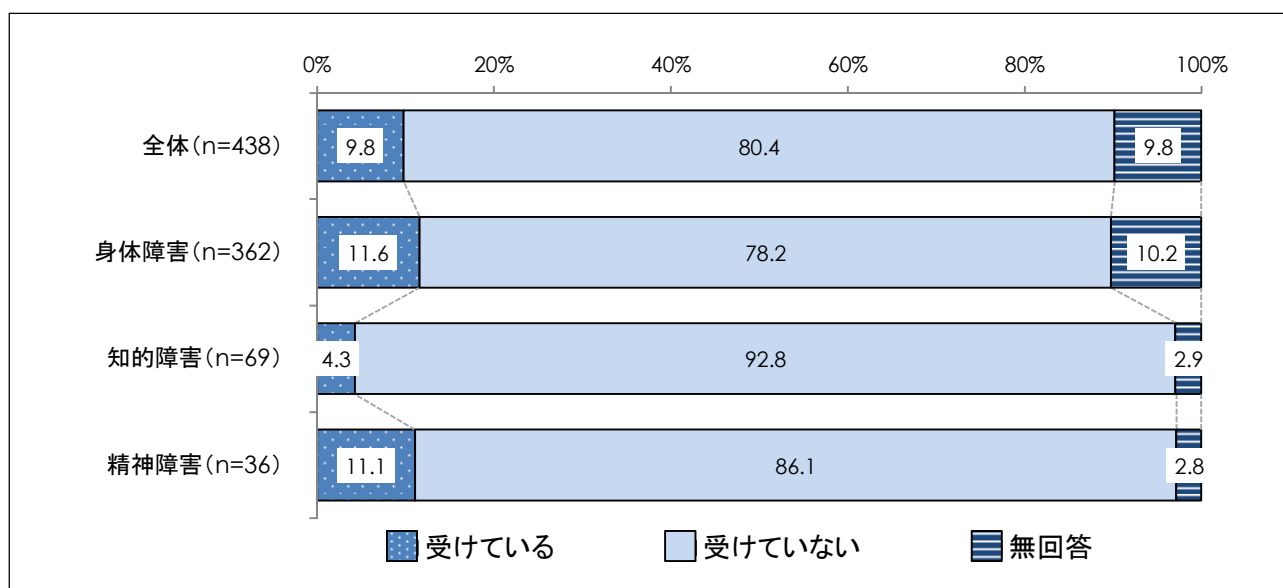
【全体の傾向】

難病の認定状況についてたずねたところ、認定を「受けている」人の割合は全体では9.8%となっており、「受けていない」人が約8割を占めています。

【属性別の傾向】

障害別にみると、「受けている」の割合は、身体障害では11.6%、精神障害では11.1%とやや高くなっています。一方、知的障害では4.3%となっており、全体の9.8%よりも低くなっています。

図表 8 難病の認定状況（全体、障害別）



問 10 あなたは、発達障害として診断されたことがありますか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

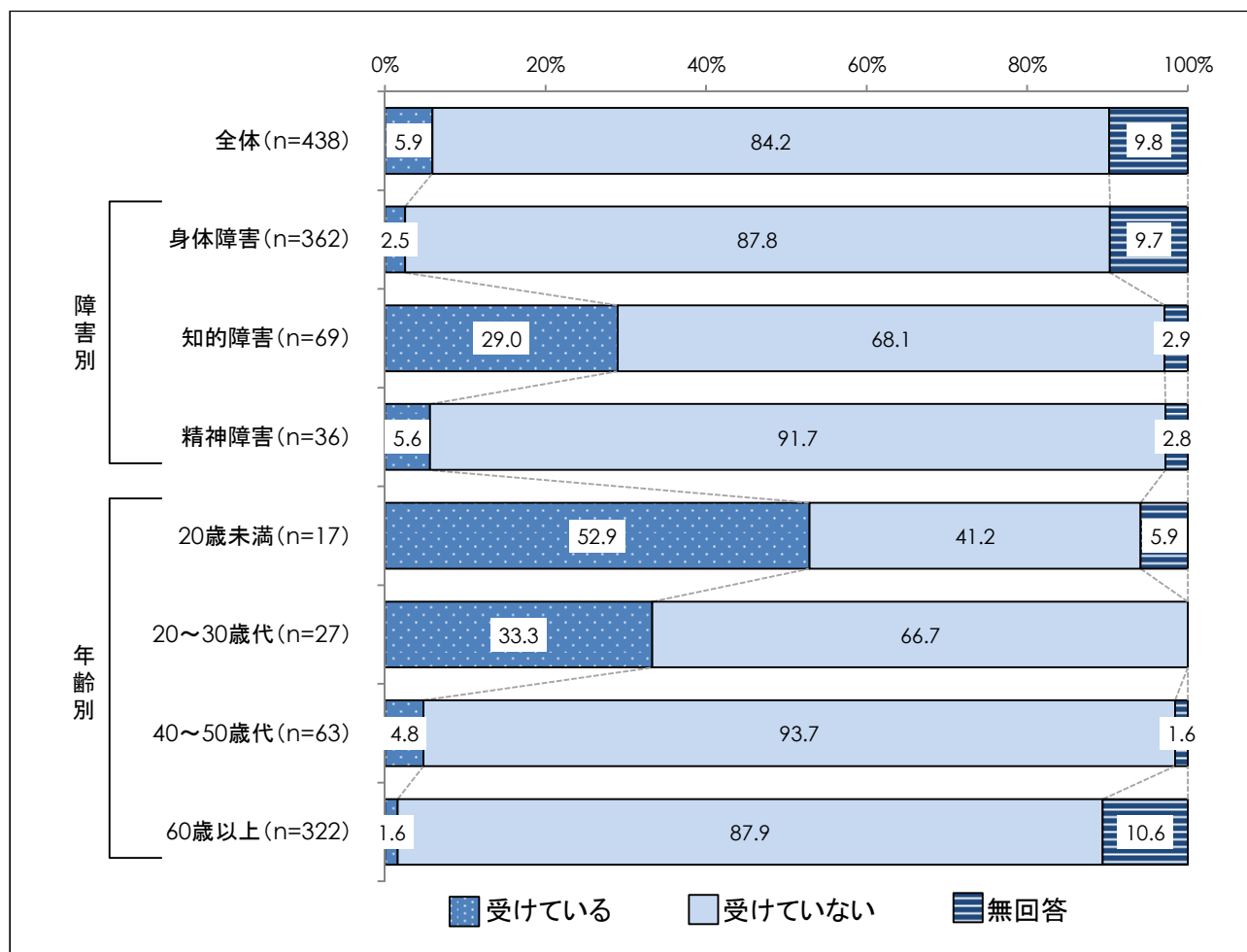
発達障害の診断の有無についてたずねたところ、全体では「受けている」は5.9%となっており、「受けていない」が84.2%と大半を占めています。

【属性別の傾向】

障害別にみると、「受けている」の割合は、身体障害では2.5%、精神障害では5.6%と低くなっています。一方、知的障害では「受けている」が29.0%となっており、身体、精神障害に比べ、発達障害と診断されている人が多くなっています。

年齢別にみると、年齢が若いほど「受けている」の割合が高く、20～30歳代では33.3%、20歳未満では52.9%と高くなっています。

図表 9 発達障害の診断の有無（全体、障害別、年齢別）



問 11 あなたは、高次脳機能障害として診断されたことがありますか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

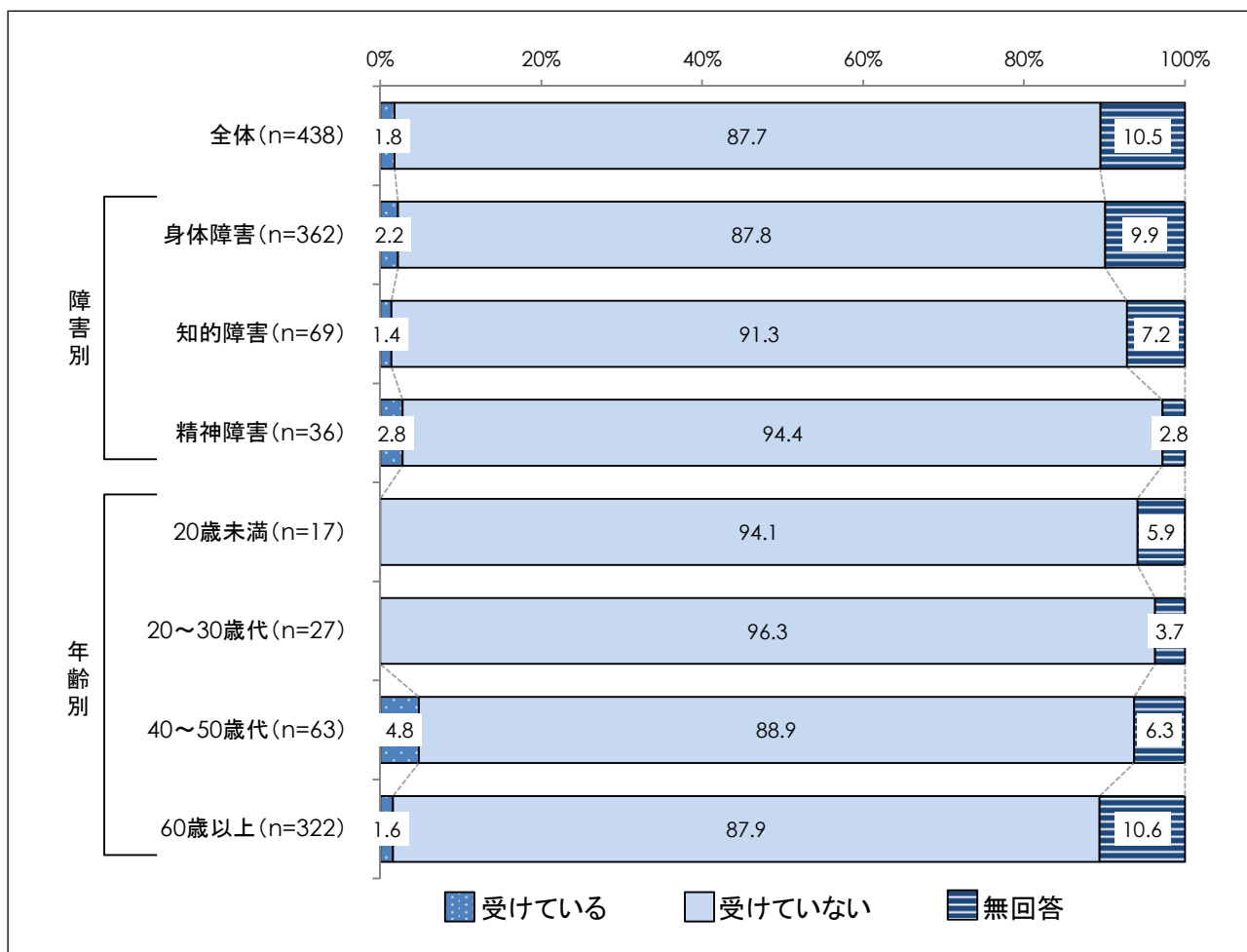
高次脳機能障害としての診断の有無についてたずねたところ、全体では「受けている」は 1.8%となっており、「受けていない」が 87.7%と大半を占めています。

【属性別の傾向】

障害別にみると、「受けている」の割合は、身体障害では 2.2%、知的障害では 1.4%、精神障害では 2.8%と低くなっており、割合に大差はみられません。

年齢別にみると、「受けている」の割合は、40～50歳代で 4.8%、60歳以上で 1.6%となっています。若年層では「受けていない」が大半を占め、9割を超えています。

図表 10 高次脳機能障害の診断の有無（全体、障害別、年齢別）



(5) 通院などで困っていること

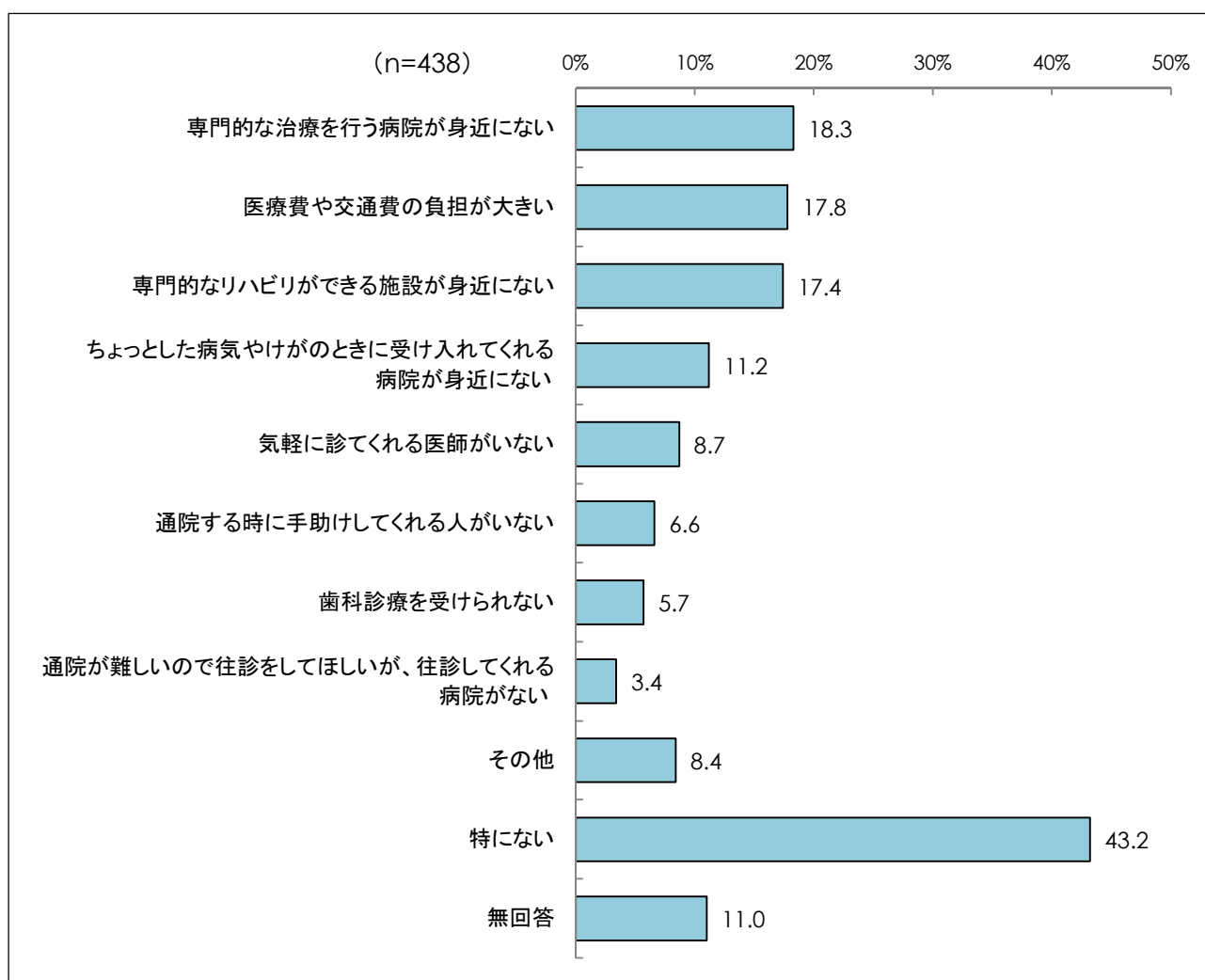
問 12 あなたは、通院などで困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

通院などで困っていることについてたずねたところ、「特にない」が43.2%となっており、通院の際に困っていることはあまりない人が4割を超えています。

また、困っていることがあると回答した人の内容についてみると、「専門的な治療を行う病院が身近にない」(18.3%)、「医療費や交通費の負担が大きい」(17.8%)、「専門的なりハビリができる施設が身近にない」(17.4%)、「ちょっとした病気やけがのときに受け入れてくれる病院が身近にない」(11.2%)、「気軽に診てくれる医師がいない」(8.7%) などとなっています。

図表 11 通院などで困っていること (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害、知的障害では「専門的な治療を行う病院が身近にない」、「専門的なリハビリができる施設が身近にない」などが第2位、第3位にあげられています。

精神障害では「医療費や交通費の負担が大きい」（30.6%）が第2位、「専門的なリハビリができる施設が身近にない」、「ちょっとした病気やけがのときに受け入れてくれる病院が身近にない」（同率13.9%）が第3位となっています。

図表 12 通院などで困っていること（全体、障害別／複数回答）

＜上位3位／単位：％＞

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		特にな 43.2	専門的な治療を行う病院が身近にない 18.3	医療費や交通費の負担が大きい 17.8
障害別	身体障害 (n=362)	特にな 45.0	・専門的な治療を行う病院が身近にない ・専門的なリハビリができる施設が身近にない	17.7
	知的障害 (n=69)	特にな 36.2	専門的な治療を行う病院が身近にない 27.5	専門的なリハビリができる施設が身近にない 23.2
	精神障害 (n=36)	特にな 41.7	医療費や交通費の負担が大きい 30.6	・専門的なリハビリができる施設が身近にない ・ちょっとした病気やけがのときに受け入れてくれる病院が身近にない 13.9

(6) 介護保険サービスの利用の有無

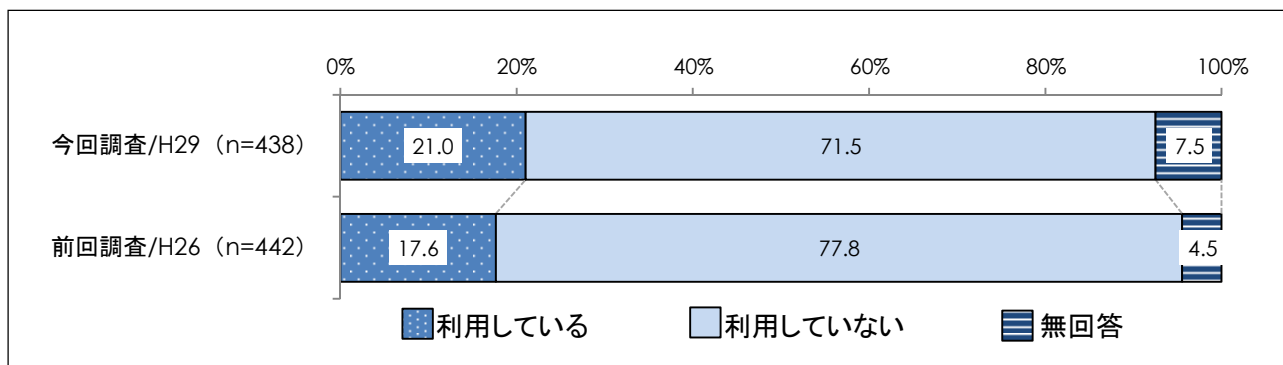
問 13 あなたは、介護保険によるサービスを利用していますか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

介護保険サービスの利用の有無については、全体では「利用している」が 21.0%となっており、約 2割の人が介護保険サービスを利用しています。

前回調査と比較すると、「利用している」の割合は 3.4 ポイント増加しています。

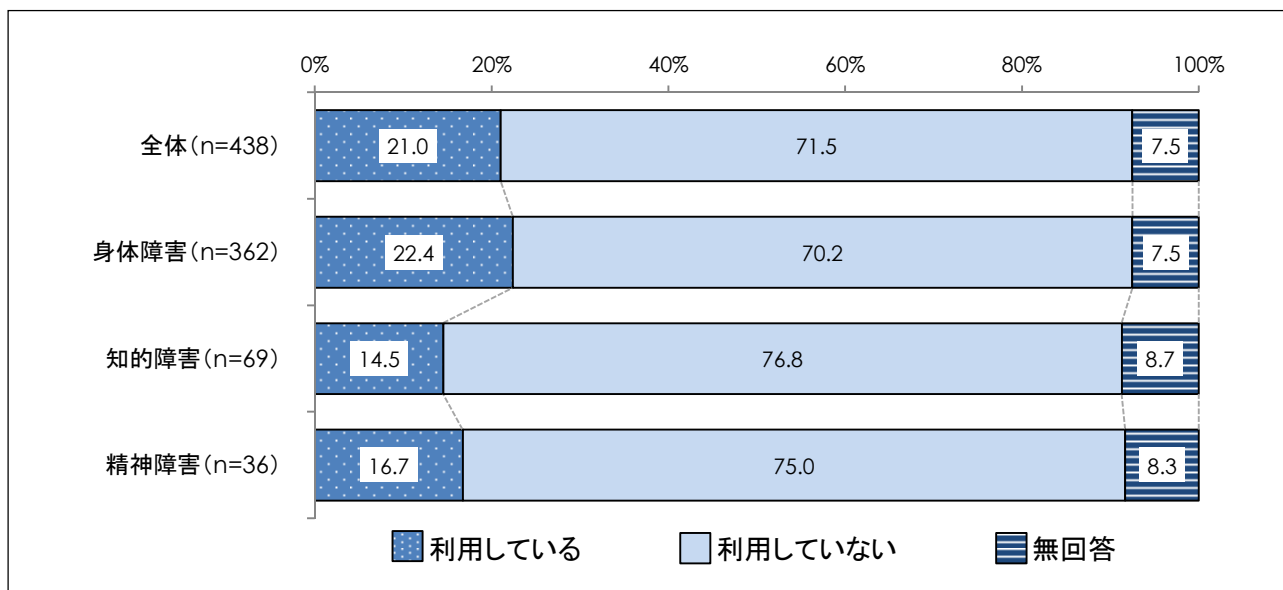
図表 13 介護保険サービスの利用の有無（全体、前回との比較）



【属性別の傾向】

障害別にみると、「利用している」の割合は、身体障害では 22.4%、知的障害では 14.5%、精神障害では 16.7%となっており、身体障害で介護保険サービスの利用率が 2割を超えています。

図表 14 介護保険サービスの利用の有無（全体、障害別）



(7) 現在の暮らしについて

問 14 あなたは、現在どのように暮らしていますか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

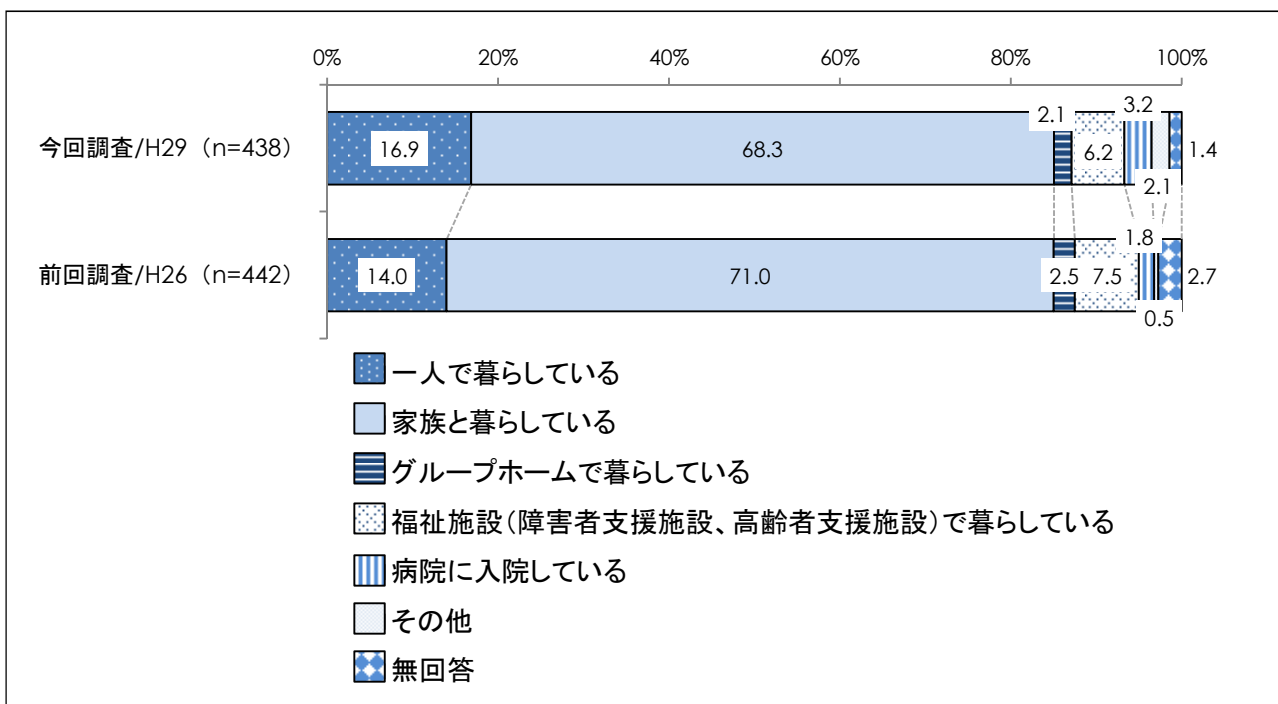
現在の暮らしの状況をたずねたところ、全体では「家族と暮らしている」が 68.3%と最も高くなっており、約7割の人が家族と一緒に暮らしています。

次いで「一人で暮らしている」が 16.9%、「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている」（6.2%）、「病院に入院している」（3.2%）、「グループホームで暮らしている」、「その他」（同率 2.1%）などとなっています。

施設やグループホーム、病院など自宅以外で暮らしている人が約1割を占めています。

前回調査と比較すると、「一人で暮らしている」の割合が 2.9 ポイント増加、「家族と暮らしている」が 2.7 ポイント減少しています。

図表 15 現在の暮らしの状況（全体、前回との比較）

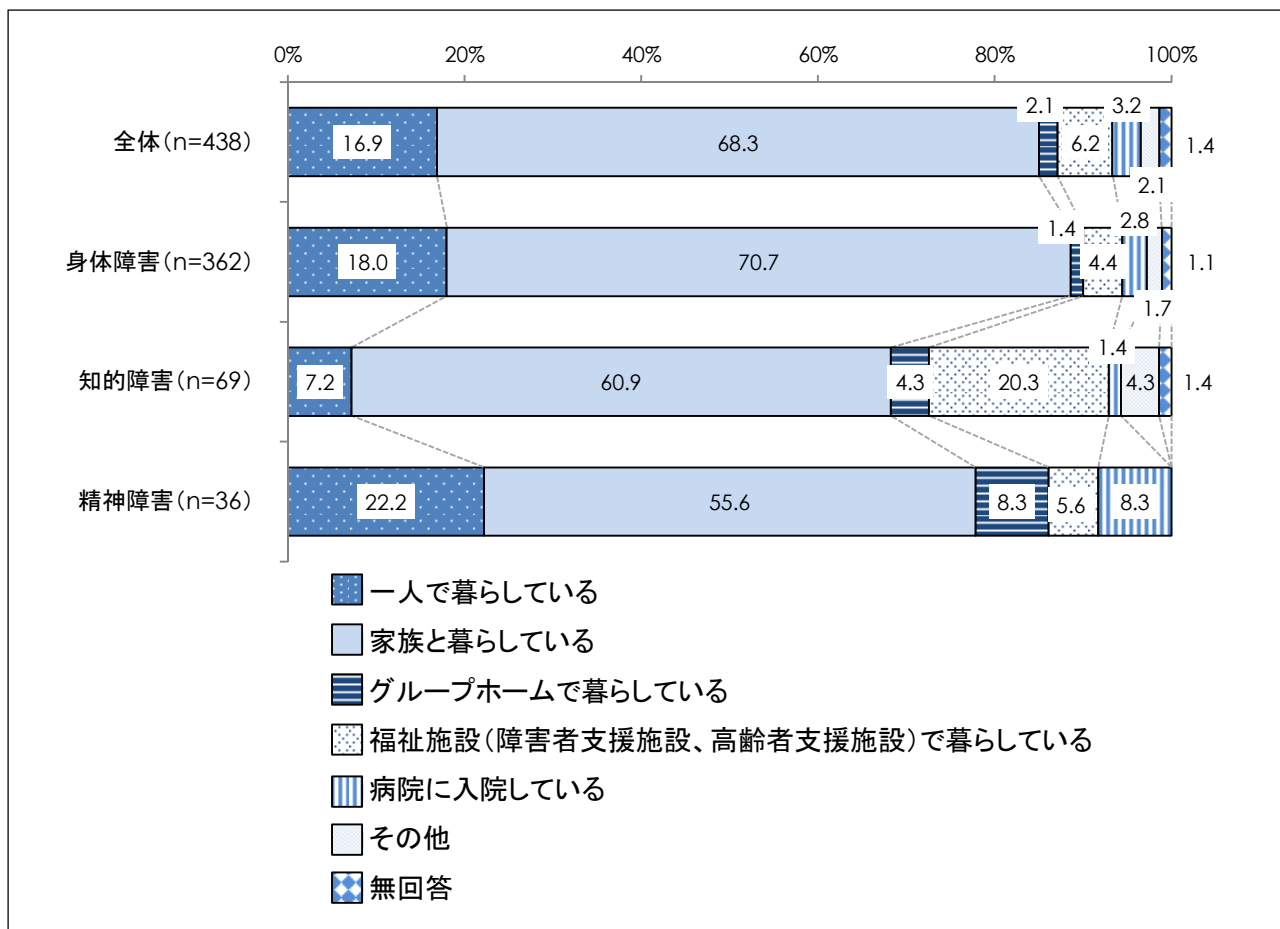


【属性別の傾向】

障害別にみると、「家族と暮らしている」の割合が高くなっていますが、その割合は身体障害では70.7%、知的障害では60.9%、精神障害では55.6%となっており、身体障害で最も高くなっています。

また、知的障害では「一人で暮らしている」(7.2%)の割合が他の障害に比べて低く、「福祉施設(障害者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしている」(20.3%)の割合が高くなっています。

図表 16 現在の暮らしの状況 (全体、障害別)



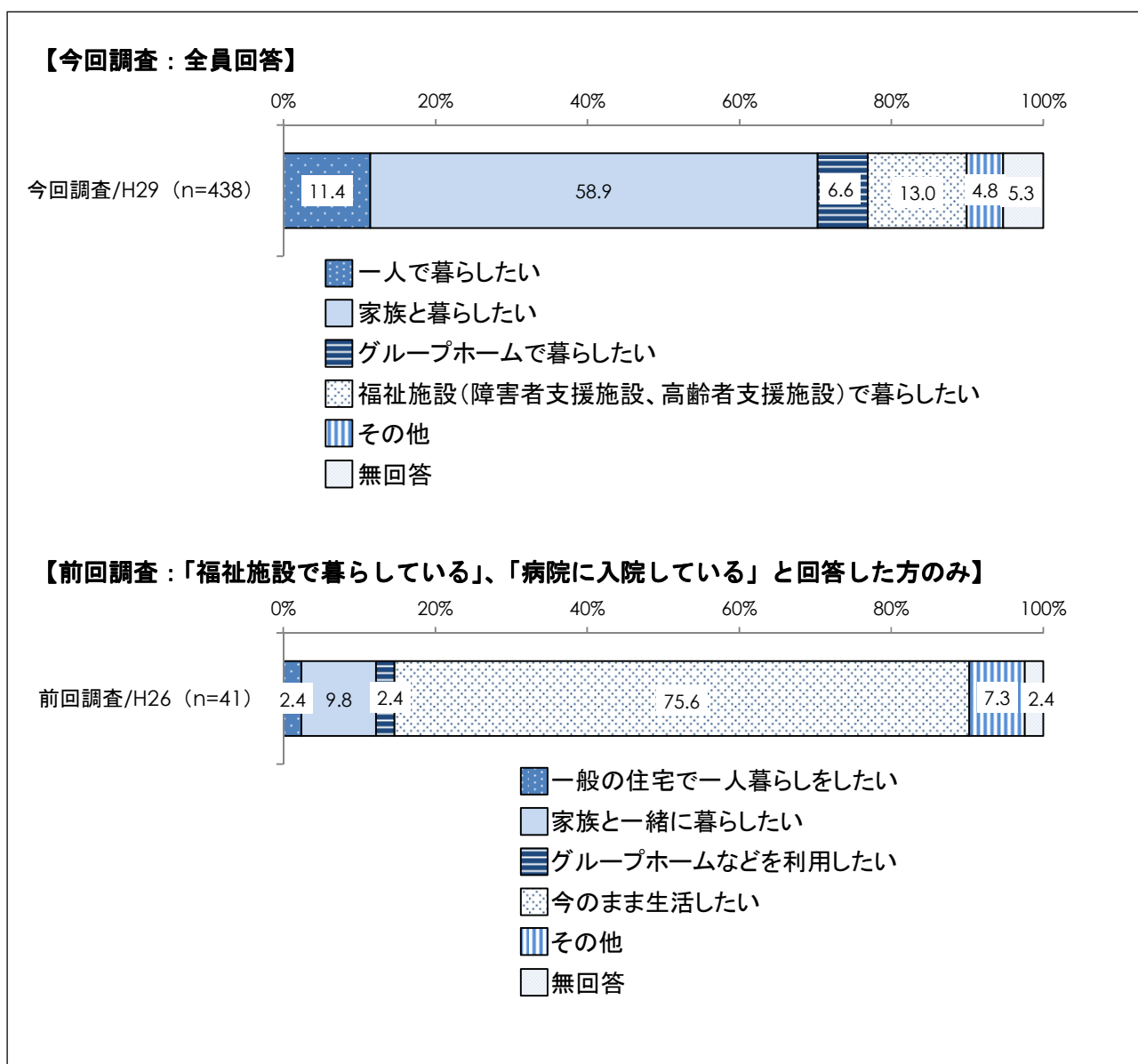
問 15 あなたは、将来ずっと暮らし続ける場所（終の住処）として、どこを希望しますか。（〇はひとつだけ）

【全体の傾向】

将来暮らし続けたい場所についてたずねたところ、「家族と暮らしたい」が58.9%と最も高く、次いで「福祉施設(障害者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしたい」(13.0%)、「一人で暮らしたい」(11.4%)、「グループホームで暮らしたい」(6.6)となっています。

前回調査では回答者が制限されており、選択肢に少し違いがみられるため、参考として掲載しています。

図表 17 将来暮らし続けたい場所（全体、前回との比較<参考>）



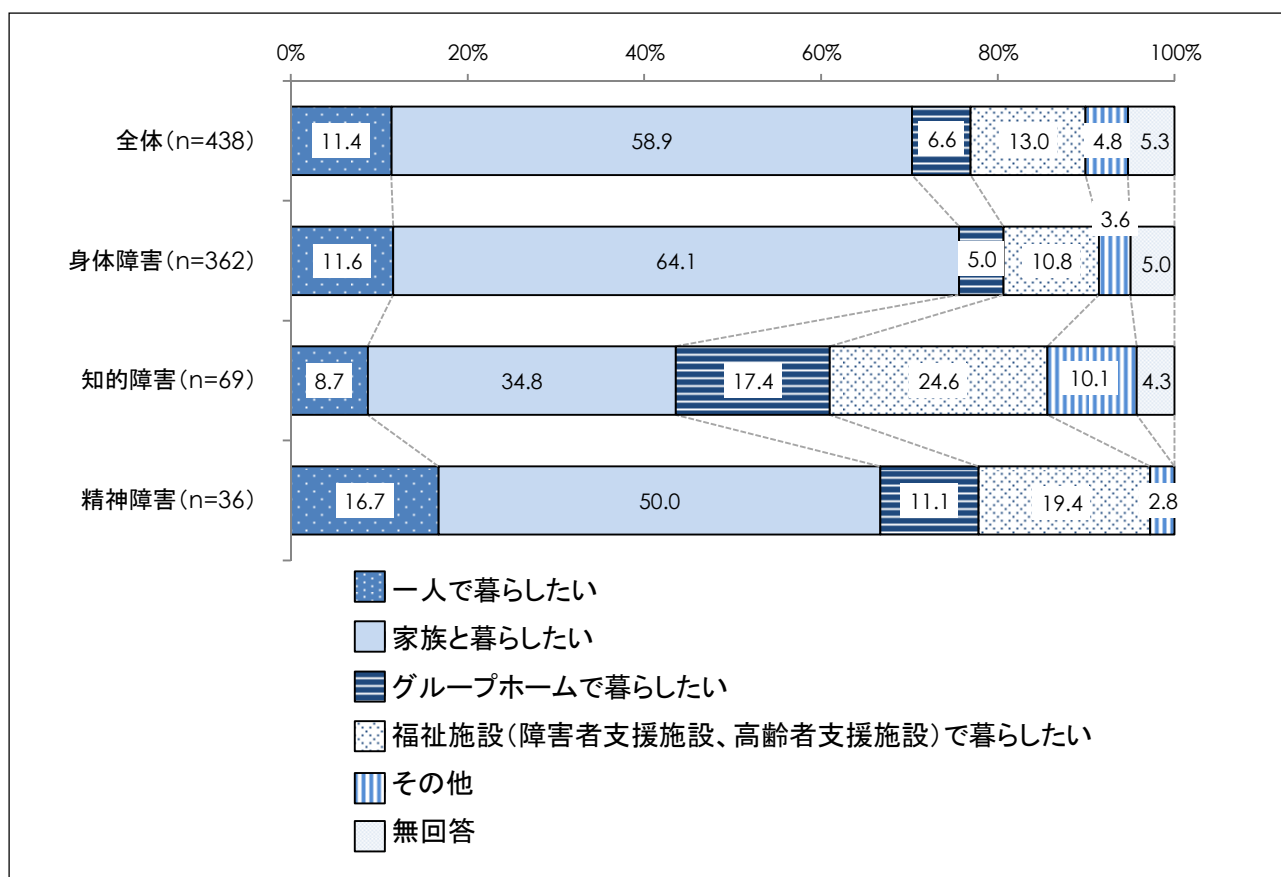
【属性別の傾向】

障害別にみると、「家族と暮らしたい」がそれぞれ最も高くなっていますが、その割合は違いがみられ、身体障害では64.1%と6割を超えています。知的障害では34.8%とやや低くなっています。

次いで、知的障害では「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい」（24.6%）、「グループホームで暮らしたい」（17.4%）と続いており、精神障害では「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい」（19.4%）、「一人で暮らしたい」（16.7%）と続いています。

知的障害や精神障害では福祉施設やグループホームで暮らしたい人の割合が、身体障害に比べて高くなっています。

図表 18 将来暮らし続けたい場所（全体、障害別）



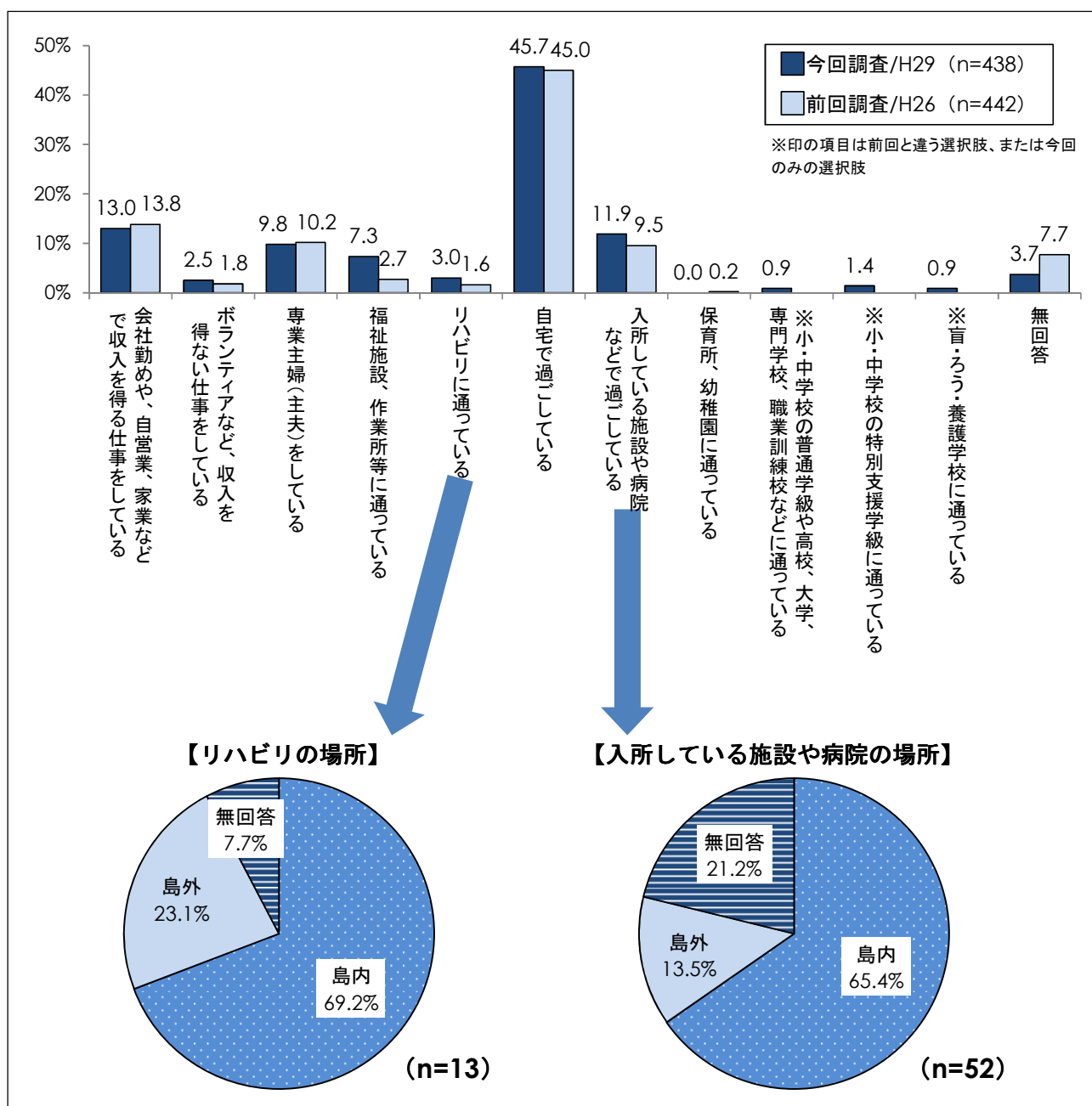
問 16 あなたは、ふだん昼間は、どのように過ごしていますか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

日中の過ごし方についてたずねたところ、「自宅で過ごしている」(45.7%)が最も高く、4割以上を占めています。また、「リハビリに通っている」は3.0%、そのうちリハビリの場所が「島内」の人は69.2%となっています。また、「入所している施設や病院などで過ごしている」は11.9%、そのうち施設や病院の場所が「島内」の人は65.4%となっています。

前回調査と比較すると、前回同様の結果となっており、割合に大差はみられません。

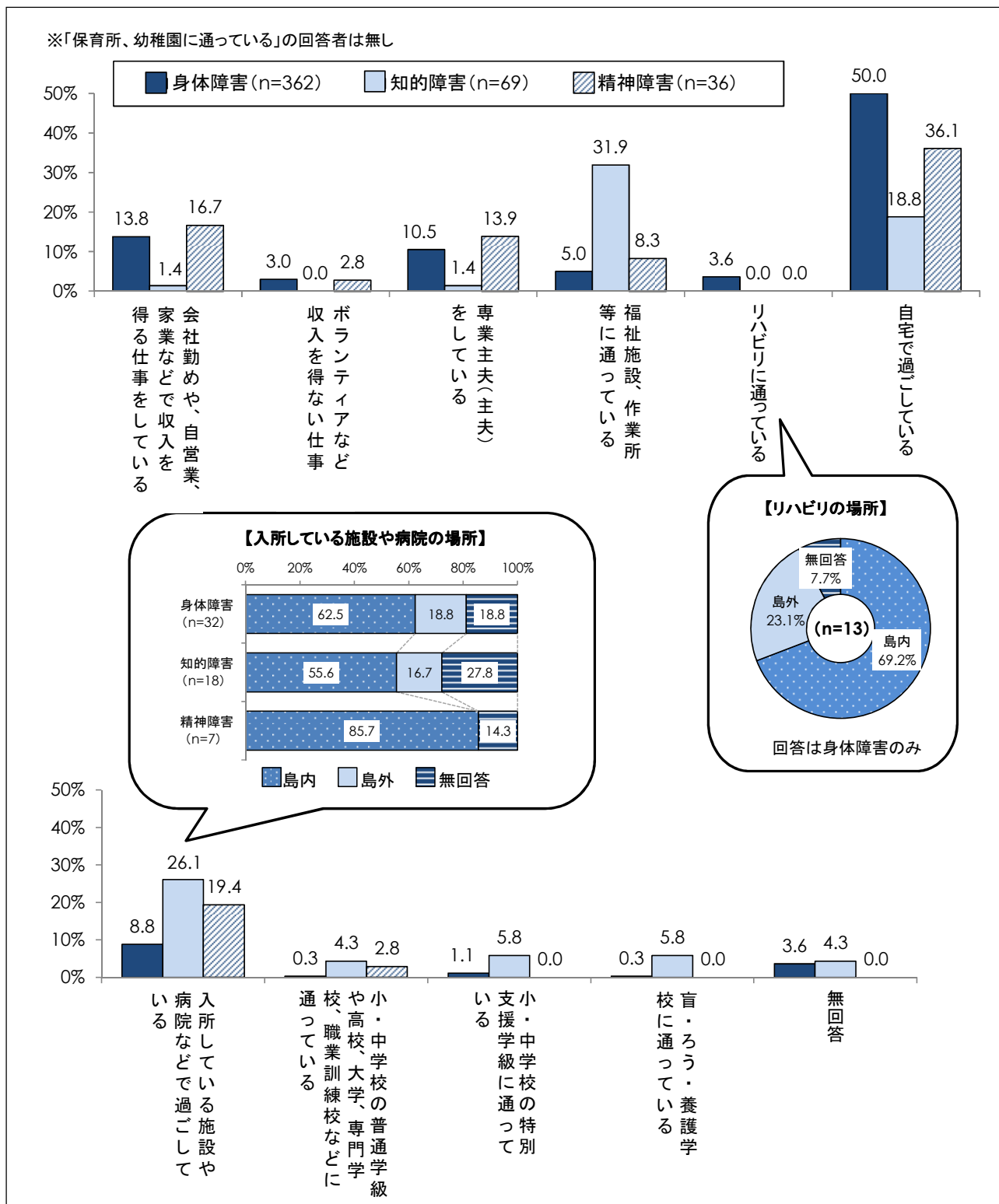
図表 19 日中の過ごし方 (全体、前回との比較)



【属性別の傾向 障害別】

障害別にみると、身体障害、精神障害では「自宅で過ごしている」人が多く、知的障害では「福祉施設、作業所等に通っている」人が多くなっています。また「入所している施設や病院などで過ごしている」人の施設や病院の場所は、どの障害においても「島内」が多く、「島外」は2割未満となっています。

図表 20 日中の過ごし方（障害別）

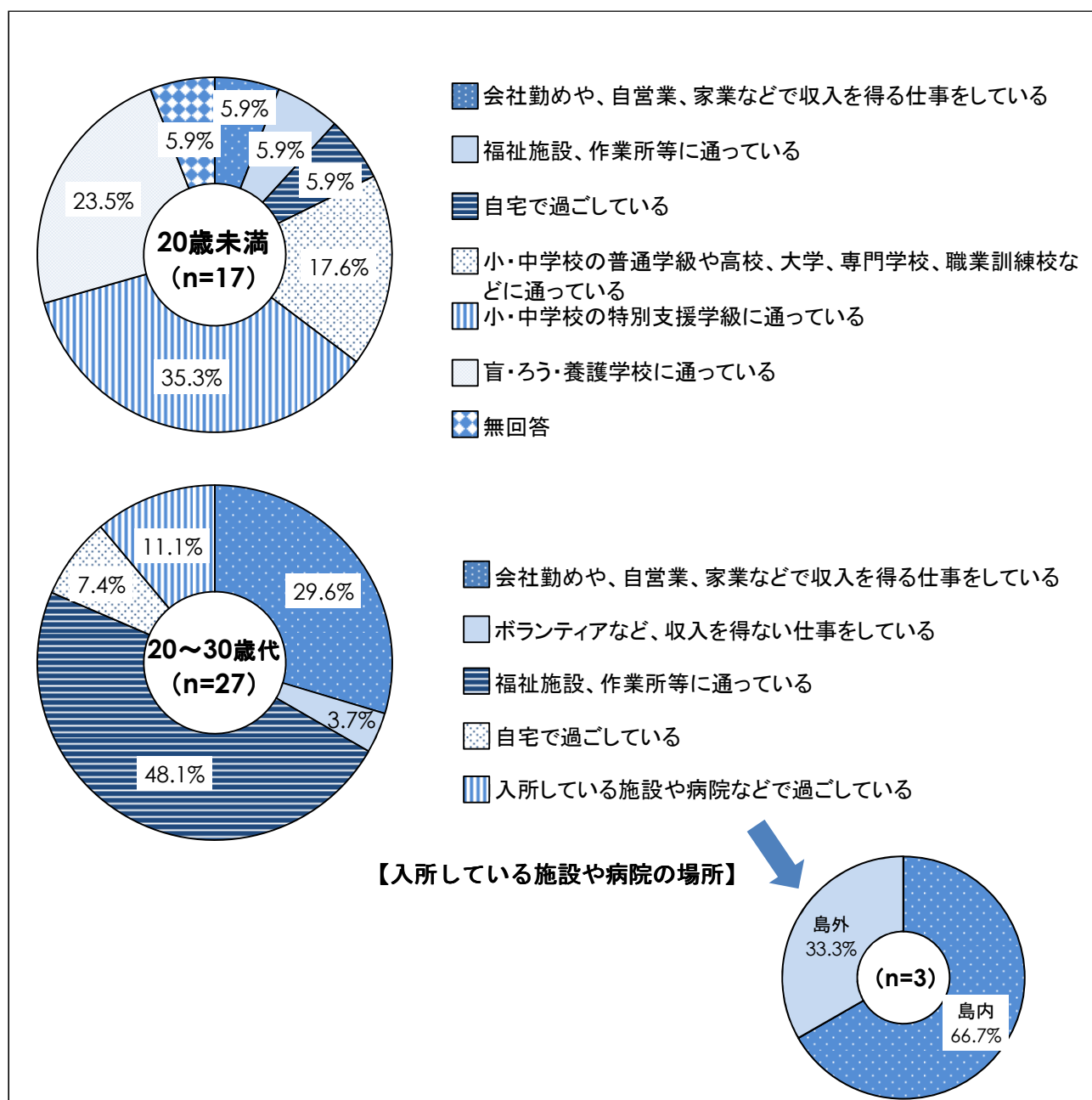


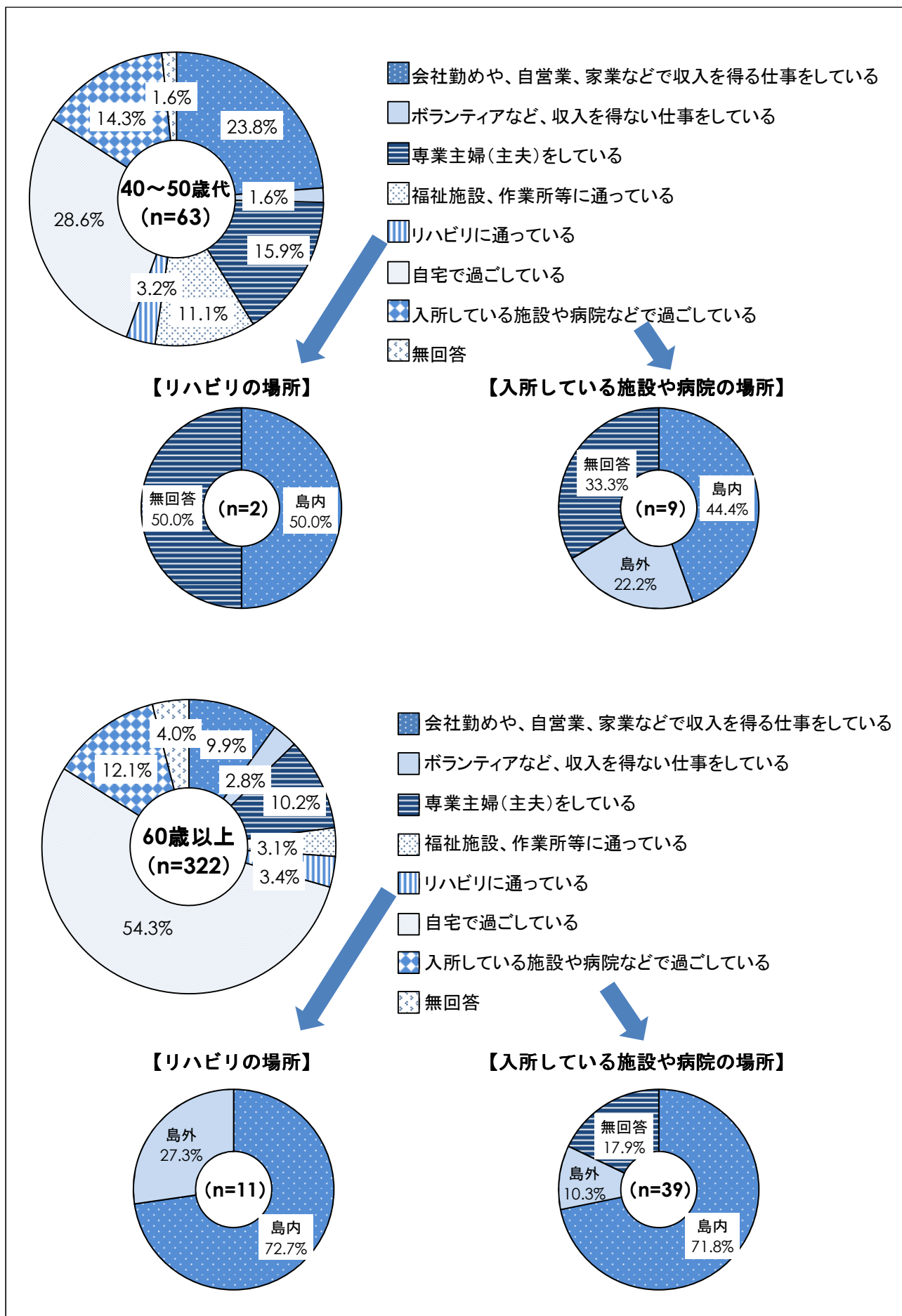
【属性別の傾向 年齢別】

年齢別に日中の過ごし方みると、割合の高い項目は、20歳未満では「小・中学校の特別支援学級に通っている」(35.3%)、「盲・ろう・養護学校に通っている」(23.5%)、20～30歳代では「福祉施設、作業所等に通っている」(48.1%)、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」(29.6%)、40～50歳代では「自宅で過ごしている」(28.6%)、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」(23.8%)、60歳以上では「自宅で過ごしている」(54.3%) などとなっています。また、リハビリや入所している施設等の場所については、すべての年齢層において「島内」の割合が高くなっています。

※年齢別では0.0%の項目が多く見られるため、0.0%の数値、選択肢はグラフ上では表示されていません。

図表 21 日中の過ごし方（年齢別）





図表 22 日中の過ごし方（構成比：単位％）

(単位：％)		で会社、収入を得て仕事をしている	ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている	専業主婦（主夫）をしている	福祉施設、作業所等に通っている	リハビリに通っている	自宅で過ごしている	入所している施設や病院などで過ごしている	保育所、幼稚園に通っている	小・中学校の普通学級や高校、大学、専門学校、職業訓練校などに通っている	小・中学校の特別支援学級に通っている	盲・ろう・養護学校に通っている	無回答
		全体 (n=438)		13.0	2.5	9.8	7.3	3.0	45.7	11.9	-	0.9	1.4
障害別	身体障害 (n=362)	13.8	3.0	10.5	5.0	3.6	50.0	8.8	-	0.3	1.1	0.3	3.6
	知的障害 (n=69)	1.4	-	1.4	31.9	-	18.8	26.1	-	4.3	5.8	5.8	4.3
	精神障害 (n=36)	16.7	2.8	13.9	8.3	-	36.1	19.4	-	2.8	-	-	-
年齢別	20歳未満 (n=17)	5.9	-	-	5.9	-	5.9	-	-	17.6	35.3	23.5	5.9
	20～30歳代 (n=27)	29.6	3.7	-	48.1	-	7.4	11.1	-	-	-	-	-
	40～50歳代 (n=63)	23.8	1.6	15.9	11.1	3.2	28.6	14.3	-	-	-	-	1.6
	60歳以上 (n=322)	9.9	2.8	10.2	3.1	3.4	54.3	12.1	-	-	-	-	4.0

【リハビリに通っている】

(単位：％)		島内	島外	無回答
全体 (n=13)		69.2	23.1	7.7
障害別	身体障害 (n=13)	69.2	23.1	7.7
	知的障害	-	-	-
	精神障害	-	-	-
年齢別	20歳未満	-	-	-
	20～30歳代	-	-	-
	40～50歳代 (n=2)	50.0	-	50.0
	60歳以上 (n=11)	72.7	27.3	-

【入所している施設や病院などで過ごしている】

(単位：％)		島内	島外	無回答
全体 (n=52)		65.4	13.5	21.2
障害別	身体障害 (n=32)	62.5	18.8	18.8
	知的障害 (n=18)	55.6	16.7	27.8
	精神障害 (n=7)	85.7	-	14.3
年齢別	20歳未満	-	-	-
	20～30歳代 (n=3)	66.7	33.3	-
	40～50歳代 (n=9)	44.4	22.2	33.3
	60歳以上 (n=39)	71.8	10.3	17.9

3 困り事に対する相談について

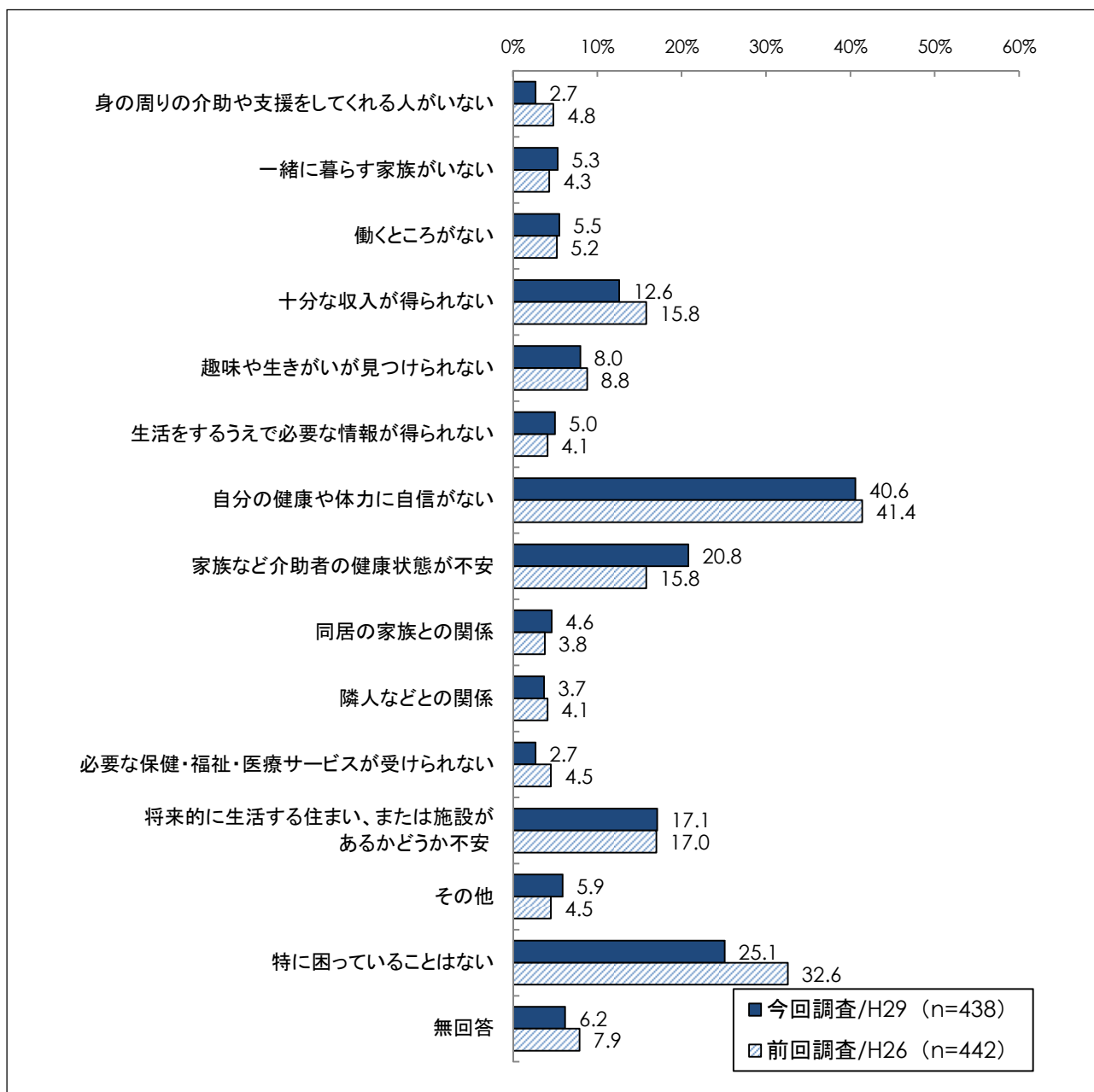
(1) 現在の生活において困っていること

問 17 現在の生活で、困っていることや不安に思っていることがありますか。(おもなものを3つまで)

【全体の傾向】

現在の生活で困っていることなどをたずねたところ、「自分の健康や体力に自信がない」(40.6%)が最も多く、次いで「特に困っていることはない」(25.1%)、「家族など介助者の健康状態が不安」(20.8%)、「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」(17.1%)などとなっています。前回調査と比較すると、「家族など介助者の健康状態が不安」が5.0ポイント増加しています。

図表 23 現在の生活において困っていること (全体、前回との比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「自分の健康や体力に自信がない」（42.0％）が第1位、次いで「特に困っていることはない」（27.3％）が第2位、「家族など介助者の健康状態が不安」（20.8％）が第3位となっています。

知的障害では「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」（36.2％）が第1位、次いで「家族など介助者の健康状態が不安」（20.3％）、「自分の健康や体力に自信がない」（17.4％）の順となっています。

精神障害では身体障害同様「自分の健康や体力に自信がない」が第1位となっていますが、その割合は52.8％となっており、半数以上の方が健康に不安を抱えています。次いで「家族など介助者の健康状態が不安」（25.0％）が第2位、「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」、「特に困っていることはない」（同率19.4％）が第3位となっています。

図表 24 現在の生活において困っていること（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		自分の健康や体力に自信がない 40.6	特に困っていることはない 25.1	家族など介助者の健康状態が不安 20.8
障害別	身体障害 (n=362)	自分の健康や体力に自信がない 42.0	特に困っていることはない 27.3	家族など介助者の健康状態が不安 20.8
	知的障害 (n=69)	将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安 36.2	家族など介助者の健康状態が不安 20.3	自分の健康や体力に自信がない 17.4
	精神障害 (n=36)	自分の健康や体力に自信がない 52.8	家族など介助者の健康状態が不安 25.0	・将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安 ・特に困っていることはない 19.4

(2) 悩みや困ったことの相談先

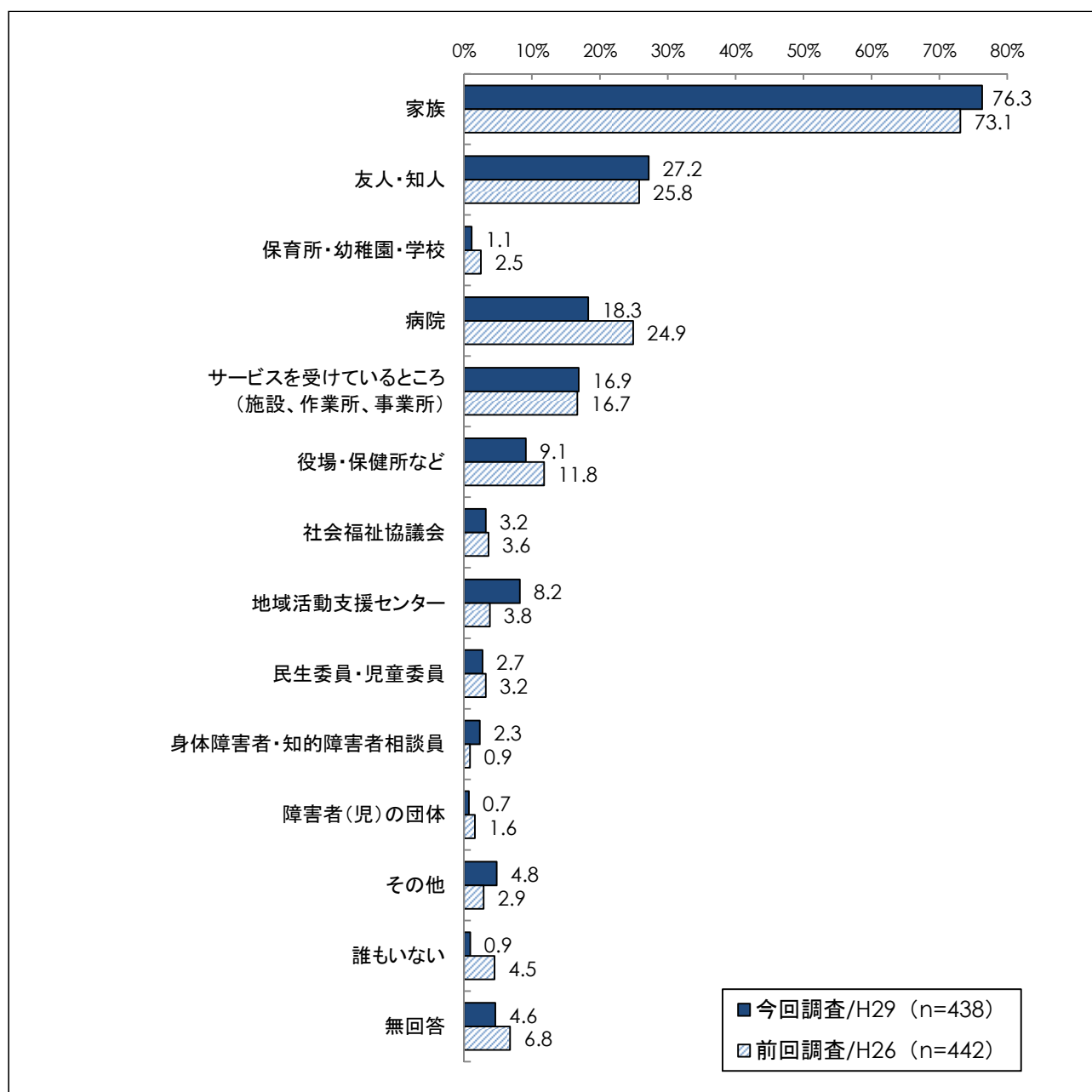
問 18 悩みや困ったことを相談するのは、誰ですか。(おもなもの3つまで○)

【全体の傾向】

悩みや困ったことの相談先についてたずねたところ、「家族」が76.3%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「友人・知人」(27.2%)、「病院」(18.3%)、「サービスを受けているところ(施設、作業所、事業所)」(16.9%)などとなっています。

前回調査と比較すると、「病院」は前回より6.6ポイント減少しています。一方、「地域活動支援センター」は4.4ポイント増加し、今回調査では8.2%となっています。

図表 25 悩みや困ったことの相談先(全体、前回との比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では第1位が「家族」（80.7%）となっており、大半の人が家族に相談しています。次いで「友人・知人」（28.7%）、「病院」（17.4%）となっています。

知的障害では、「サービスを受けているところ（施設、作業所、事業所）」が53.6%で第1位、次いで「家族」（49.3%）が第2位、「友人・知人」（13.0%）が第3位となっています。

精神障害では「家族」（61.1%）が第1位、次いで「病院」（38.9%）、「友人・知人」（30.6%）となっています。

身体障害に比べ、知的障害では施設などのサービスを受けている場所、精神障害では病院などに相談する人の割合が高くなっています。

図表 26 悩みや困ったことの相談先（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：%>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		家族 76.3	友人・知人 27.2	病院 18.3
障害別	身体障害 (n=362)	家族 80.7	友人・知人 28.7	病院 17.4
	知的障害 (n=69)	サービスを受けているところ(施設、作業所、事業所) 53.6	家族 49.3	友人・知人 13.0
	精神障害 (n=36)	家族 61.1	病院 38.9	友人・知人 30.6

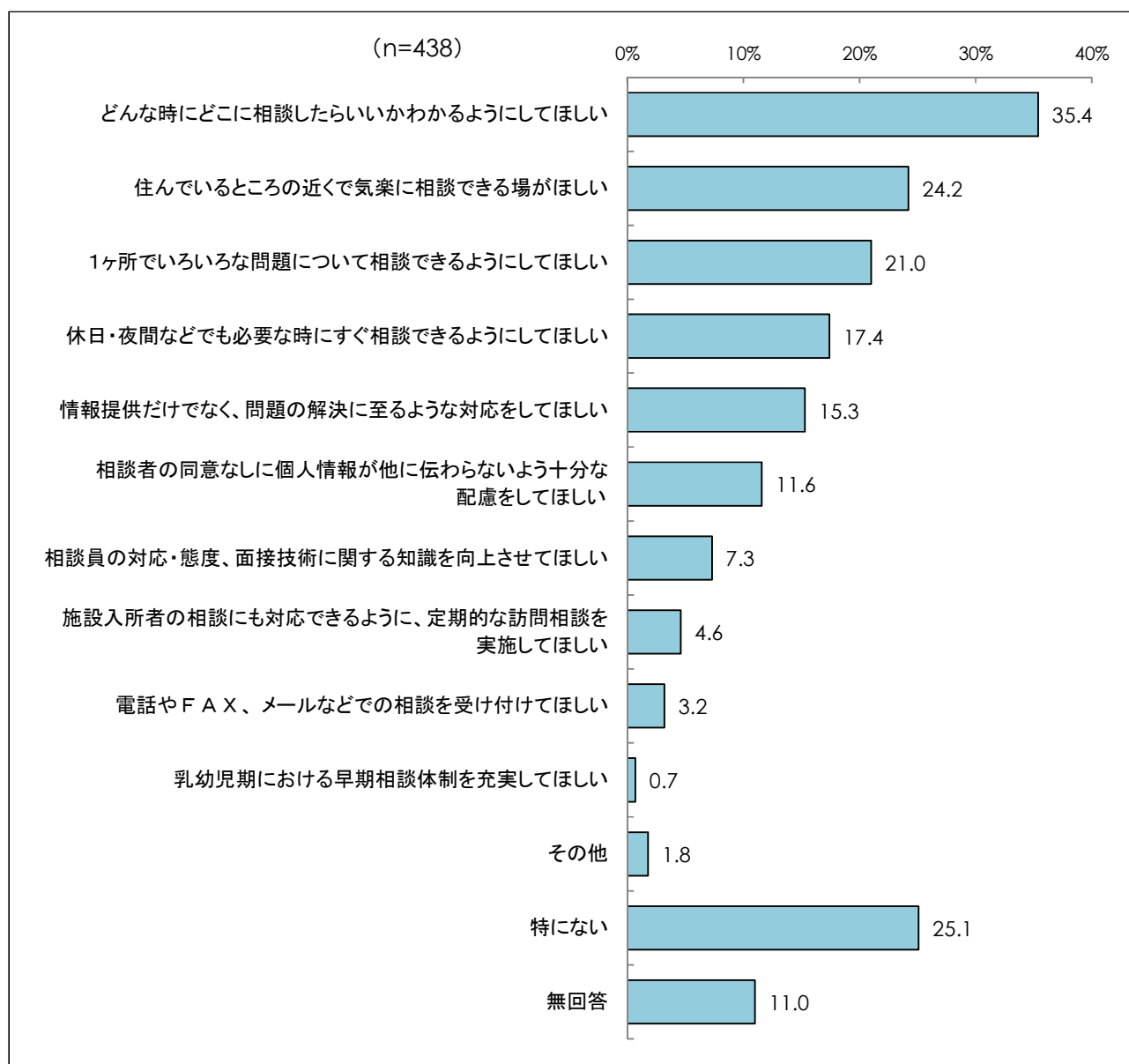
(3) 相談体制に関する要望

問 19 今後、障害者福祉や生活に関する相談体制として、どのようなことを希望しますか。(おもなもの3つまで)

【全体の傾向】

相談機関に相談しやすい体制をつくるために必要なことについてたずねたところ、「どんな時にどこに相談したらいいかわかるようにしてほしい」が35.4%と最も多く、次いで「住んでいるところの近くで気軽に相談できる場がほしい」(24.2%)、「1ヶ所でいろいろな問題について相談できるようにしてほしい」(21.0%)、「休日・夜間などでも必要な時にすぐ相談できるようにしてほしい」(17.4%)、「情報提供だけでなく、問題の解決に至るような対応をしてほしい」(15.3%)などとなっています。一方、「特にない」は25.1%となっており、全体では第2位の割合となっています。

図表 27 相談体制に関する要望（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「住んでいるところの近くで気軽に相談できる場がほしい」が22.7%で第3位となっています。また、知的障害では「1ヶ所でいろいろな問題について相談できるようにしてほしい」が23.2%で第2位となっています。また、精神障害では、「休日・夜間などでも必要な時にすぐに相談できるようにしてほしい」(36.1%)が第2位となっています。

図表 28 相談体制に関する要望（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		どんな時にどこに相談したらいいかわかるようにしてほしい	特にない	住んでいるところの近くで気軽に相談できる場がほしい
		35.4	25.1	24.2
障害別	身体障害 (n=362)	どんな時にどこに相談したらいいかわかるようにしてほしい	特にない	住んでいるところの近くで気軽に相談できる場がほしい
		35.1	26.5	22.7
	知的障害 (n=69)	どんな時にどこに相談したらいいかわかるようにしてほしい	1ヶ所でいろいろな問題について相談できるようにしてほしい	特にない
		34.8	23.2	18.8
	精神障害 (n=36)	どんな時にどこに相談したらいいかわかるようにしてほしい	休日・夜間などでも必要な時にすぐ相談できるようにしてほしい	・住んでいるところの近くで気軽に相談できる場がほしい ・特にない
		44.4	36.1	25.0

4 介助者について

(1) 主な介助者と介助者の年齢や健康状態

問 20 あなたの主な介助者は誰ですか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

主な介助者についてたずねたところ、「配偶者（妻・夫）」が 33.3%と最も高く、次いで「子ども」（19.2%）、「父親・母親」（11.6%）などが主な介助者となっています。一方、「特にいない」は 11.9% となっています。前回調査と比較すると、同様の傾向となっています。

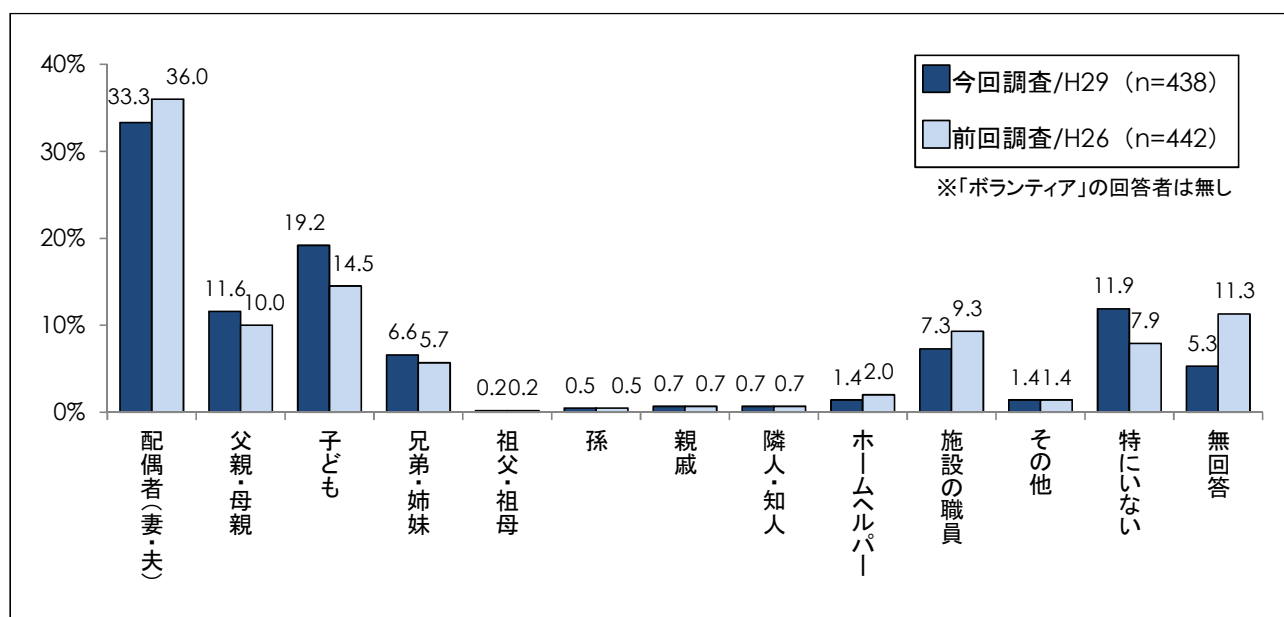
【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「配偶者（妻・夫）」（37.8%）、「子ども」（22.4%）が主な介助者となっており、知的障害では「父親・母親」（44.9%）、「施設の職員」（20.3%）、精神障害では「配偶者（妻・夫）」（27.8%）、「父親・母親」（22.2%）の割合が高くなっています。

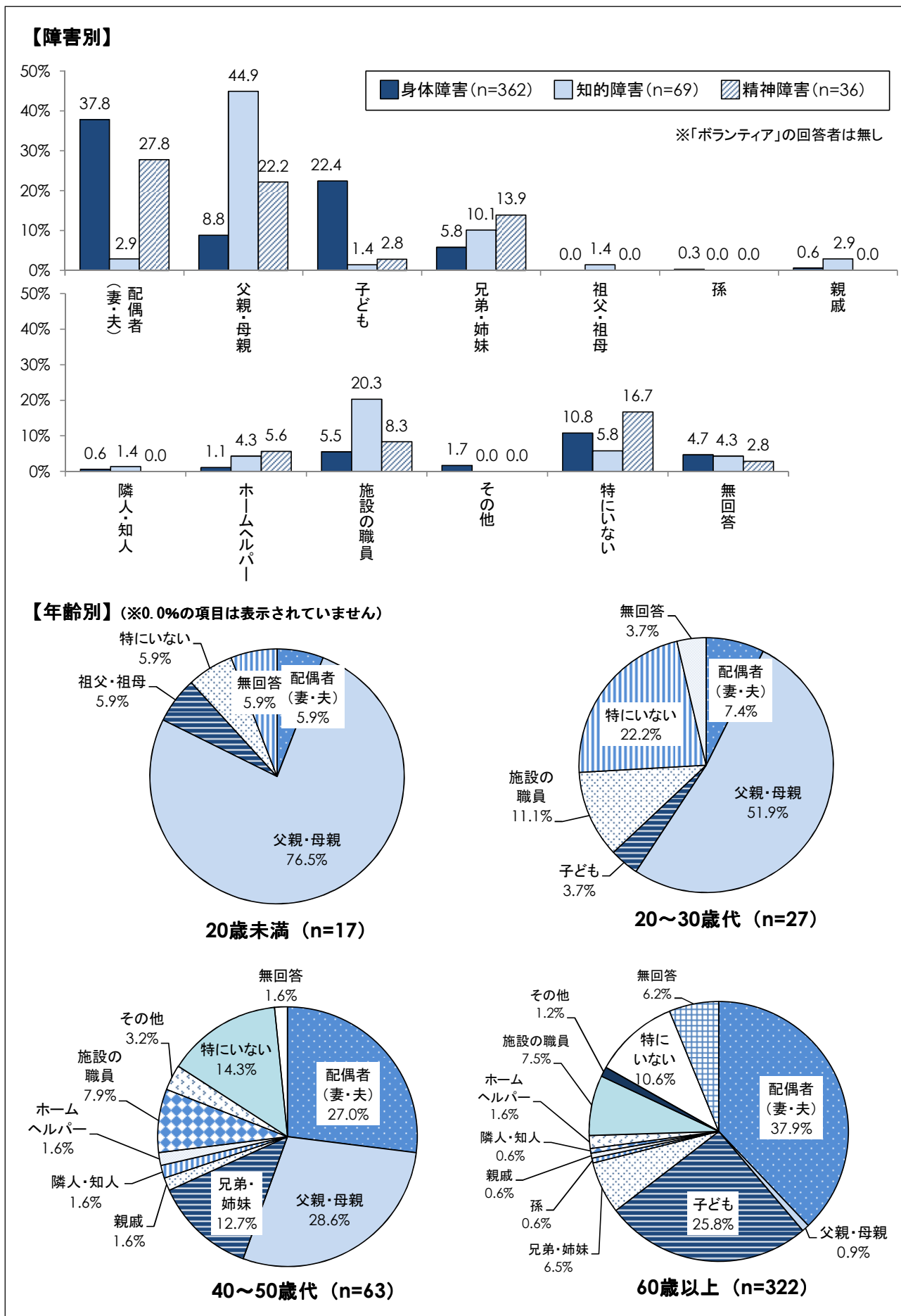
年齢別にみると、20歳未満では「父親・母親」が 76.5%を占めています。20～30歳代では「父親・母親」が 51.9%、次いで「特にいない」（22.2%）、「施設の職員」（11.1%）となっています。40～50歳代になると、「父親・母親」（28.6%）、「配偶者（妻・夫）」（27.0%）が主な介助者となっていますが、若年層に比べて「父親・母親」の割合が減少し、「配偶者（妻・夫）」の割合が増加しています。さらに60歳以上になると「配偶者（妻・夫）」が 37.9%と最も高くなり、次いで「子ども」（25.8%）となっています。

20歳未満では、両親や祖父母が主な介助者ですが、年齢上がるにつれ、配偶者や施設の職員なども介助者に加わってきています。40歳以上の年齢層になると、兄弟姉妹や親戚、ホームヘルパーなどさまざまな人が介助に携わっています。

図表 29 主な介助者（全体、前回との比較）



図表 30 主な介助者（障害別、年齢別）



図表 31 主な介助者について（構成比：単位％）

(単位：％)		配偶者 (妻・夫)	父親・母親	子ども	兄弟・姉妹	祖父・祖母	孫	親戚	隣人・知人	ホームヘルパー	施設の職員	ボランティア	その他	特にない	無回答
		全体 (n=438)	33.3	11.6	19.2	6.6	0.2	0.5	0.7	0.7	1.4	7.3	-	1.4	11.9
障害別	身体障害 (n=362)	37.8	8.8	22.4	5.8	-	0.3	0.6	0.6	1.1	5.5	-	1.7	10.8	4.7
	知的障害 (n=69)	2.9	44.9	1.4	10.1	1.4	-	2.9	1.4	4.3	20.3	-	-	5.8	4.3
	精神障害 (n=36)	27.8	22.2	2.8	13.9	-	-	-	-	5.6	8.3	-	-	16.7	2.8
年齢別	20歳未満 (n=17)	5.9	76.5	-	-	5.9	-	-	-	-	-	-	-	5.9	5.9
	20～30歳代 (n=27)	7.4	51.9	3.7	-	-	-	-	-	-	11.1	-	-	22.2	3.7
	40～50歳代 (n=63)	27.0	28.6	-	12.7	-	-	1.6	1.6	1.6	7.9	-	3.2	14.3	1.6
	60歳以上 (n=322)	37.9	0.9	25.8	6.5	-	0.6	0.6	0.6	1.6	7.5	-	1.2	10.6	6.2

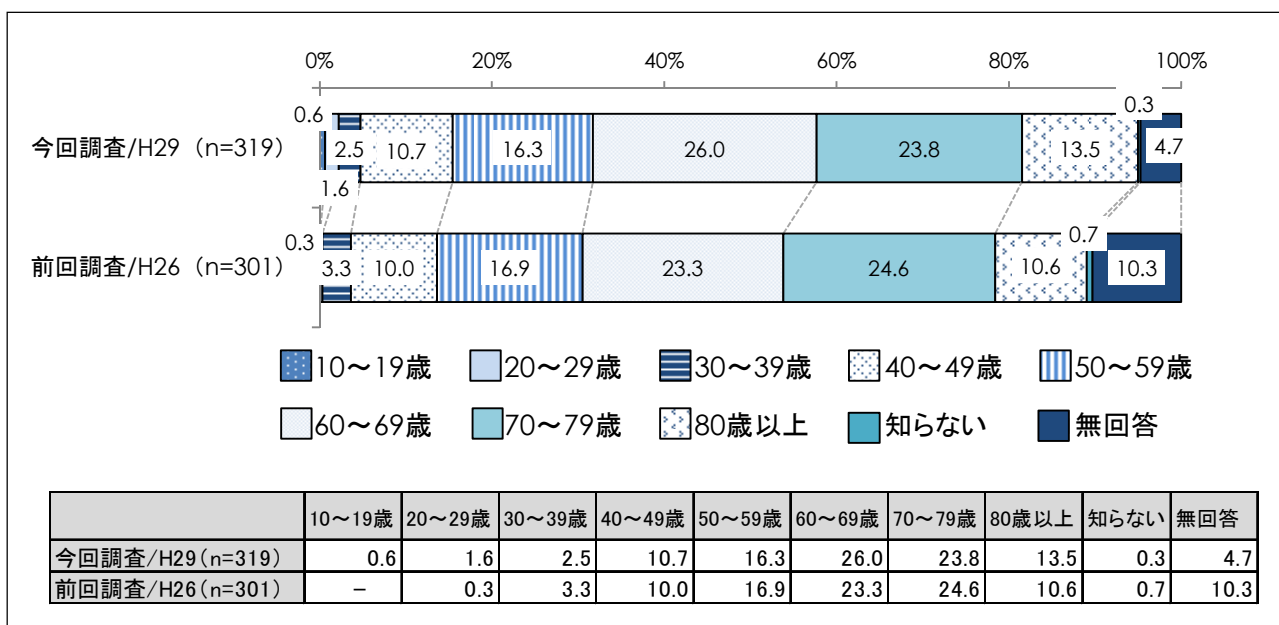
【問20で「配偶者」「父親・母親」「子ども」「兄弟・姉妹」「祖父・祖母」「孫」「親戚」「隣人・知人」と回答した方】
問20-1 あなたの主な介助者の年齢（○はひとつだけ）

【全体の傾向】

主な介助者の年齢については、「60～69歳」が26.0%と最も高く、次いで「70～79歳」（23.8%）、「50～59歳」（16.3%）となっています。

前回調査と比較すると、同様の傾向となっています。

図表 32 主な介助者の年齢（全体、前回との比較）



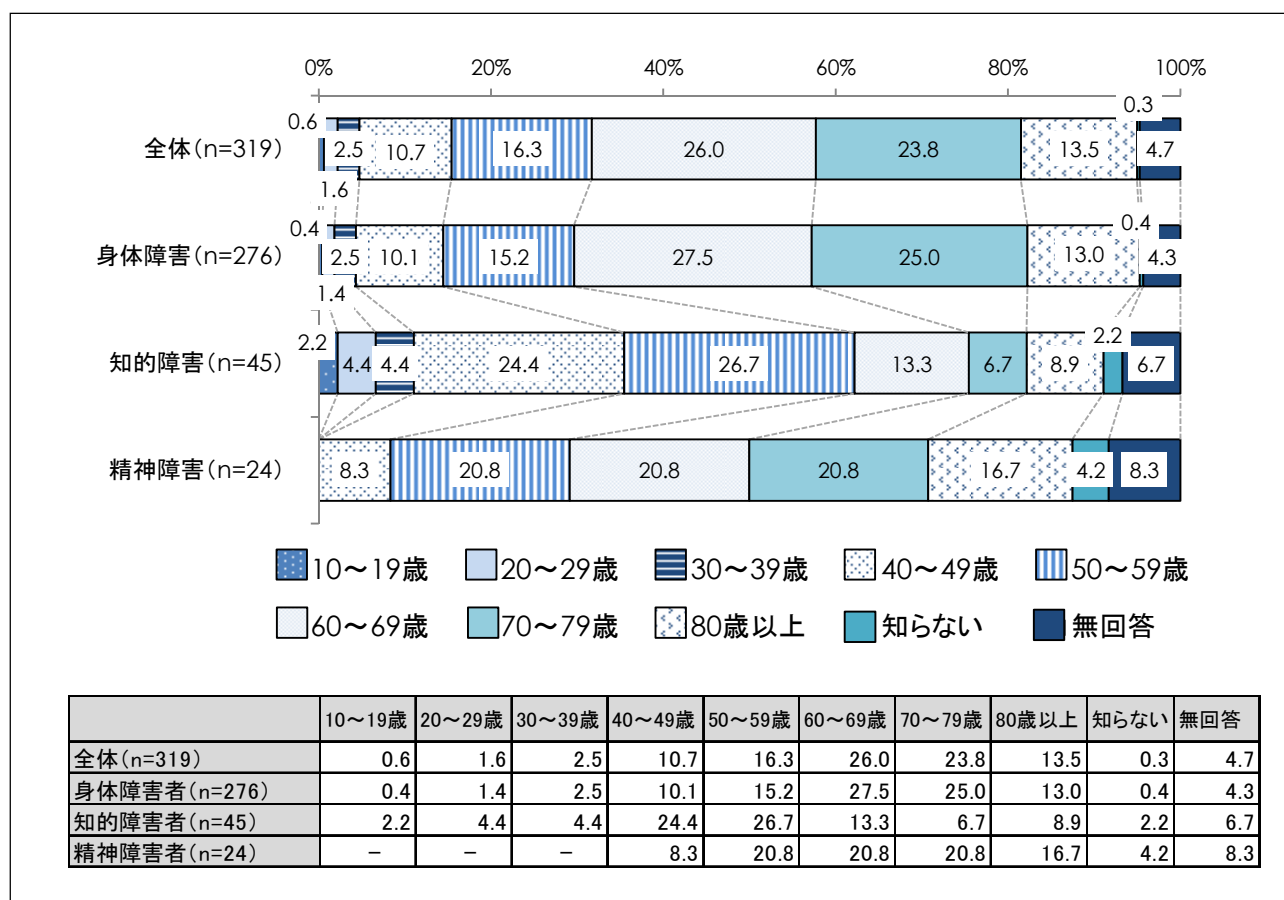
【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「60～69歳」が27.5%と最も高く、次いで「70～79歳」が25.0%となっています。

知的障害では「50～59歳」が26.7%と最も高く、次いで「40～49歳」が24.4%となっています。

精神障害では「50～59歳」、「60～69歳」、「70～79歳」が同率で20.8%と高くなっています。

表 33 主な介助者の年齢（全体、障害別）



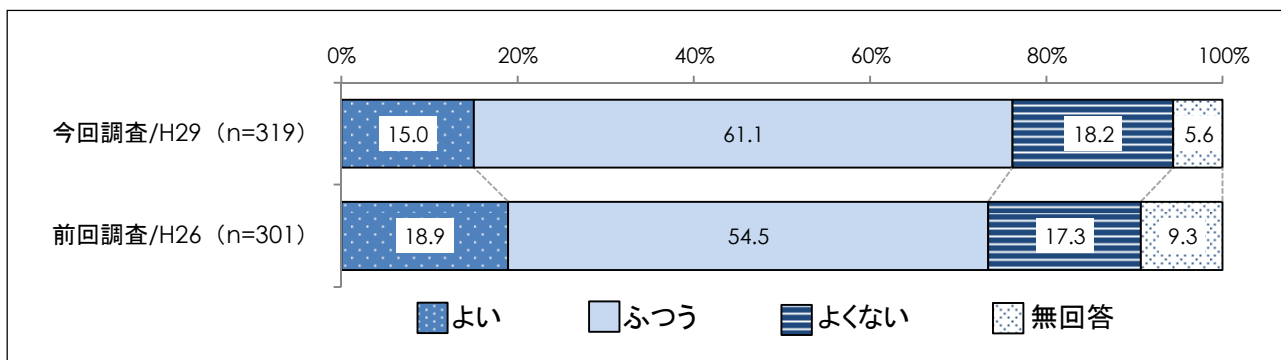
【問20で「配偶者」「父親・母親」「子ども」「兄弟・姉妹」「祖父・祖母」「孫」「親戚」「隣人・知人」と回答した方】
 問20-2 あなたの主な介助者の健康状態（〇はひとつだけ）

【全体の傾向】

主な介助者の健康状態についてたずねたところ、「ふつう」が61.1%、「よい」が15.0%となっており、約6割の人が健康状態は「ふつう」だと回答しています。

前回調査と比較すると、健康状態が「よい」が3.9ポイント減少、「ふつう」が6.6ポイント増加しています。

図表 34 主な介助者の健康状態（全体、前回との比較）

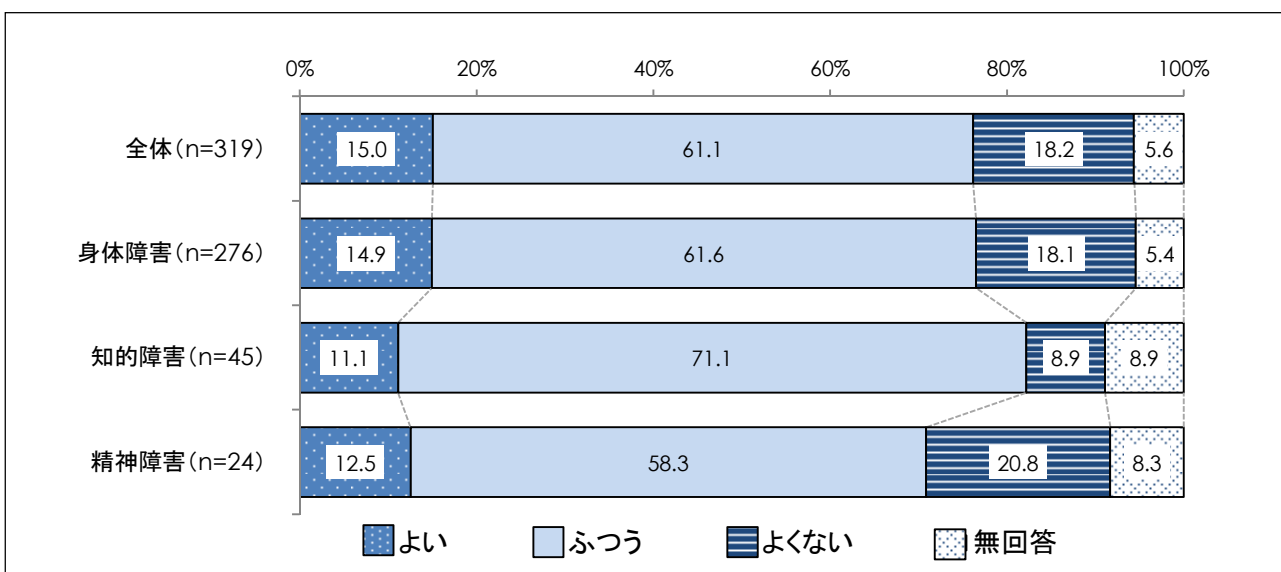


【属性別の傾向】

障害別にみると、介助者の健康状態が「ふつう」の割合が最も高く、知的障害で71.1%、身体障害で61.6%、精神障害で58.3%となっています。

一方、「よくない」の割合については、知的障害では8.9%と低くなっていますが、身体障害では18.1%、精神障害では20.8%となっており、それぞれ約2割の人が介助者の健康状態は「よくない」と回答しています。

図表 35 主な介助者の健康状態（全体、障害別）



(2) 主な介助者が不在の場合の対応

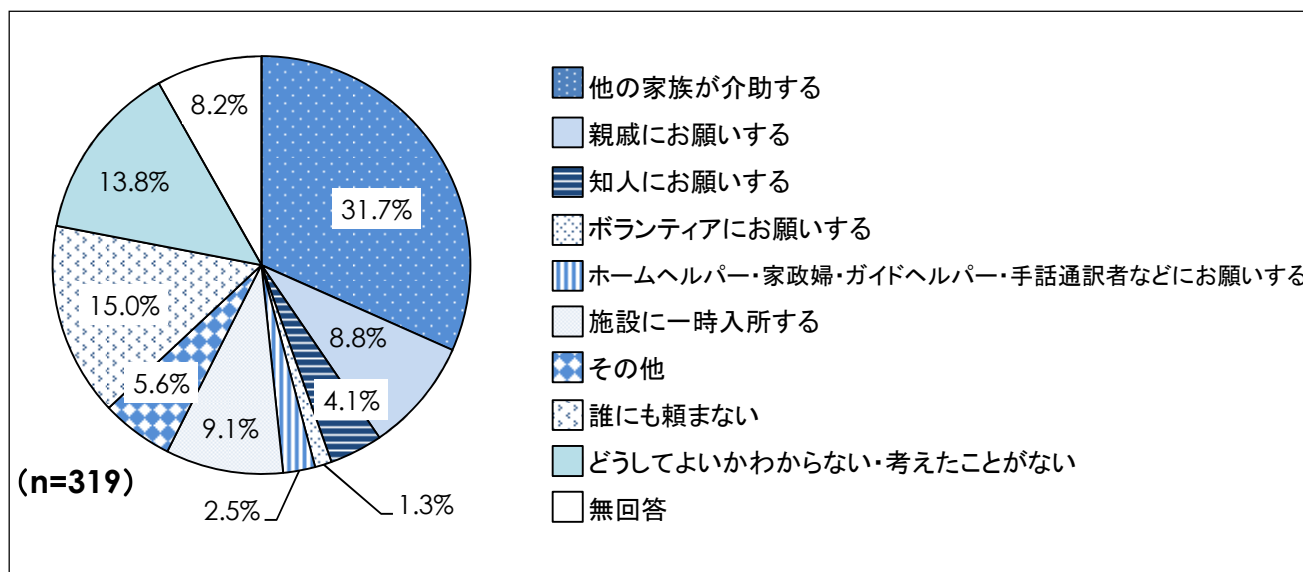
【問20で「配偶者」「父親・母親」「子ども」「兄弟・姉妹」「祖父・祖母」「孫」「親戚」「隣人・知人」と回答した方】
 問20-3 あなたを主に介助してくれる方が一時的に不在の場合、どうしていますか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

主な介助者が不在の場合の対応をたずねたところ、「他の家族が介助する」が31.7%と最も高くなっています。次いで「誰にも頼まない」(15.0%)、「どうしてよいかわからない・考えたことがない」(13.8%)、「施設に一時入所する」(9.1%)、「親戚にお願いする」(8.8%)、「その他」(5.6%)、「知人にお願いする」(4.1%)、「ホームヘルパー・家政婦・ガイドヘルパー・手話通訳者などにお願いする」(2.5%)、「ボランティアにお願いする」(1.3%)となっています。

誰にも頼まない、または、わからないとの回答は全体の28.8%を占めており、約3割の人が、主な介助者が不在の際に対応する方法がない、わからない状態となっています。

図表 36 主な介助者が不在の場合の対応 (全体)

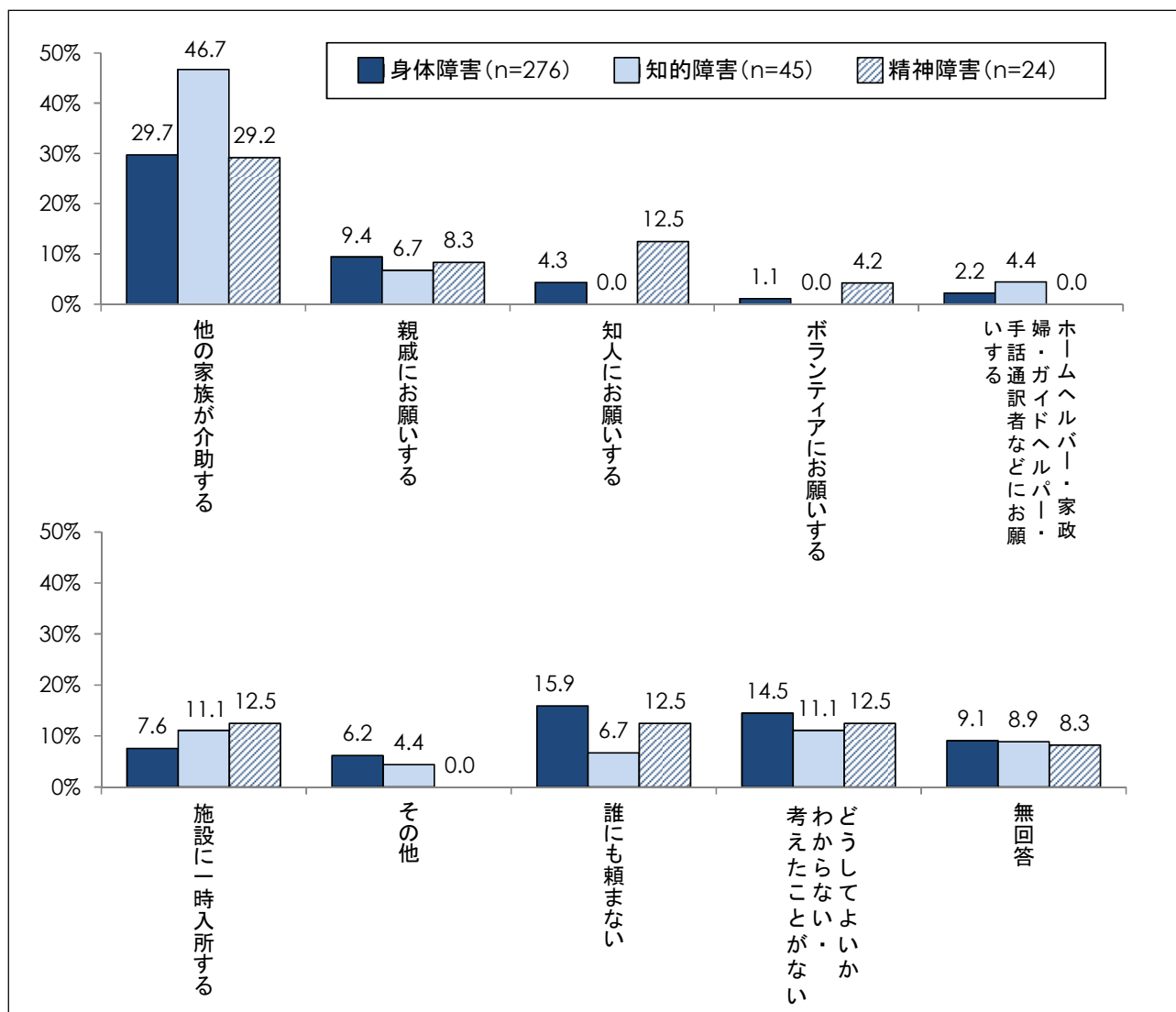


【属性別の傾向】

障害別にみると、どの障害においても「他の家族が介助する」が最も高く、中でも知的障害では46.7%と4割を超え、高い割合となっています。

また、「知人にお願いする」や「施設に一時入所する」が精神障害では12.5%を占め、他の障害に比べて割合が高くなっています。

図表 37 主な介助者が不在の場合の対応（障害別）



5 福祉サービスについて

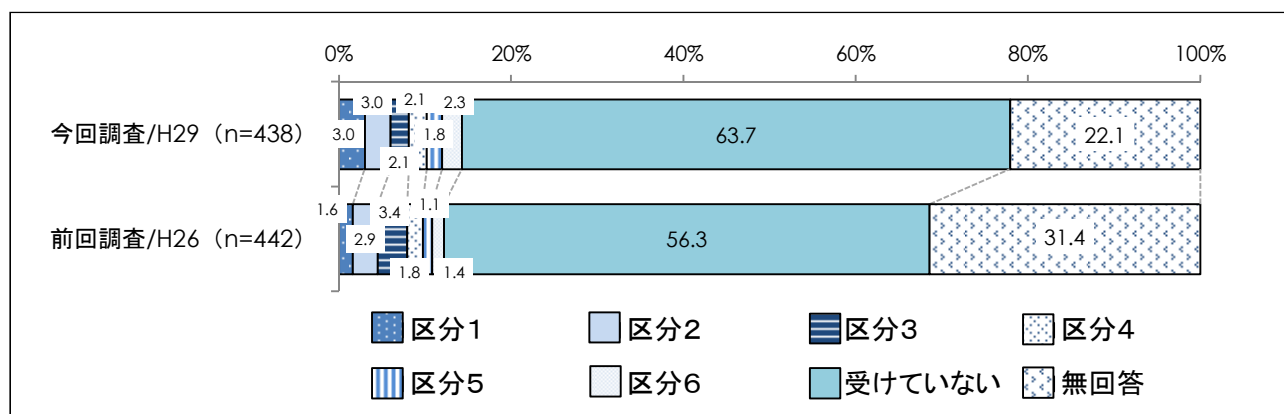
(1) 障害支援区分の認定状況

問 21 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

障害支援区分の認定状況をたずねたところ、「受けていない」が63.7%となっています。また前回調査と比較すると、「受けていない」の割合が7.4ポイント増加しています。

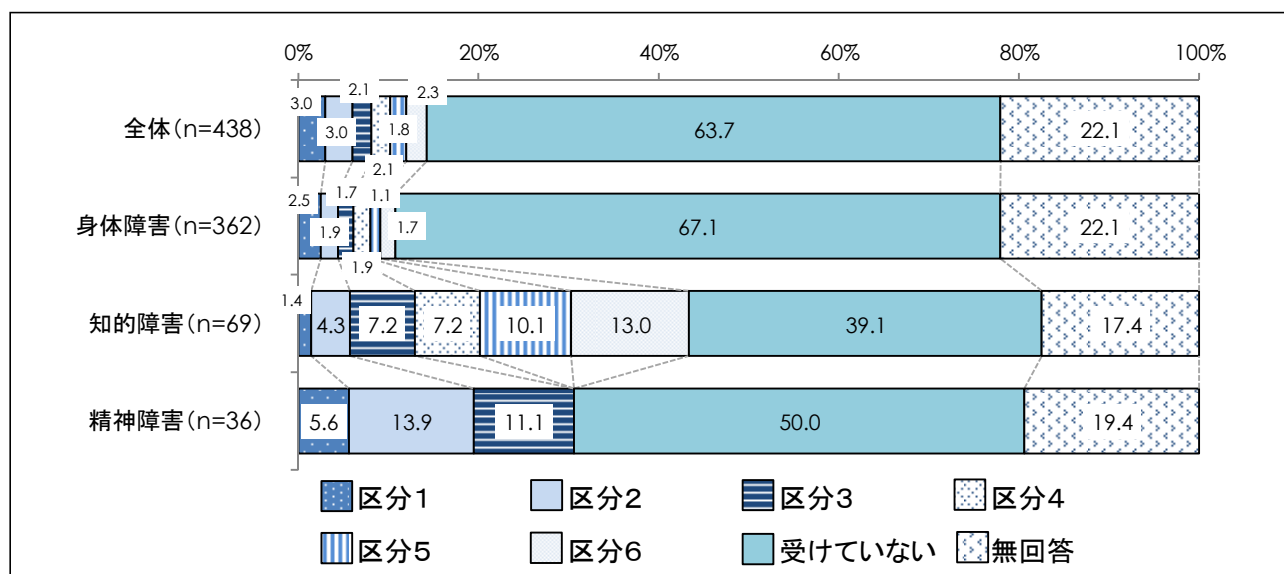
図表 38 障害支援区分の認定状況（全体、前回との比較）



【属性別の傾向】

障害別にみると、知的障害では「区分6」が13.0%、「区分5」が10.1%、「区分3」、「区分4」がともに7.2%などとなっています。また精神障害では「区分2」が13.9%、「区分3」が11.1%となっています。身体障害に比べ、知的障害や精神障害では、認定を受けている割合が高くなっています。

図表 39 障害支援区分の認定状況（全体、障害別）



(2) 現在利用している福祉サービスと今後利用したいサービス

問 22 あなたが、現在利用している障害福祉サービスなどについて、あてはまるものすべてに○をしてください。

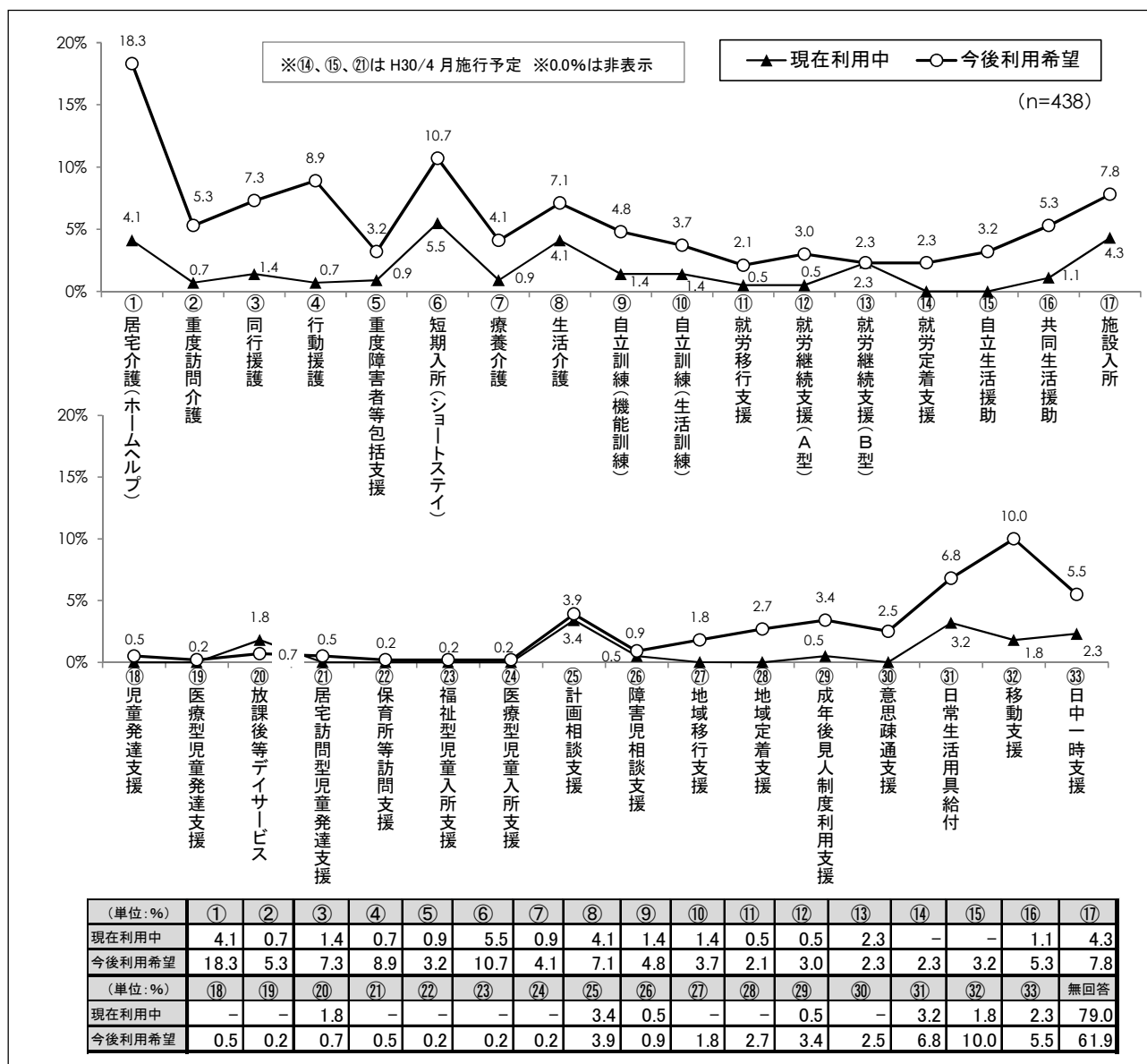
問 23 あなたが、今は利用していないが、近い将来（およそ3年後）利用したい障害福祉サービスなどについて、あてはまるものすべてに○をしてください。

【全体の傾向】

現在利用している障害福祉サービスをたずねたところ、⑥短期入所（ショートステイ）（5.5%）、⑰施設入所（4.3%）、①居宅介護（ホームヘルプ）、⑧生活介護（同率 4.1%）などの利用率が高くなっています。また、今後利用したいサービスについては、①居宅介護（ホームヘルプ）（18.3%）、⑥短期入所（ショートステイ）（10.7%）、⑳移動支援（10.0%）などの利用希望が高くなっています。

ほとんどの福祉サービスで、現在の利用者の割合より、今後利用希望者の割合が上回っています。中でも①居宅介護（ホームヘルプ）や⑳移動支援は大きく上回っており、利用希望者が多くなっています。

図表 40 現在利用している／今後利用したい福祉サービス（全体／複数回答）



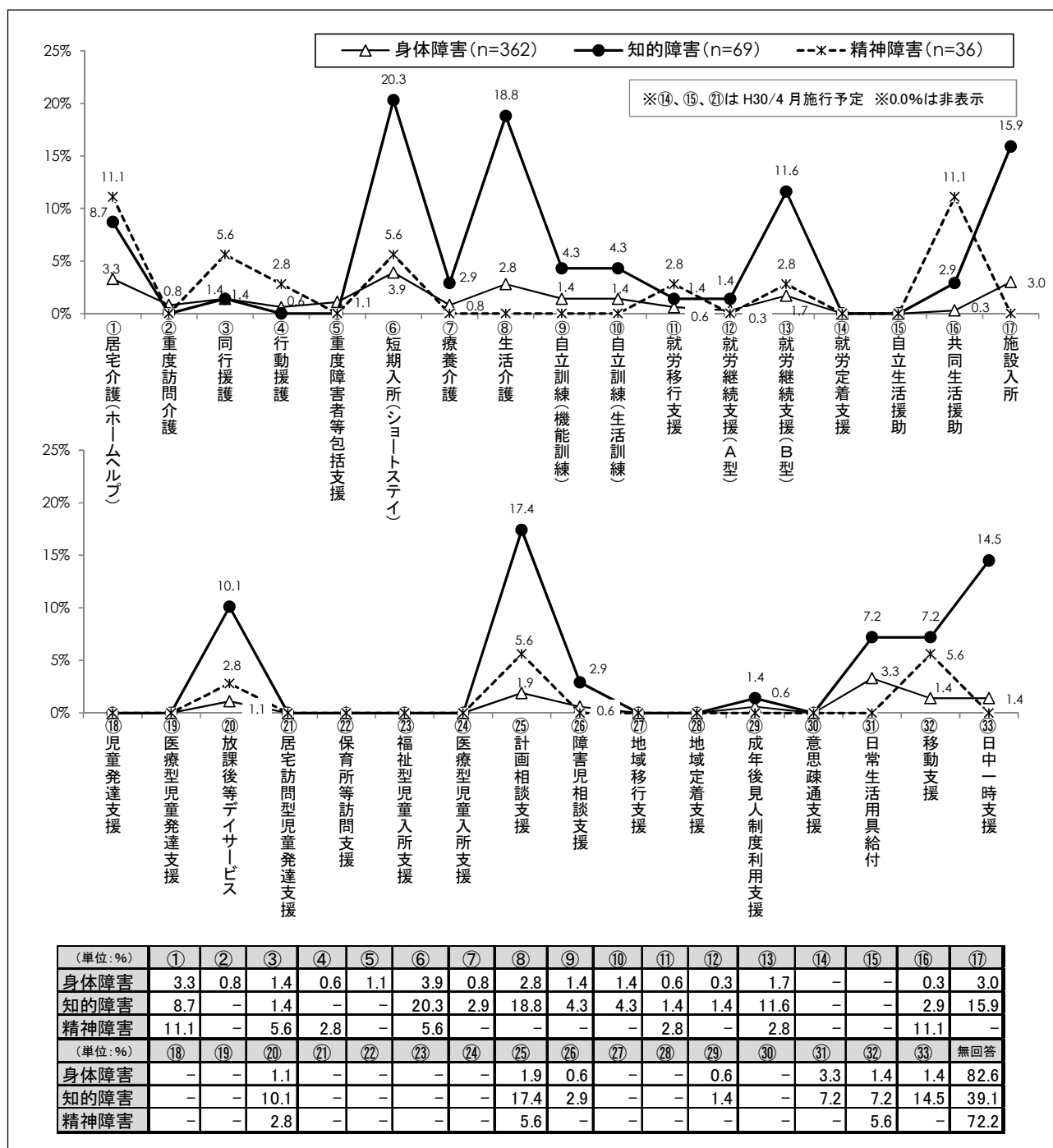
【属性別の傾向】

・現在の利用状況

障害別に現在利用している障害福祉サービスをみると、身体障害、精神障害での利用率に比べ、知的障害での利用率が高くなっています。中でも⑥短期入所（ショートステイ）（20.3%）、⑧生活介護（18.8%）、⑫計画相談支援（17.4%）、⑮施設入所（15.9%）などの割合が高くなっています。

また、精神障害では⑯共同生活援助（11.1%）、⑫計画相談支援、⑳移動支援（同率 5.6%）などの利用率が高くなっています。

図表 41 現在利用している福祉サービス（障害別／複数回答）

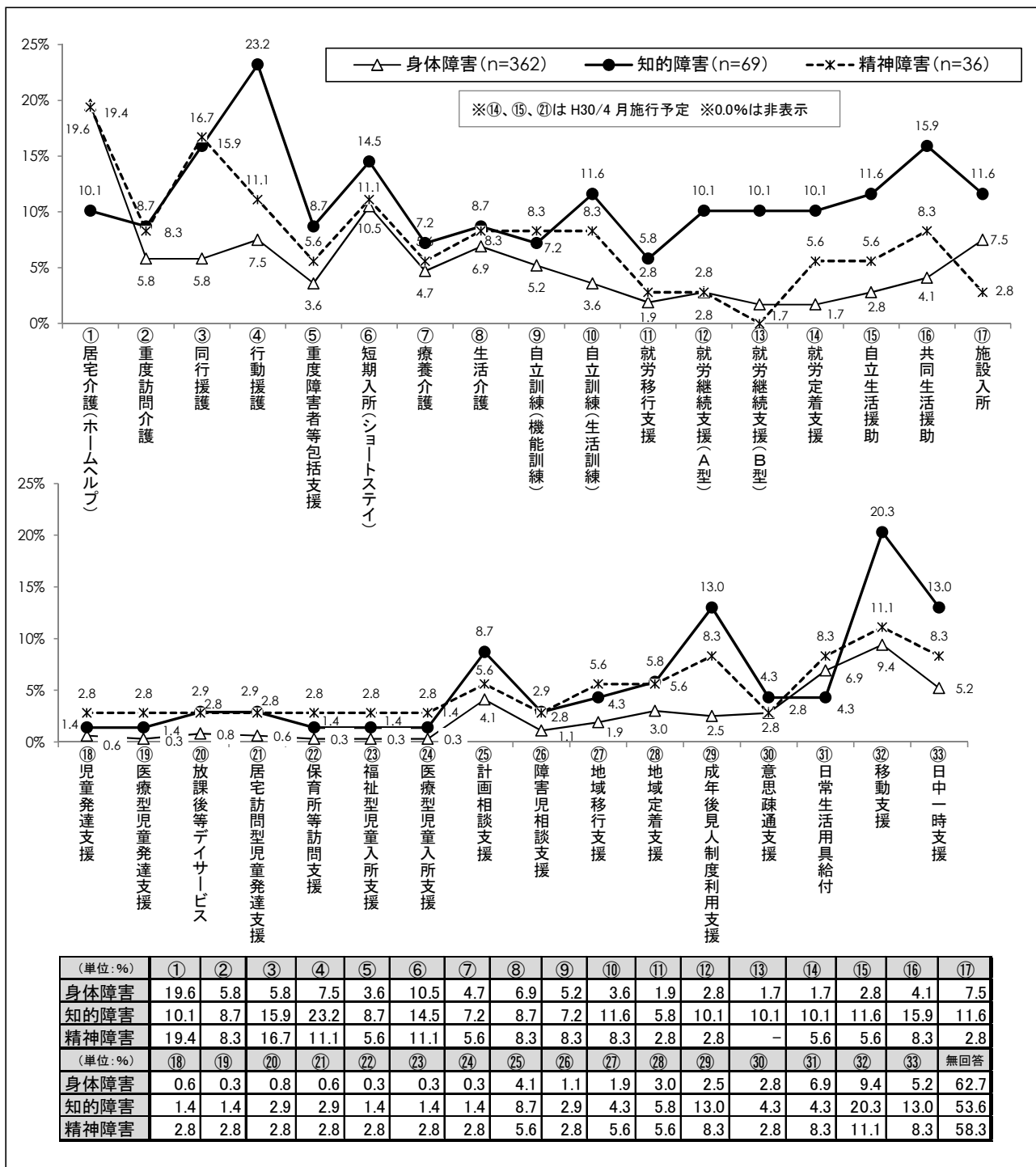


【属性別の傾向】

・今後の利用希望

障害別に、今後の利用希望の割合が高い障害福祉サービスを見ると、身体障害では①居宅介護（ホームヘルプ）（19.6%）、⑥短期入所（ショートステイ）（10.5%）、知的障害では④行動支援（23.2%）、⑳移動支援（20.3%）、精神障害では①居宅介護（ホームヘルプ）（19.4%）、③同行援護（16.7%）などとなっています。

図表 42 今後利用したい福祉サービス（障害別／複数回答）



（3）障害福祉サービスに対する要望

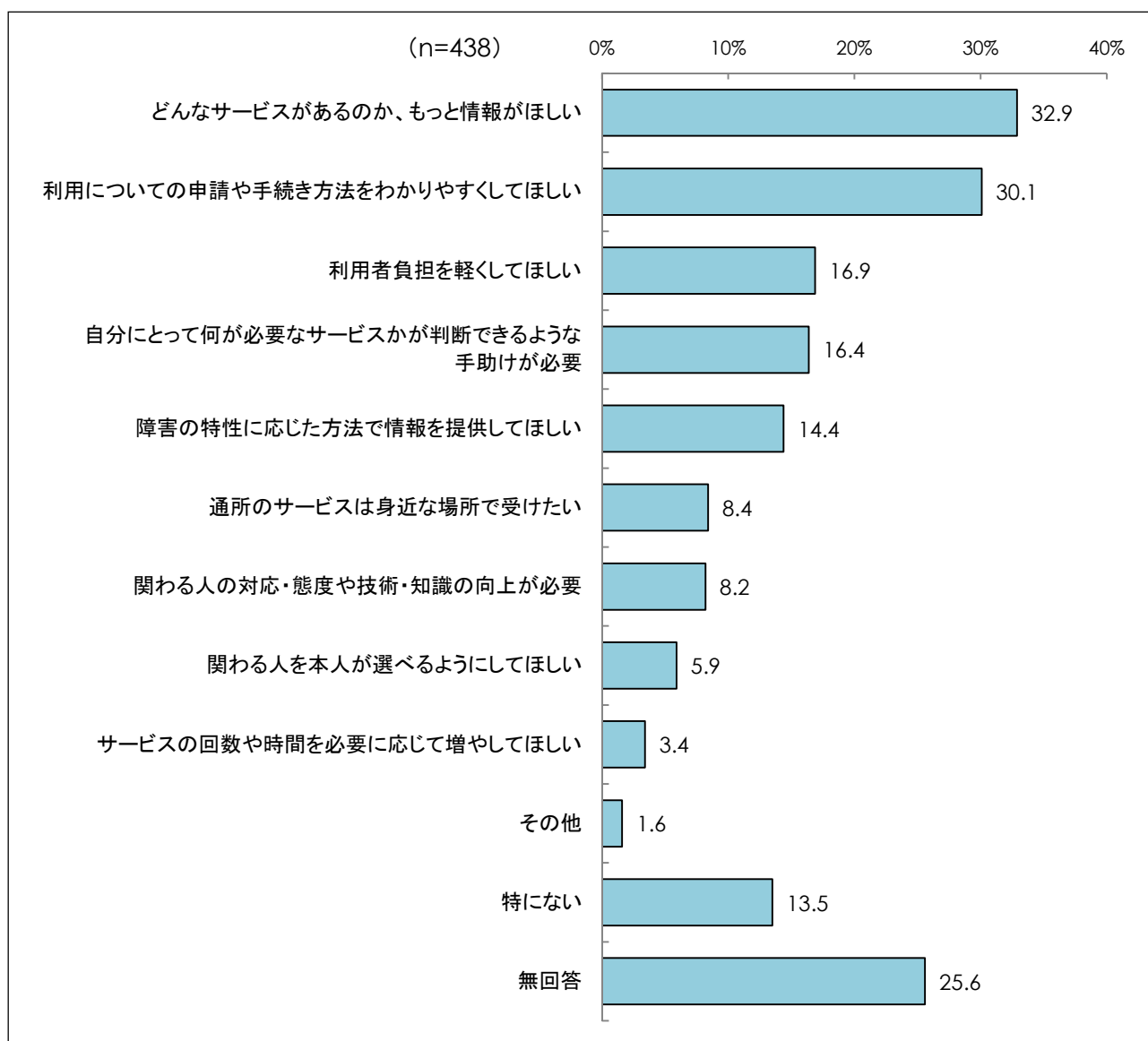
問 24 障害福祉サービスをより利用しやすくするために、今後あなたが希望することは何ですか。
（おもなもの3つまで○）

【全体の傾向】

障害福祉サービスに対する要望をたずねたところ、「どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい」が 32.9%と最も多く、次いで「利用についての申請や手続き方法をわかりやすくしてほしい」が 30.1%となっており、この2項目が主な要望となっています。

続いて、「利用者負担を軽くしてほしい」（16.9%）、「自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けが必要」（16.4%）、「障害の特性に応じた方法で情報を提供してほしい」（14.4%）などとなっています。

図表 43 障害福祉サービスに対する要望（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害や精神障害では概ね全体と同様の傾向となっています。

知的障害では、「自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けが必要」が24.6%で第3位となっています。

図表 44 障害福祉サービスに対する要望（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=438)		どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい 32.9	利用についての申請や手続き方法をわかりやすくしてほしい 30.1	利用者負担を軽くしてほしい 16.9
障害別	身体障害(n=362)	どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい 33.1	利用についての申請や手続き方法をわかりやすくしてほしい 28.7	利用者負担を軽くしてほしい 17.4
	知的障害(n=69)	・どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい ・利用についての申請や手続き方法をわかりやすくしてほしい 27.5	自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けが必要 24.6	
	精神障害(n=36)	どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい 38.9	利用についての申請や手続き方法をわかりやすくしてほしい 33.3	・利用者負担を軽くしてほしい ・特にな 22.2

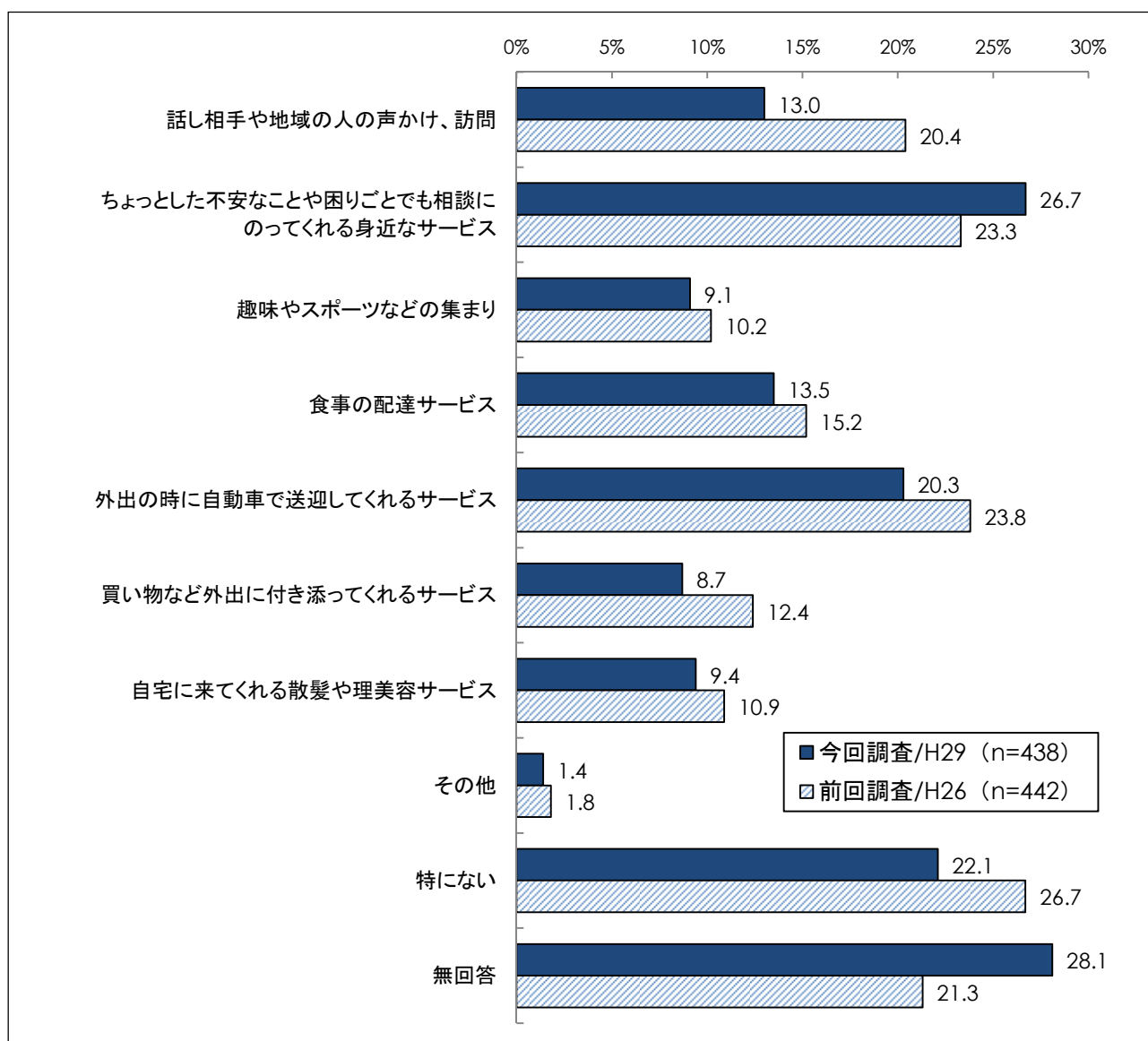
問 25 問 22、23 のサービス以外で、特にどのような支援が必要だと思いますか。(おもなもの3つまで○)

【全体の傾向】

障害福祉サービスの他に必要だと思う支援についてたずねたところ、「ちょっとした不安なことや困りごとでも相談にのってくれる身近なサービス」が 26.7%と最も多く、次いで「外出の時に自動車で送迎してくれるサービス」(20.3%)、「食事の配達サービス」(13.5%)、「話し相手や地域の人の声かけ、訪問」(13.0%) などとなっています。一方、「特にない」は 22.1%となっており、全体では第2位の割合となっています。

前回調査と比較すると、「話し相手や地域の人の声かけ、訪問」が 7.4 ポイント減少しています。一方、「ちょっとした不安なことや困りごとでも相談にのってくれる身近なサービス」は 3.4 ポイント増加しています。

図表 45 特に必要だと思う福祉サービス (全体、前回との比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障害別にみると、「ちょっとした不安なことや困りごとでも相談にのってくれる身近なサービス」がそれぞれ第1位となっています。

第2位以下をみると、身体障害では「特にない」(23.5%)、「外出の時に自動車で送迎してくれるサービス」(19.6%)となっています。

知的障害では「特にない」(20.3%)、「外出の時に自動車で送迎してくれるサービス」、「買い物など外出に付き添ってくれるサービス」(同率 18.8%)となっています。

精神障害では「外出の時に自動車で送迎してくれるサービス」(33.3%)、「話し相手や地域の人の声かけ、訪問」(22.2%)となっています。

図表 46 特に必要だと思う福祉サービス（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：%>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		ちょっとした不安なことや困りごとでも相談にのってくれる身近なサービス 26.7	特にない 22.1	外出の時に自動車で送迎してくれるサービス 20.3
障害別	身体障害 (n=362)	ちょっとした不安なことや困りごとでも相談にのってくれる身近なサービス 26.2	特にない 23.5	外出の時に自動車で送迎してくれるサービス 19.6
	知的障害 (n=69)	ちょっとした不安なことや困りごとでも相談にのってくれる身近なサービス 24.6	特にない 20.3	・外出の時に自動車で送迎してくれるサービス ・買い物など外出に付き添ってくれるサービス 18.8
	精神障害 (n=36)	ちょっとした不安なことや困りごとでも相談にのってくれる身近なサービス 44.4	外出の時に自動車で送迎してくれるサービス 33.3	話し相手や地域の人の声かけ、訪問 22.2

6 情報収集について

(1) 普段利用する連絡手段

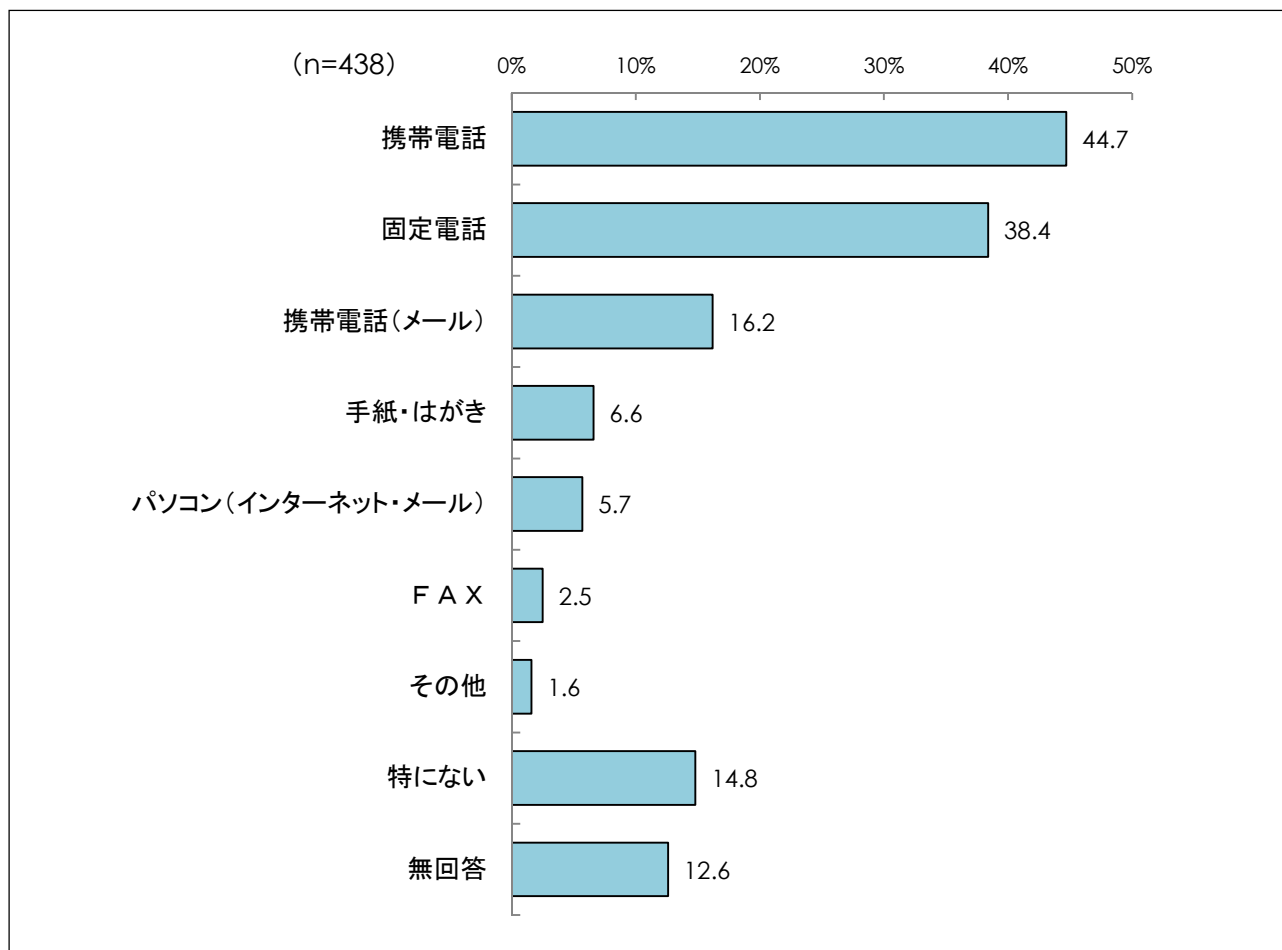
問 26 あなたが、よく利用する連絡手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

普段利用する連絡手段についてたずねたところ、「携帯電話」が44.7%と最も多くなっています。次いで「固定電話」が38.4%となっており、この2項目の割合が突出しています。続いて「携帯電話(メール)」(16.2%)、「手紙・はがき」(6.6%)、「パソコン(インターネット・メール)」(5.7%)、「FAX」(2.5%)となっています。

一方、「特にない」は14.8%となっており、全体では第4位の割合となっています。

図表 47 普段利用する連絡手段 (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「携帯電話」が46.4%と最も多く、次いで「固定電話」(40.1%)、「携帯電話(メール)」(17.1%)となっています。

知的障害では、「特にない」が37.7%と最も多くなっています。

精神障害では「固定電話」が47.2%と最も多く、次いで「携帯電話」(41.7%)、「携帯電話(メール)」(19.4%)となっています。

図表 48 普段利用する連絡手段(全体、障害別/複数回答)

<上位3位/単位:%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=438)		携帯電話	固定電話	携帯電話(メール)
		44.7	38.4	16.2
障害別	身体障害 (n=362)	携帯電話	固定電話	携帯電話(メール)
		46.4	40.1	17.1
	知的障害 (n=69)	特にない	携帯電話	固定電話
		37.7	31.9	15.9
	精神障害 (n=36)	固定電話	携帯電話	携帯電話(メール)
		47.2	41.7	19.4

(2) 情報の入手先

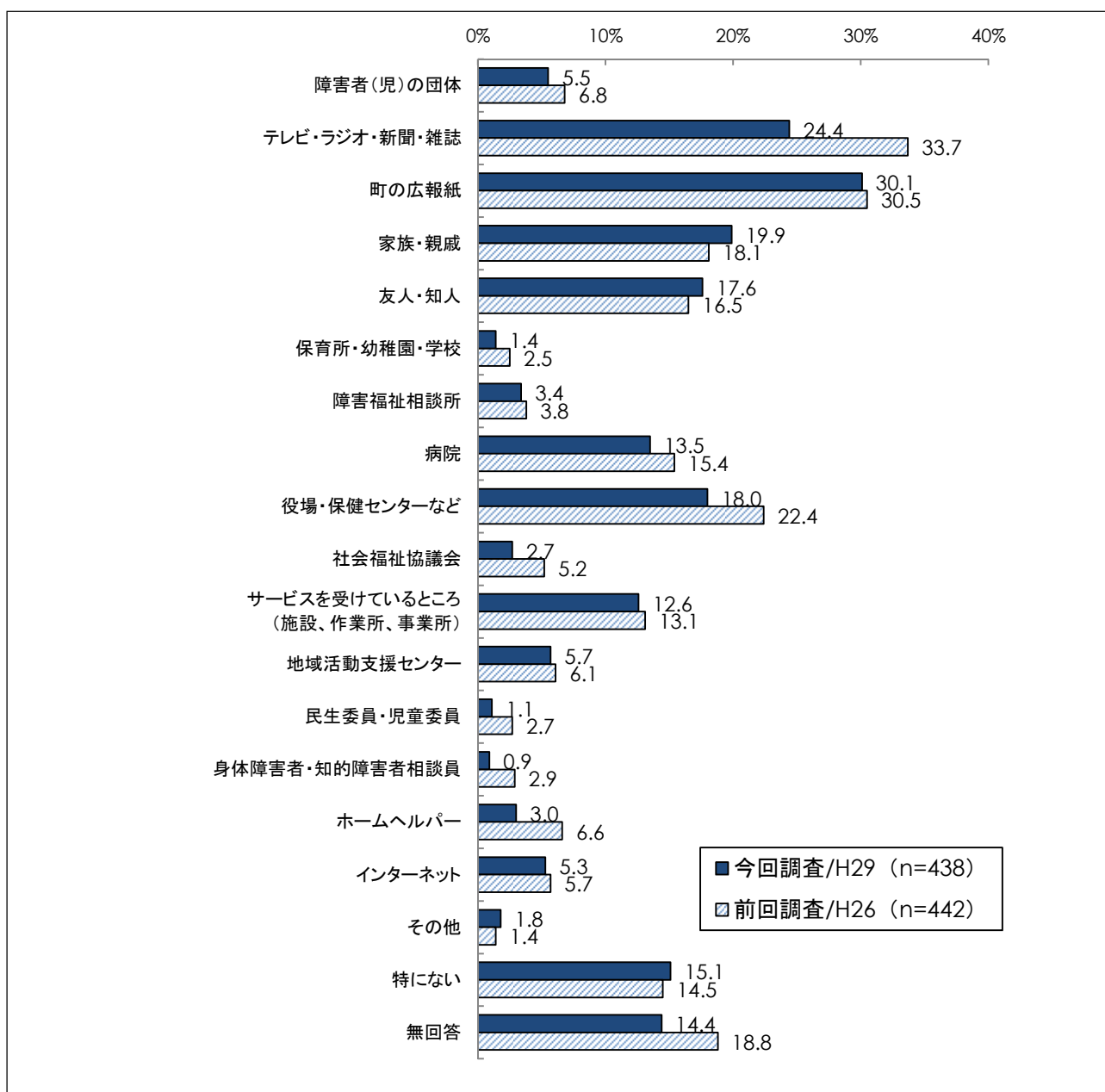
問 27 サービスに関する情報をどこから入手していますか。(おもなものを5つまで〇)

【全体の傾向】

サービスに関する情報の入手先についてたずねたところ、「町の広報紙」が30.1%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(24.4%)、「家族・親戚」(19.9%)、「役場・保健センターなど」(18.0%) などとなっています。

前回調査と比較すると、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」が9.3ポイント大きく減少しています。

図表 49 情報の入手先 (全体、前回との比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では全体と同様の傾向となっています。

知的障害では「サービスを受けているところ（施設、作業所、事業所）」（40.6％）が第1位、次いで「友人・知人」（20.3％）が第2位、「役場・保健センターなど」、「特にない」（同率 14.5％）が第3位となっており、第5位には「町の広報紙」（13.0％）などがあげられています。

精神障害では「役場・保健センターなど」（25.0％）が第1位、第2位は「町の広報紙」、「地域活動支援センター」（同率 22.2％）、第4位は「家族・親戚」、「病院」（同率 19.4％）となっています。

図表 50 情報の入手先（全体、障害別／複数回答）

<上位5位／単位：％>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=438)		町の広報紙	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	家族・親戚	役場・保健センターなど	友人・知人
		30.1	24.4	19.9	18.0	17.6
障害別	身体障害 (n=362)	町の広報紙	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	家族・親戚	役場・保健センターなど	友人・知人
		33.4	27.3	21.0	18.2	17.7
	知的障害 (n=69)	サービスを受けているところ（施設、作業所、事業所）	友人・知人	・役場・保健センターなど ・特にない	町の広報紙	
		40.6	20.3	14.5	13.0	
精神障害 (n=36)	役場・保健センターなど	・町の広報紙 ・地域活動支援センター		・家族・親戚 ・病院		
	25.0	22.2		19.4		

(3) 今後充実を希望する情報内容

問 28 あなたにとって、今後充実してほしい情報は何か。(おもなもの3つまで○)

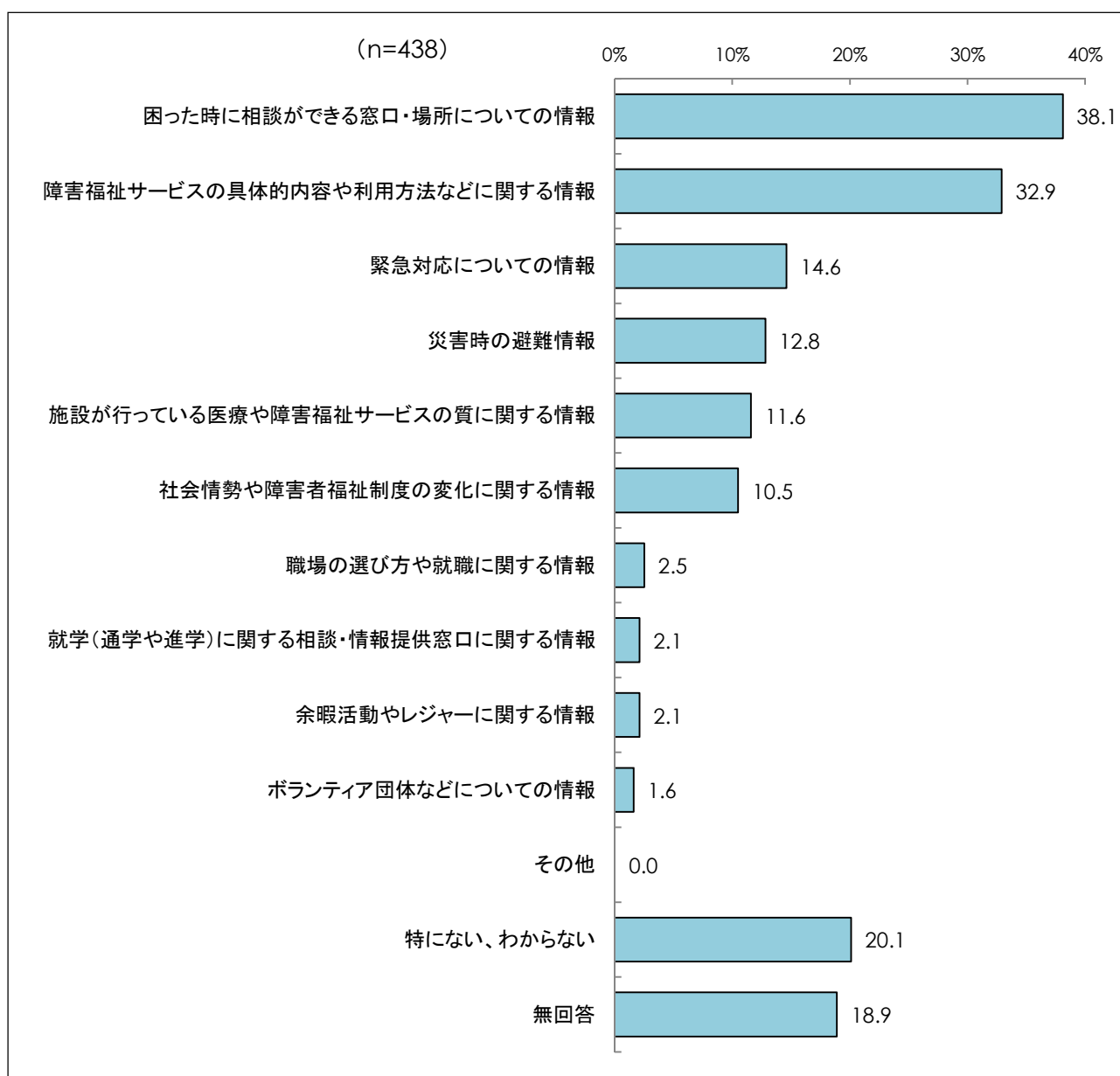
【全体の傾向】

今後充実してほしい情報についてたずねたところ、「困った時に相談ができる窓口・場所についての情報」が38.1%と最も多く、次いで「障害福祉サービスの具体的内容や利用方法などに関する情報」が32.9%となっており、相談窓口やサービスの利用方法などの情報を求める人が多くなっています。

続いて「緊急対応についての情報」(14.6%)、「災害時の避難情報」(12.8%)、「施設が行っている医療や障害福祉サービスの質に関する情報」(11.6%) などとなっています。

一方、「特にない、わからない」は20.1%となっており、全体では第3位の割合となっています。

図表 51 今後充実を希望する情報内容（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

障害別にみると、上位3位までは全体と同様の結果となっています。第4位以下をみると、身体障害では「緊急対応についての情報」（14.4％）が第4位、「施設が行っている医療や障害福祉サービスの質に関する情報」（13.0％）が第5位となっています。

知的障害では、第4位は「緊急対応についての情報」（13.0％）、第5位は「災害時の避難情報」（11.6％）となっています。

精神障害では第4位以下同率で「施設が行っている医療や障害福祉サービスの質に関する情報」、「社会情勢や障害者福祉制度の変化に関する情報」、「災害時の避難情報」（同率 11.1％）となっています。

図表 52 今後充実を希望する情報内容（全体、障害別／複数回答）

<上位5位／単位：％>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=438)		困った時に相談ができる窓口・場所についての情報	障害福祉サービスの具体的内容や利用方法などに関する情報	特になし、わからない	緊急対応についての情報	災害時の避難情報
		38.1	32.9	20.1	14.6	12.8
障害別	身体障害 (n=362)	困った時に相談ができる窓口・場所についての情報	障害福祉サービスの具体的内容や利用方法などに関する情報	特になし、わからない	緊急対応についての情報	施設が行っている医療や障害福祉サービスの質に関する情報
		36.7	33.4	19.3	14.4	13.0
	知的障害 (n=69)	困った時に相談ができる窓口・場所についての情報	障害福祉サービスの具体的内容や利用方法などに関する情報	特になし、わからない	緊急対応についての情報	災害時の避難情報
		34.8	31.9	17.4	13.0	11.6
	精神障害 (n=36)	困った時に相談ができる窓口・場所についての情報	障害福祉サービスの具体的内容や利用方法などに関する情報	特になし、わからない	・施設が行っている医療や障害福祉サービスの質に関する情報 ・社会情勢や障害者福祉制度の変化に関する情報 ・災害時の避難情報	
		44.4	38.9	30.6		11.1

7 保育・教育について

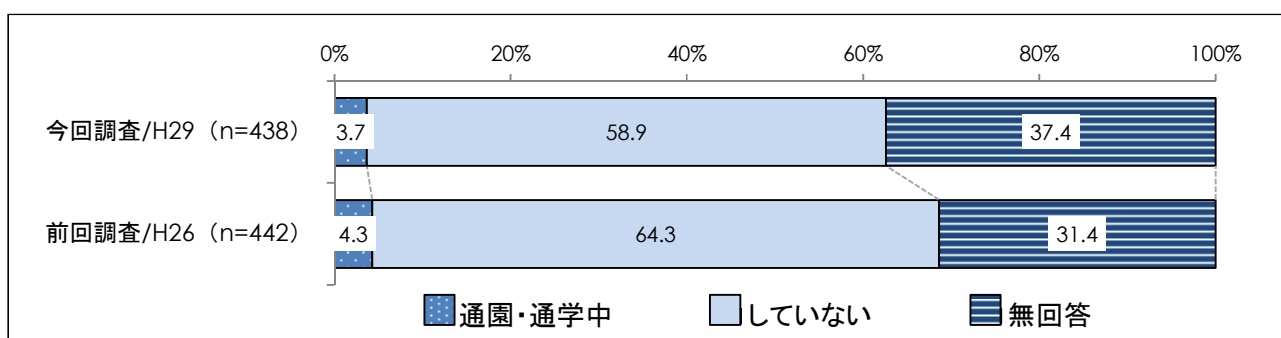
(1) 通園・通学の状況

問 29 あなたは現在、通園・通学をしていますか。(○はひとつだけ)

【全体の傾向】

現在、通園・通学をしているかについてたずねたところ、「通園・通学中」は3.7%となっており、「していない」が58.9%となっています。前回調査と比較すると、同様の傾向となっています。

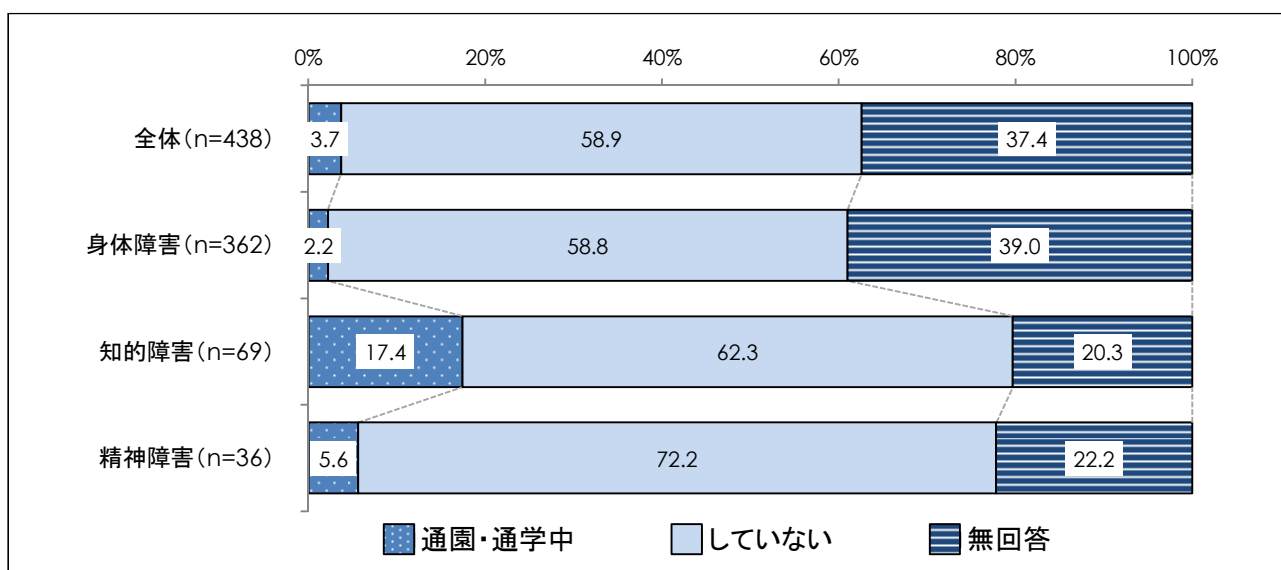
図表 53 通園・通学の状況（全体、前回との比較）



【属性別の傾向】

障害別にみると、「通園・通学中」の割合は知的障害で最も高く、17.4%となっています。次いで精神障害で5.6%、身体障害で2.2%となっています。

図表 54 通園・通学の状況（全体、障害別）



【問 29 で「通園・通学中」と回答した方】

問 29-1 通園・通学しているところは次のうちどこですか。(〇はひとつだけ)

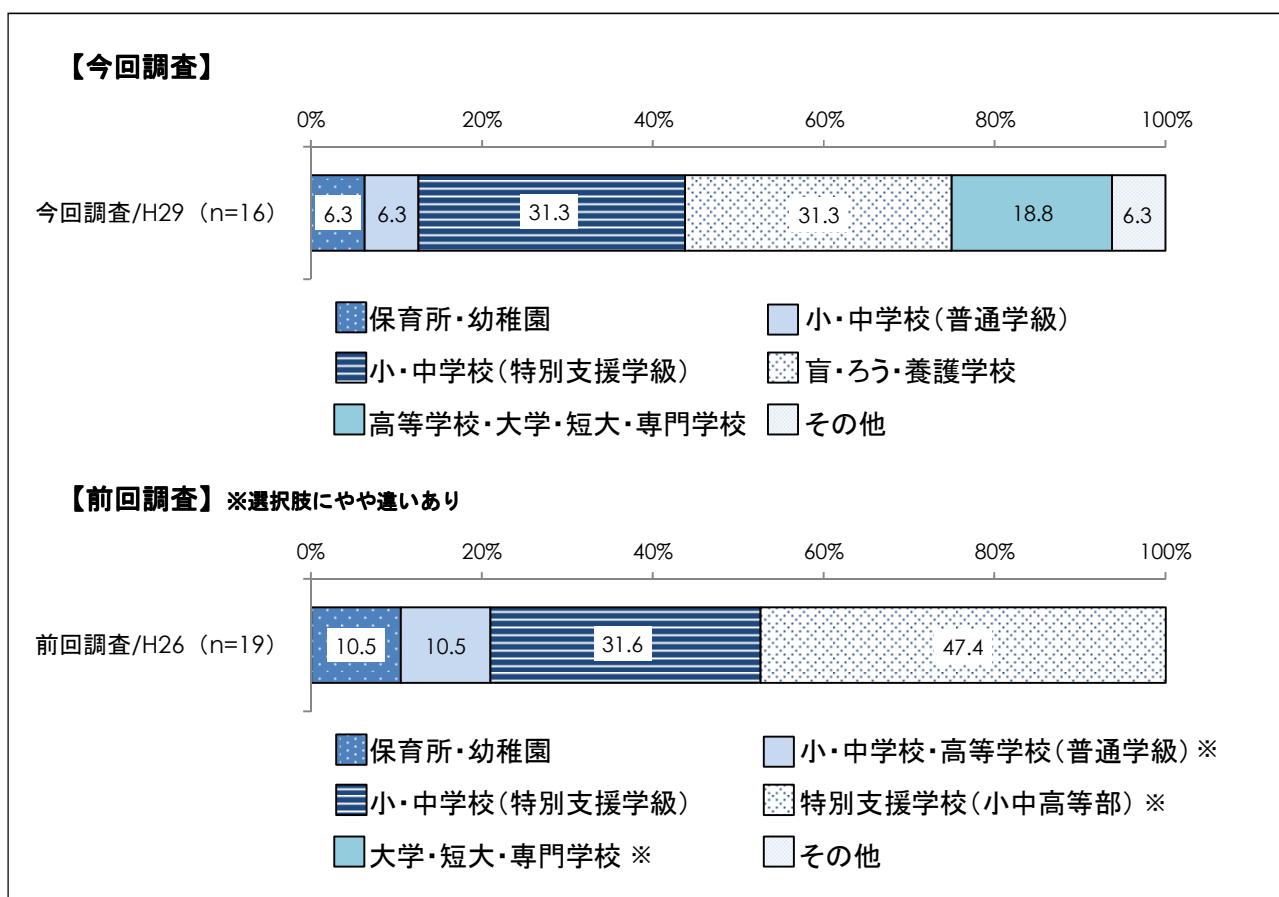
【全体の傾向】

通園・通学先をたずねたところ、「小・中学校（特別支援学級）」、「盲・ろう・養護学校」がともに 31.3%と高くなっており、特別支援学級や養護学校等に通っている人が約6割を占めています。

次いで「高等学校・大学・短大・専門学校」が 18.8%、「保育所・幼稚園」、「小・中学校（普通学級）」がともに 6.3%となっています。

前回調査とは選択肢に若干の違いがみられるため、参考程度として比較すると、「保育所・幼稚園」が 4.2 ポイント減少し、「小・中学校（特別支援学級）」の割合は 0.3 ポイント減少しています。

図表 55 通園・通学先（全体、前回との比較＜参考＞）

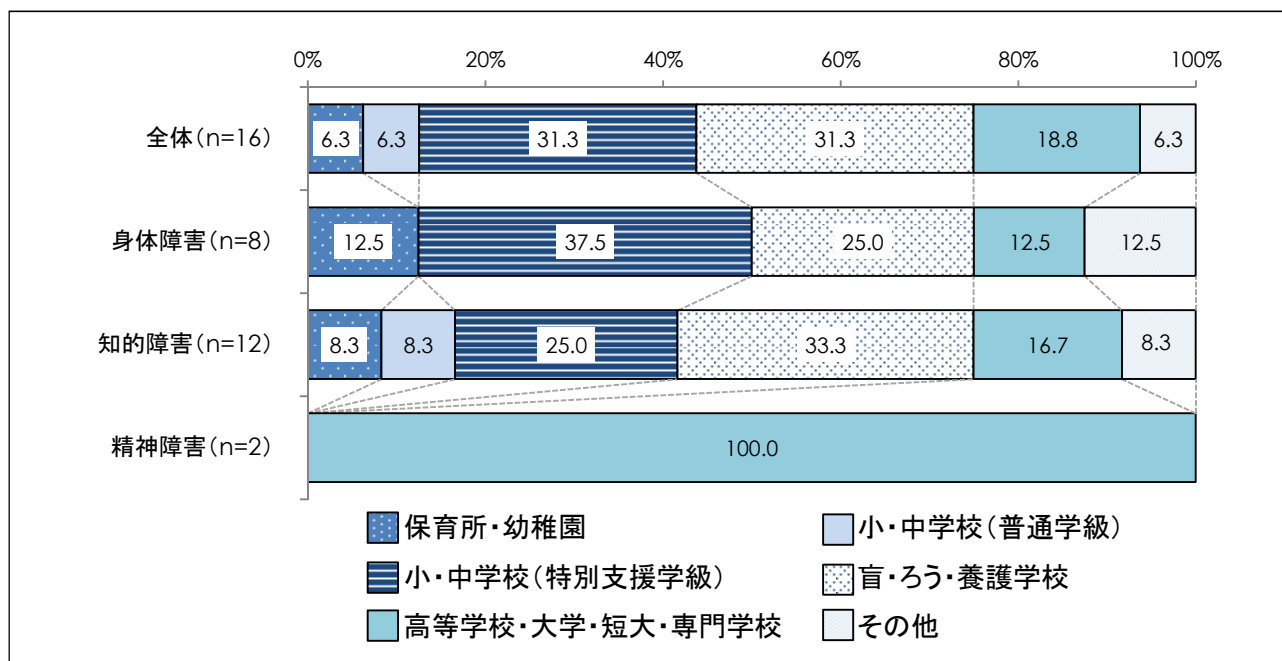


【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「小・中学校（特別支援学級）」が37.5%と最も高く、次いで「盲・ろう・養護学校」が25.0%、「高等学校・大学・短大・専門学校」がともに12.5%となっています。

また、知的障害では「盲・ろう・養護学校」が33.3%と最も高く、次いで「小・中学校（特別支援学級）」（25.0%）、「高等学校・大学・短大・専門学校」（16.7%）、「保育所・幼稚園」、「小・中学校（普通学級）」（同率8.3%）となっています。

図表 56 通園・通学先（全体、障害別）



(2) 障害のある児童のための望ましい就学環境

【問 29 で「通園・通学中」と回答した方】

問 29-2 障害のある児童・生徒の就学環境として望ましいと思うものは次のどれですか。(〇はひとつだけ)

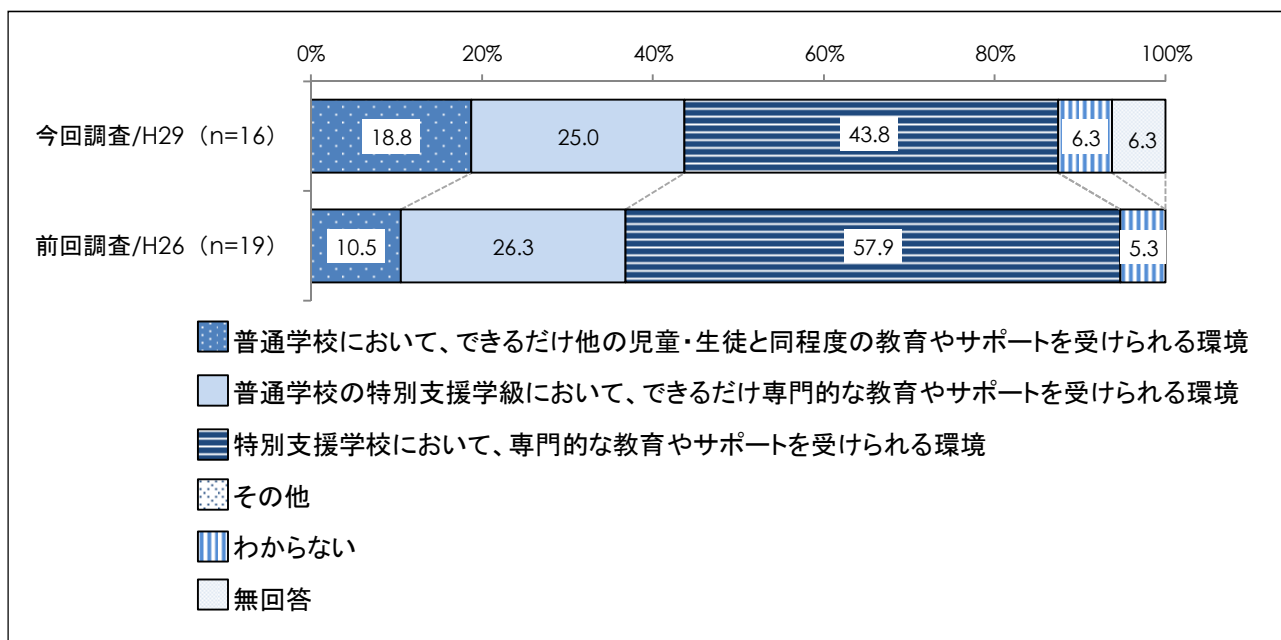
【全体の傾向】

望ましいと思う就学環境についてたずねたところ、「特別支援学校において、専門的な教育やサポートを受けられる環境」が 43.8%を占め、最も高くなっています。次いで「普通学校の特別支援学級において、できるだけ専門的な教育やサポートを受けられる環境」(25.0%)、「普通学校において、できるだけ他の児童・生徒と同程度の教育やサポートを受けられる環境」(18.8%)となっています。

特別支援学校、または特別支援学級において、専門的な教育やサポートを受けられる体制が求められています。

前回調査と比較すると、「特別支援学校において、専門的な教育やサポートを受けられる環境」が 14.1ポイント減少し、「普通学校において、できるだけ他の児童・生徒と同程度の教育やサポートを受けられる環境」が 8.3ポイント増加しています。

図表 57 望ましい就学環境（全体、前回との比較）

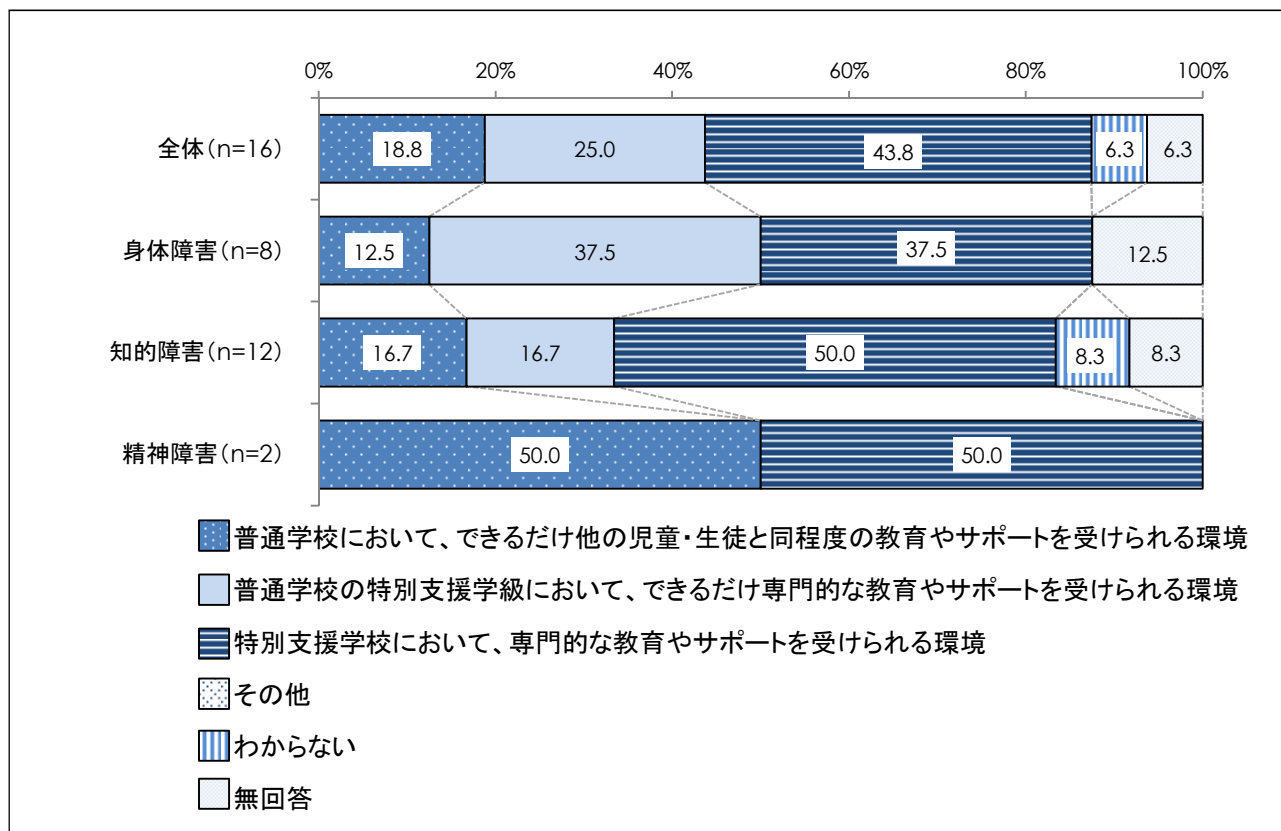


【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「普通学校の特別支援学級において、できるだけ専門的な教育やサポートを受けられる環境」、「特別支援学校において、専門的な教育やサポートを受けられる環境」がともに37.5%と高くなっています。

知的障害では「特別支援学校において、専門的な教育やサポートを受けられる環境」が50.0%と5割を占めています。

図表 58 望ましい就学環境（全体、障害別）



(3) 希望とは違う学校に通う理由

【問 29 で「通園・通学中」と回答した方】

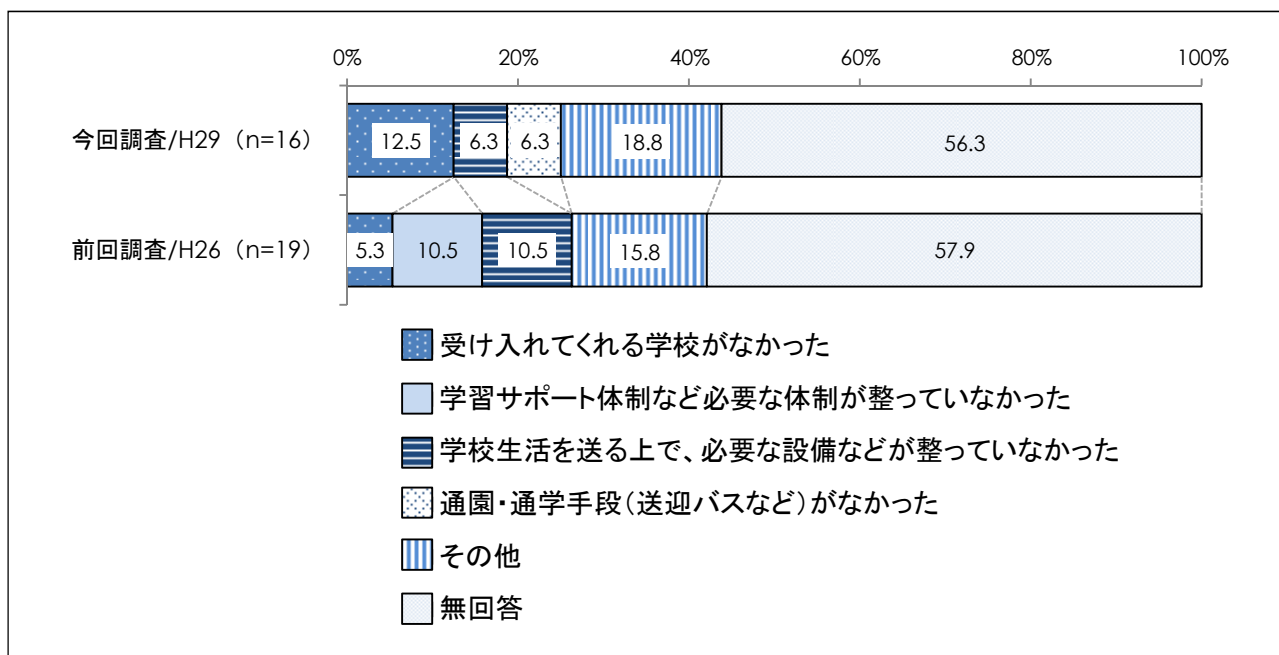
問 29-3 希望と違う学校に通っている場合、その理由は次のうちどれですか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

希望と違う学校に通っている場合、その理由についてたずねたところ、「受け入れてくれる学校がなかった」が 12.5%、「学校生活を送る上で、必要な設備などが整っていなかった」、「通園・通学手段（送迎バスなど）がなかった」がともに 6.3%となっています。また、「その他」（18.8%）の内容については、「島に特別支援学校が無いから」などとなっています。

前回調査と比較すると、「学習サポート体制など必要な体制が整っていなかった」との回答は、前回調査では 10.5%でしたが、今回調査ではみられませんでした（0.0%）。また、「受け入れてくれる学校がなかった」については 7.2 ポイント増加し、「学校生活を送る上で、必要な設備などが整っていなかった」については 4.2 ポイント減少しています。

図表 59 希望とは違う学校に通う理由（全体、前回との比較）



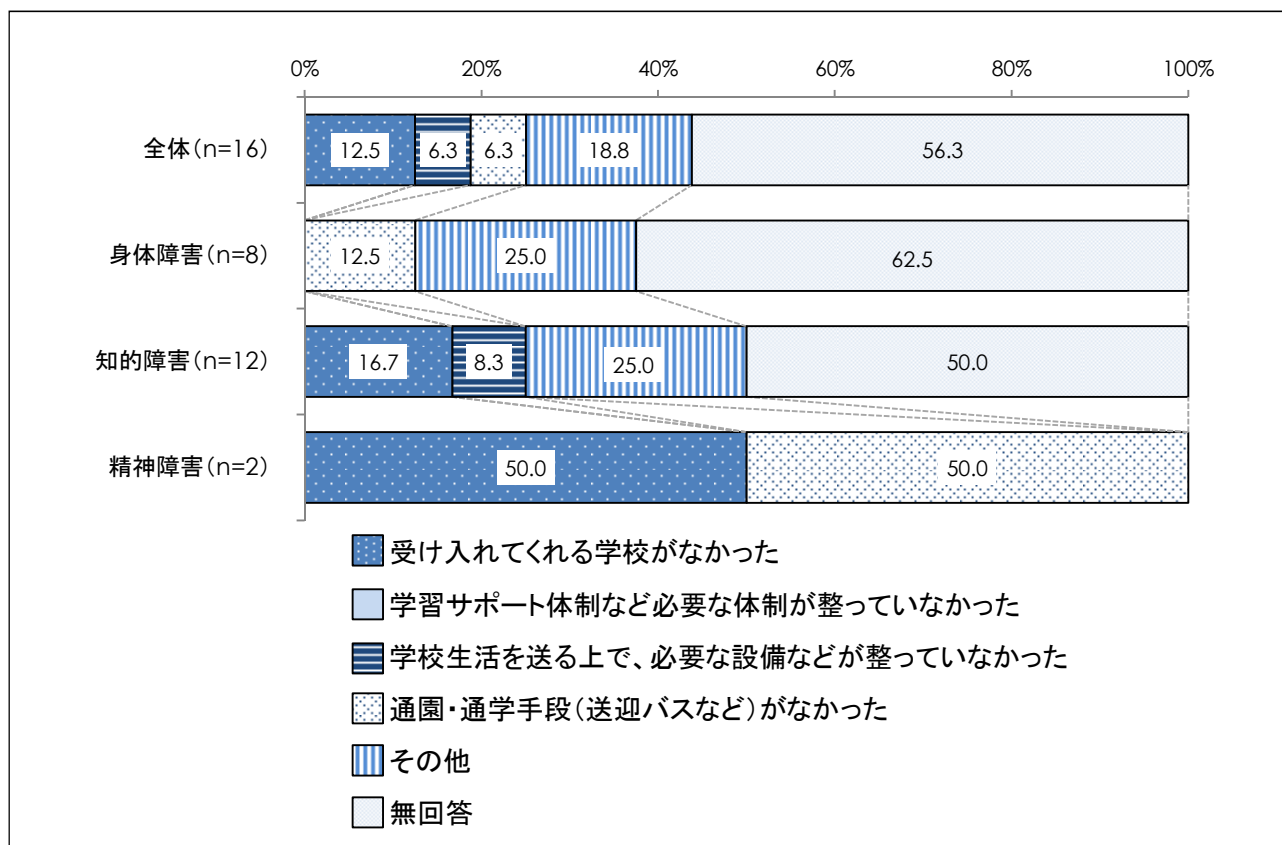
【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「その他」が25.0%、「通園・通学手段（送迎バスなど）がなかった」が12.5%などとなっています。

知的障害では、「その他」が25.0%、「受け入れてくれる学校がなかった」が16.7%、「学校生活を送る上で、必要な設備などが整っていなかった」が8.3%となっています。

身体障害では通学手段がなかったこと、また、知的障害では設備の不備や学校の受け入れ体制などが主な理由となっています。

図表 60 希望とは違う学校に通う理由（全体、障害別）



(4) 通園・通学に関して感じること

【問 29 で「通園・通学中」と回答した方】

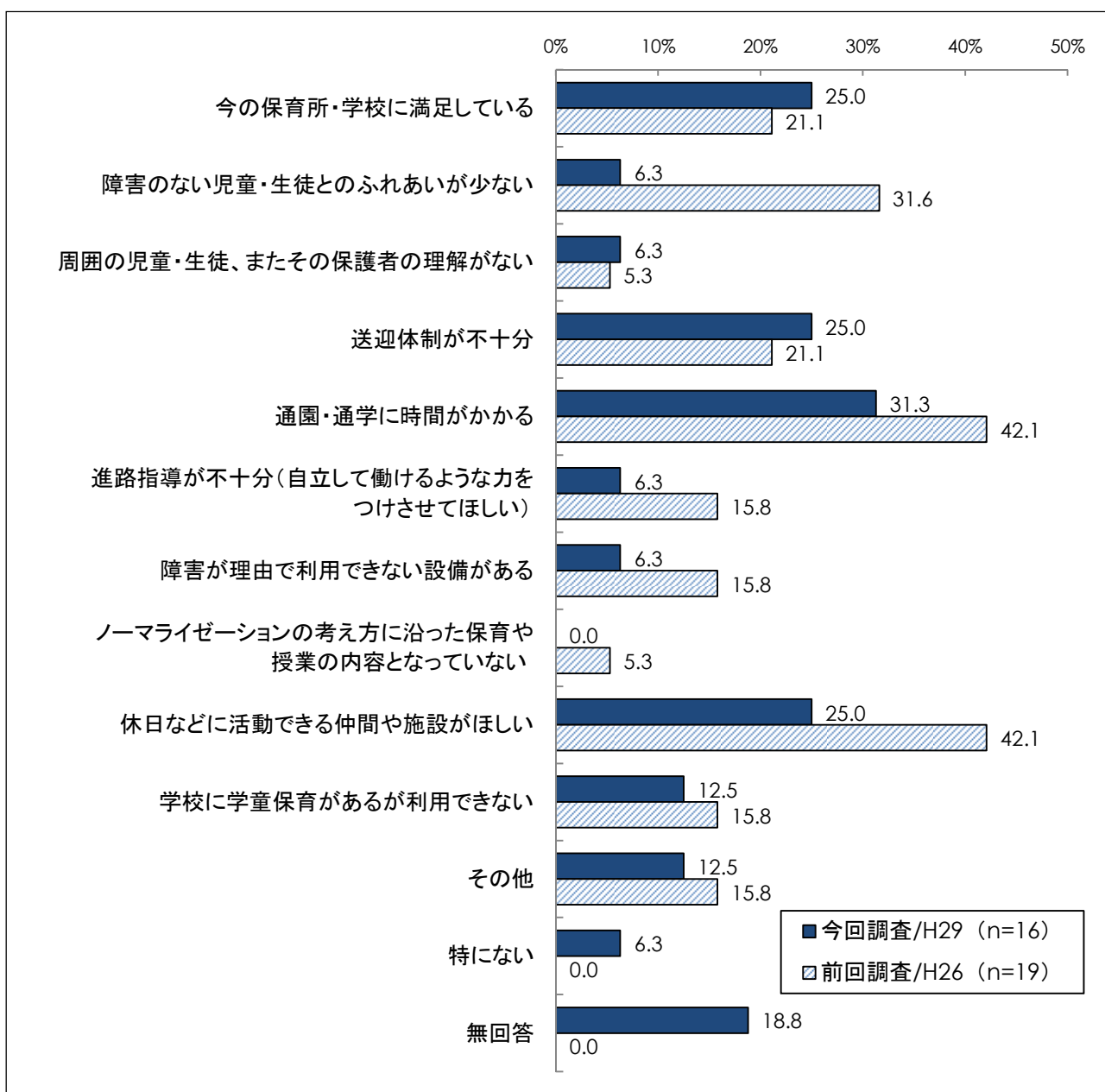
問 29-4 通園・通学して感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

通園・通学に関して感じることをたずねたところ、「通園・通学にかかる時間がかかる」が31.3%と最も多くなっています。次いで「今の保育所・学校に満足している」、「送迎体制が不十分」、「休日などに活動できる仲間や施設がほしい」(同率25.0%)となっています。

前回調査と比較すると、「障害のない児童・生徒とのふれあいが少ない」が25.3ポイント大きく減少し、また、「休日などに活動できる仲間や施設がほしい」も17.1ポイント減少しています。

図表 61 通園・通学に関して感じること (全体、前回との比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害、知的障害では「通園・通学に時間がかかる」、「休日などに活動できる仲間や施設がほしい」などが上位3位以内にあげられています。

また、知的障害では「送迎体制が不十分」（33.3%）、精神障害では「周囲の児童・生徒、またその保護者の理解がない」（50.0%）なども第1位となっています。

図表 62 通園・通学に関して感じる事（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：%>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=16)		通園・通学に時間がかかる	・今の保育所・学校に満足している ・送迎体制が不十分 ・休日などに活動できる仲間や施設がほしい	
		31.3		25.0
障害別	身体障害 (n=8)	その他	・今の保育所・学校に満足している ・通園・通学に時間がかかる ・休日などに活動できる仲間や施設がほしい ・特にない	
		25.0		12.5
	知的障害 (n=12)	・送迎体制が不十分 ・通園・通学に時間がかかる	・今の保育所・学校に満足している ・休日などに活動できる仲間や施設がほしい	
		33.3		25.0
精神障害 (n=2)	・今の保育所・学校に満足している ・周囲の児童・生徒、またその保護者の理解がない ・休日などに活動できる仲間や施設がほしい			
			50.0	

(5) 学校教育修了後の社会参加に関する要望

【問29で「通園・通学中」と回答した方】

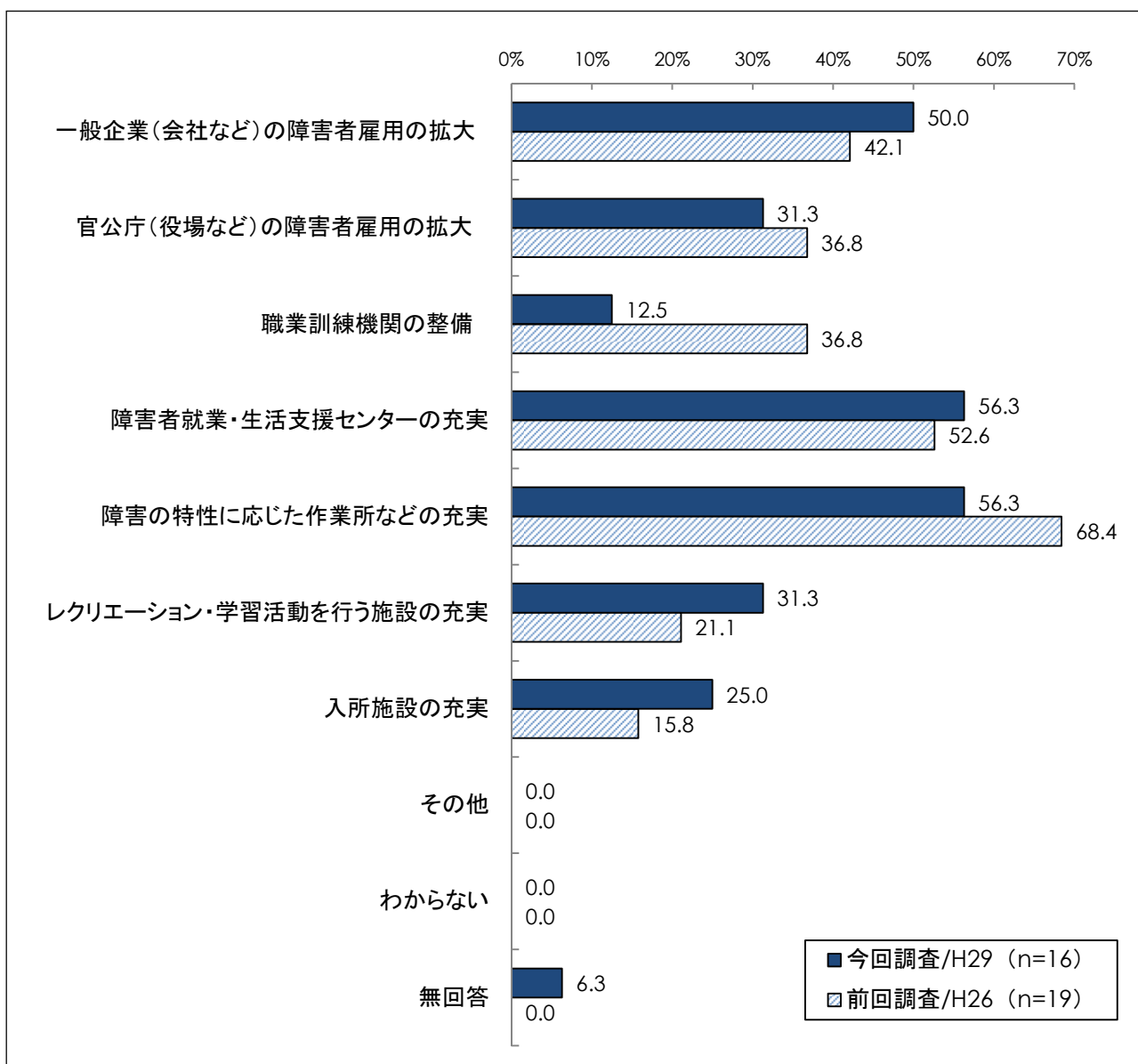
問29-5 学校教育修了後の社会参加に関し、どのような福祉施策を望みますか。(おもなもの3つまで)

【全体の傾向】

学校教育修了後の社会参加に関する要望についてたずねたところ、「障害者就業・生活支援センターの充実」、「障害の特性に応じた作業所などの充実」が同率の56.3%で最も多くなっています。次いで「一般企業（会社など）の障害者雇用の拡大」（50.0%）、「官公庁（役場など）の障害者雇用の拡大」、「レクリエーション・学習活動を行う施設の充実」（同率31.3%）などとなっています。

前回調査と比較すると、「職業訓練機関の整備」が24.3ポイント大きく減少しています。

図表 63 学校教育修了後の社会参加に関する要望（全体、前回との比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「一般企業（会社など）の障害者雇用の拡大」（62.5%）が第1位となっています。

知的障害では「障害者就業・生活支援センターの充実」（66.7%）が第1位、「障害の特性に応じた作業所などの充実」（58.3%）が第2位となっています。

精神障害の第3位では「一般企業（会社など）の障害者雇用の拡大」、「障害者就業・生活支援センターの充実」など、身体障害や知的障害で上位にあげられていた項目の他に、「官公庁（役場など）の障害者雇用の拡大」、「職業訓練機関の整備」（同率 50.0%）などもあげられています。

図表 64 学校教育修了後の社会参加に関する要望（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：％>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=16)		・障害者就業・生活支援センターの充実 ・障害の特性に応じた作業所などの充実		・一般企業(会社など)の 障害者雇用の拡大
			56.3	50.0
障害別	身体障害 (n=8)	・一般企業(会社など)の 障害者雇用の拡大	・障害者就業・生活支援センターの充実 ・障害の特性に応じた作業所などの充実	
				50.0
		62.5		
	知的障害 (n=12)	障害者就業・生活支援センターの充実	障害の特性に応じた作業所などの充実	・一般企業(会社など)の 障害者雇用の拡大
		66.7	58.3	41.7
精神障害 (n=2)	障害の特性に応じた作業所などの充実	・一般企業(会社など)の障害者雇用の拡大 ・官公庁(役場など)の障害者雇用の拡大 ・職業訓練機関の整備 ・障害者就業・生活支援センターの充実		
	100.0		50.0	

8 雇用・就労について

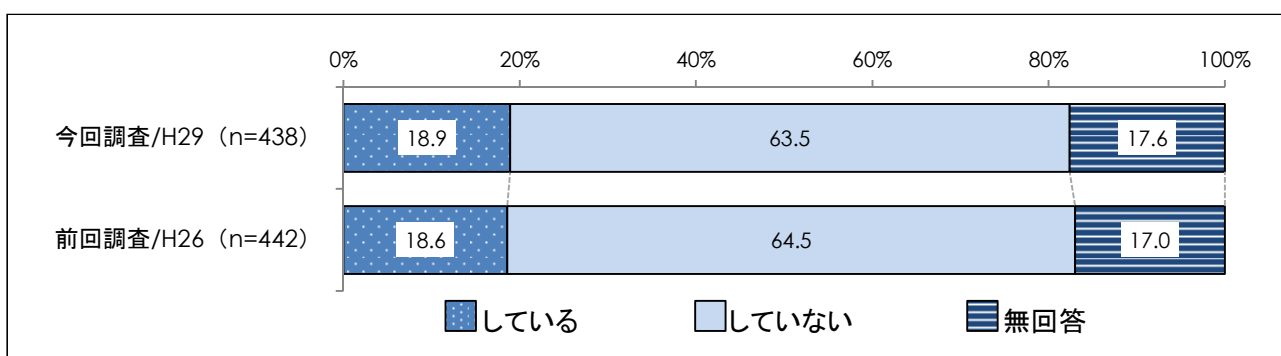
(1) 現在の就労状況

問 30 あなたは、現在仕事をしていますか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

現在の就労状況をたずねたところ、「している」が 18.9%、「していない」が 63.5%となっています。前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

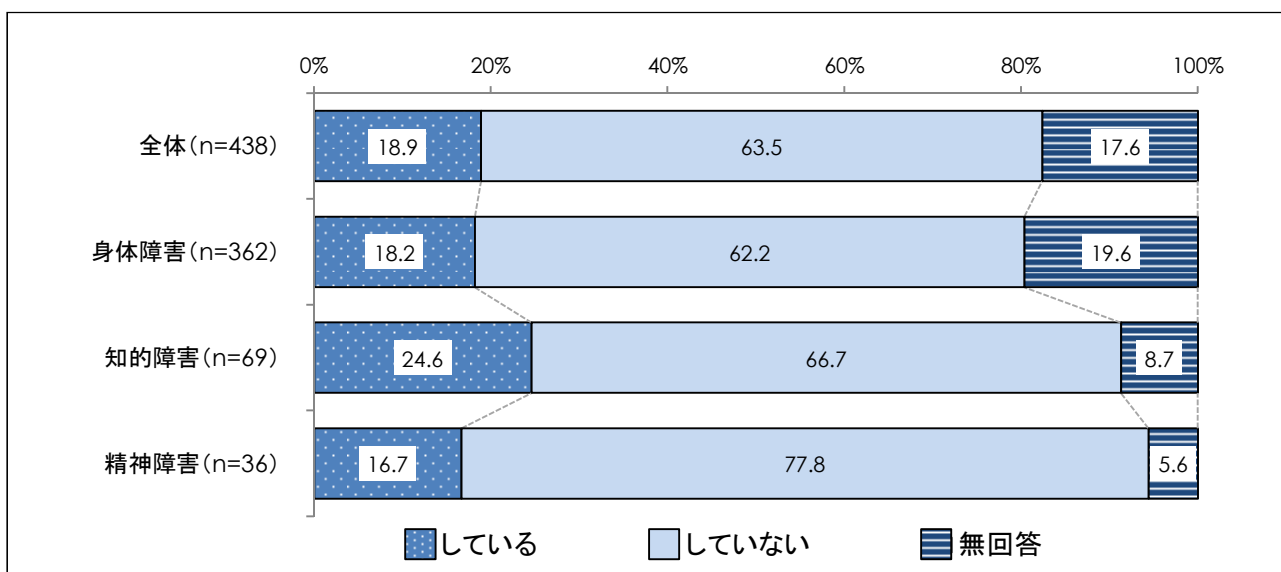
図表 65 現在の就労状況（全体、前回との比較）



【属性別の傾向】

障害別にみると、現在仕事を「している」の割合は、知的障害で最も高く、24.6%となっています。次いで身体障害で 18.2%、精神障害で 16.7%となっています。

図表 66 現在の就労状況（全体、障害別）



【問 30 で「している」と回答した方】

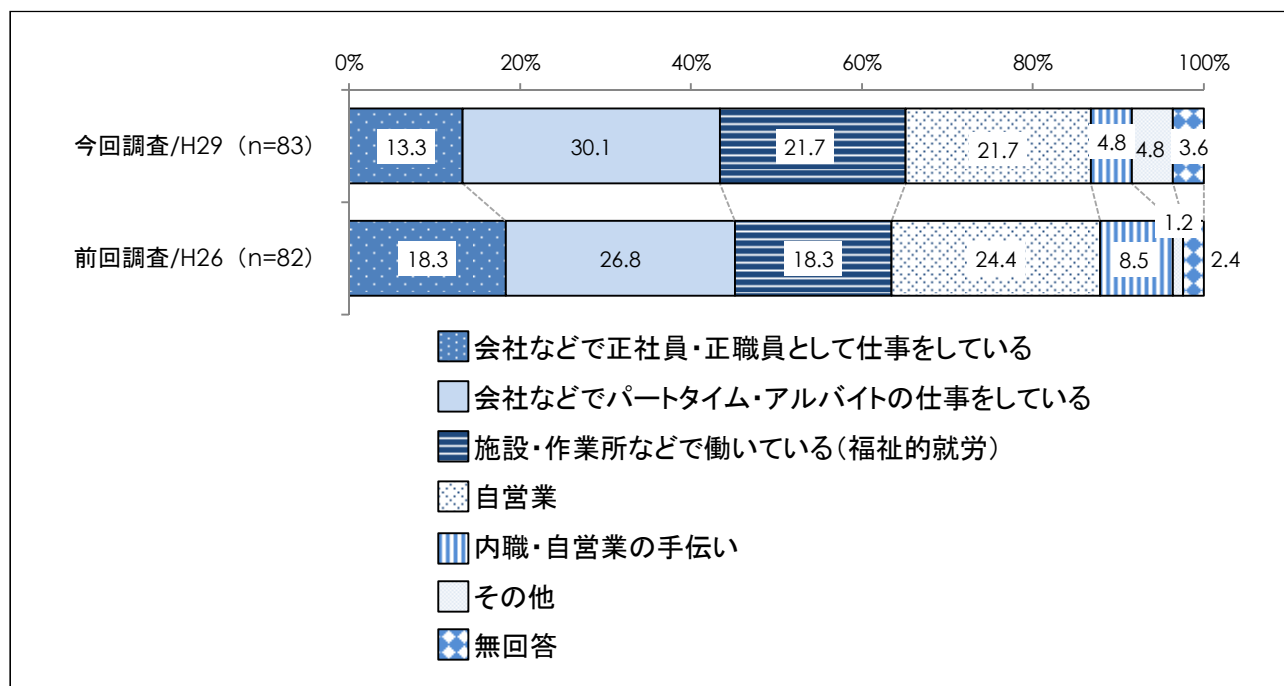
問 30-1 就労の状況や形態は次のどれですか。(○はひとつだけ)

【全体の傾向】

現在の就労形態をたずねたところ、「会社などでパートタイム・アルバイトの仕事をしている」が 30.1%と最も高くなっています。次いで「施設・作業所などで働いている（福祉的就労）」、「自営業」がともに 21.7%、「会社などで正社員・正職員として仕事をしている」が 13.3%となっています。

前回調査と比較すると、「会社などで正社員・正職員として仕事をしている」は 5.0 ポイント減少しています。一方、「会社などでパートタイム・アルバイトの仕事をしている」は 3.3 ポイント、「施設・作業所などで働いている（福祉的就労）」は 3.4 ポイント増加しています。

図表 67 現在の就労形態（全体、前回との比較）



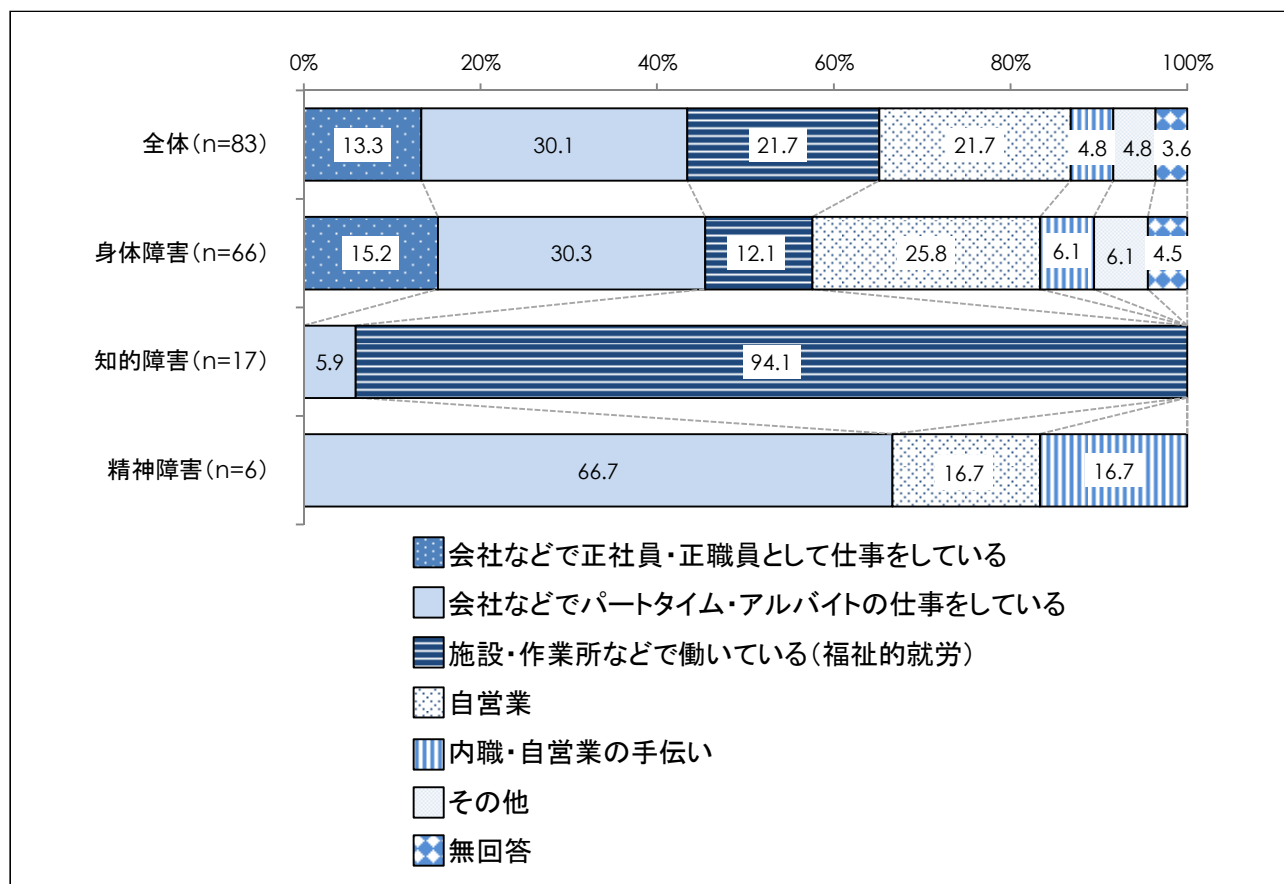
【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「会社などでパートタイム・アルバイトの仕事をしている」が30.3%と最も高く、次いで「自営業」(25.8%)、「会社などで正社員・正職員として仕事をしている」(15.2%)などとなっています。

知的障害では「施設・作業所などで働いている(福祉的就労)」が94.1%と大半を占めています。

精神障害では「会社などでパートタイム・アルバイトの仕事をしている」が66.7%と6割を超えています。

図表 68 現在の就労形態（全体、障害別）



(2) 就労していない理由

【問30で「していない」と回答した方】

問31-1 現在仕事をしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

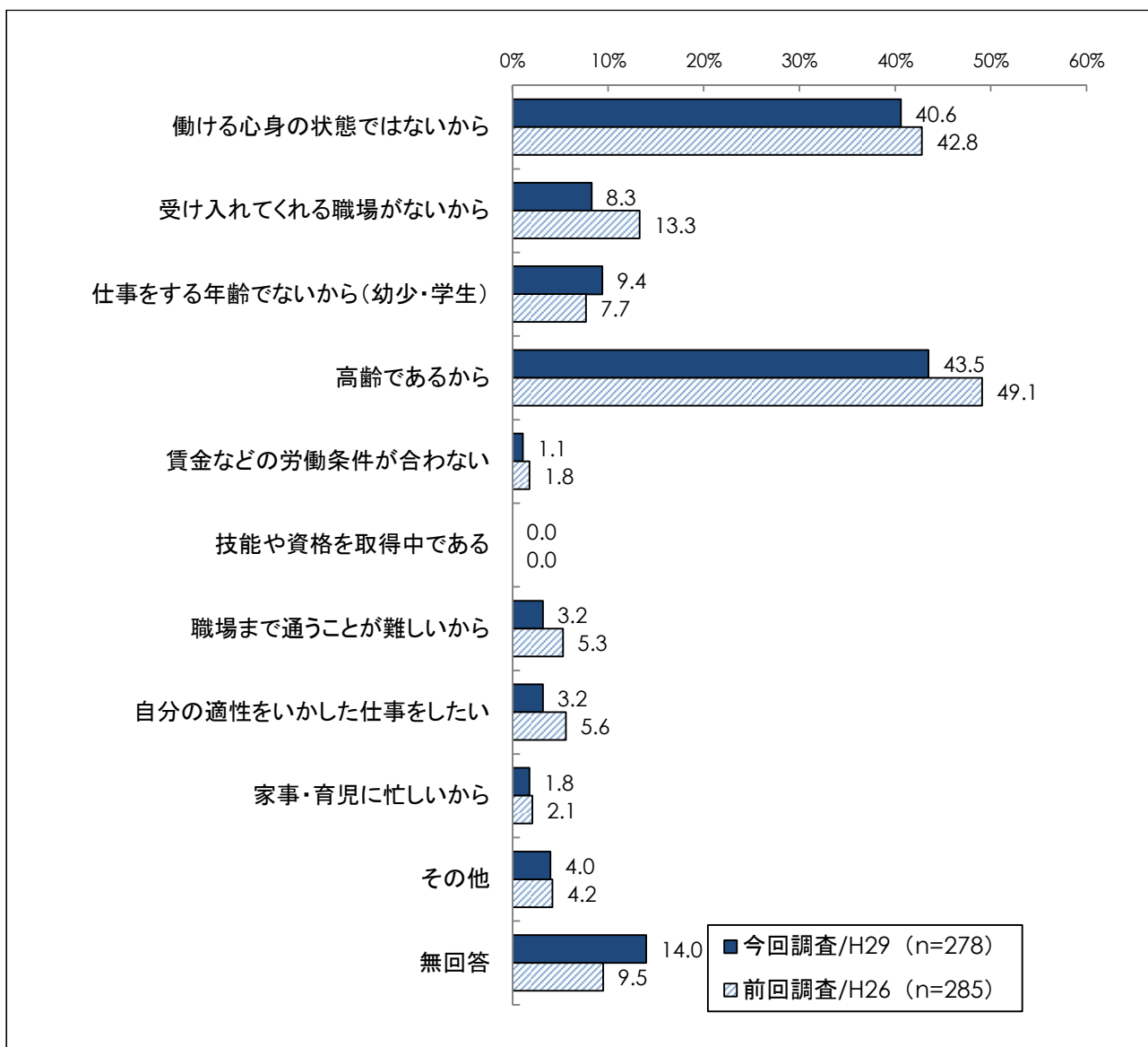
【全体の傾向】

現在就労していない理由をたずねたところ、「高齢であるから」が43.5%と最も多く、次いで「働ける心身の状態ではないから」が40.6%となっており、この2項目が主な理由となっています。

さらに、「仕事をする年齢でないから(幼少・学生)」(9.4%)、「受け入れてくれる職場がないから」(8.3%) などとなっています。

前回調査と比較すると、同様の傾向となっています。

図表 69 就労していない理由(全体、前回との比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では、第1位が「高齢であるから」（48.4%）、第2位は「働ける心身の状態ではないから」（41.8%）、第3位が「受け入れてくれる職場がないから」、「仕事をする年齢でないから（幼少・学生）」（同率 8.4%）となっています。

知的障害では「働ける心身の状態ではないから」（23.9%）が第1位、続いて「仕事をする年齢でないから（幼少・学生）」（19.6%）、「高齢であるから」（10.9%）となっています。

精神障害では第3位が「職場まで通うことが難しいから」（14.3%）となっています。

図表 70 就労していない理由（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：%>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=278)		高齢であるから 43.5	働ける心身の状態ではないから 40.6	仕事をする年齢でないから(幼少・学生) 9.4
障害別	身体障害 (n=225)	高齢であるから 48.4	働ける心身の状態ではないから 41.8	・受け入れてくれる職場がないから ・仕事をする年齢でないから(幼少・学生) 8.4
	知的障害 (n=46)	働ける心身の状態ではないから 23.9	仕事をする年齢でないから(幼少・学生) 19.6	高齢であるから 10.9
	精神障害 (n=28)	働ける心身の状態ではないから 64.3	高齢であるから 25.0	職場まで通うことが難しいから 14.3

(3) 今後の就労意向

【問30で「していない」と回答した方】

問31-2 就労する場合、どのような仕事につきたいですか。(〇はひとつだけ)

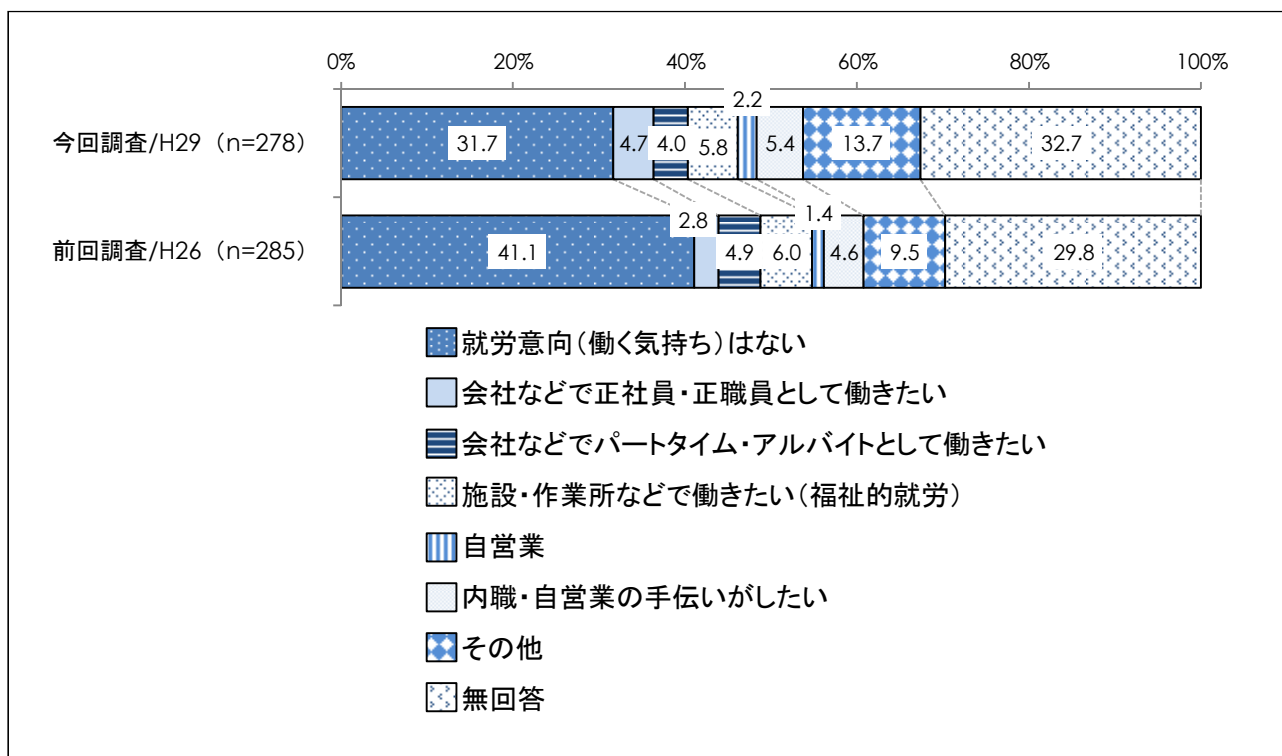
【全体の傾向】

現在就労していないと回答した方に、どのような仕事につきたいかについてたずねたところ、「就労意向（働く気持ち）はない」が31.7%と最も高くなっています。次いで「その他」（13.7%）、「施設・作業所などで働きたい（福祉的就労）」（5.8%）、「内職・自営業の手伝いがしたい」（5.4%）、「会社などで正社員・正職員として働きたい」（4.7%）、「会社などでパートタイム・アルバイトとして働きたい」（4.0%）などとなっています。

仕事をしていない主な理由として、「高齢であるから」、または「働ける心身の状態ではないから」があげられていたため、就労意向がない人が約3割を占めており、会社などで働きたい人の割合は低くなっています。

前回調査と比較すると、「就労意向（働く気持ち）はない」が9.4ポイント減少しています。

図表 71 今後の就労意向（全体、前回との比較）

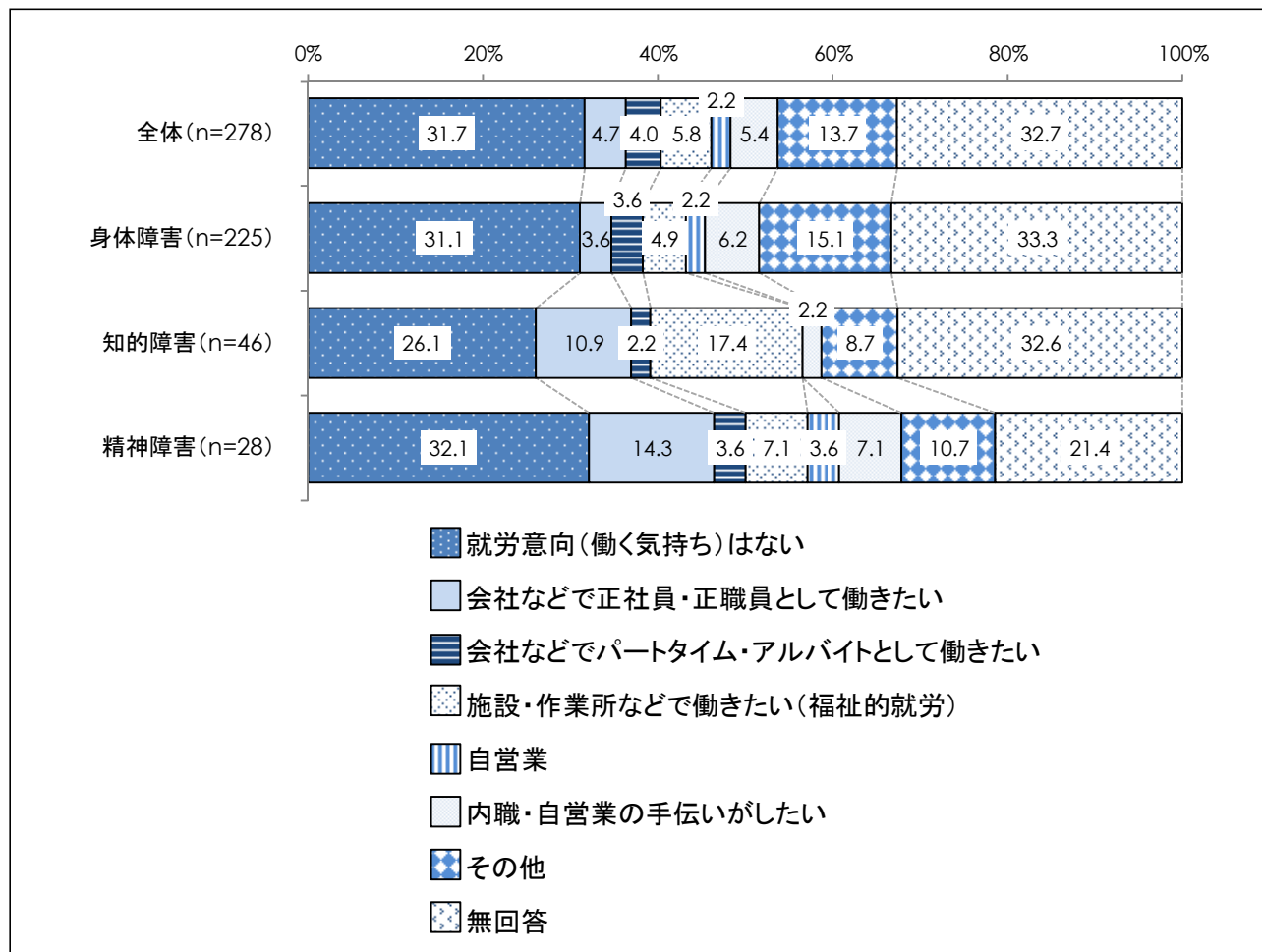


【属性別の傾向】

障害別にみると、「就労意向（働く気持ち）はない」が最も高く、中でも身体障害、精神障害では3割を超えています。

また、「会社などで正社員・正職員として働きたい」の割合については、精神障害で高く、14.3%となっています。「施設・作業所などで働きたい（福祉的就労）」については知的障害で高く、17.4%となっています。

図表 72 今後の就労意向（全体、障害別）



(4) 就労のために必要な支援

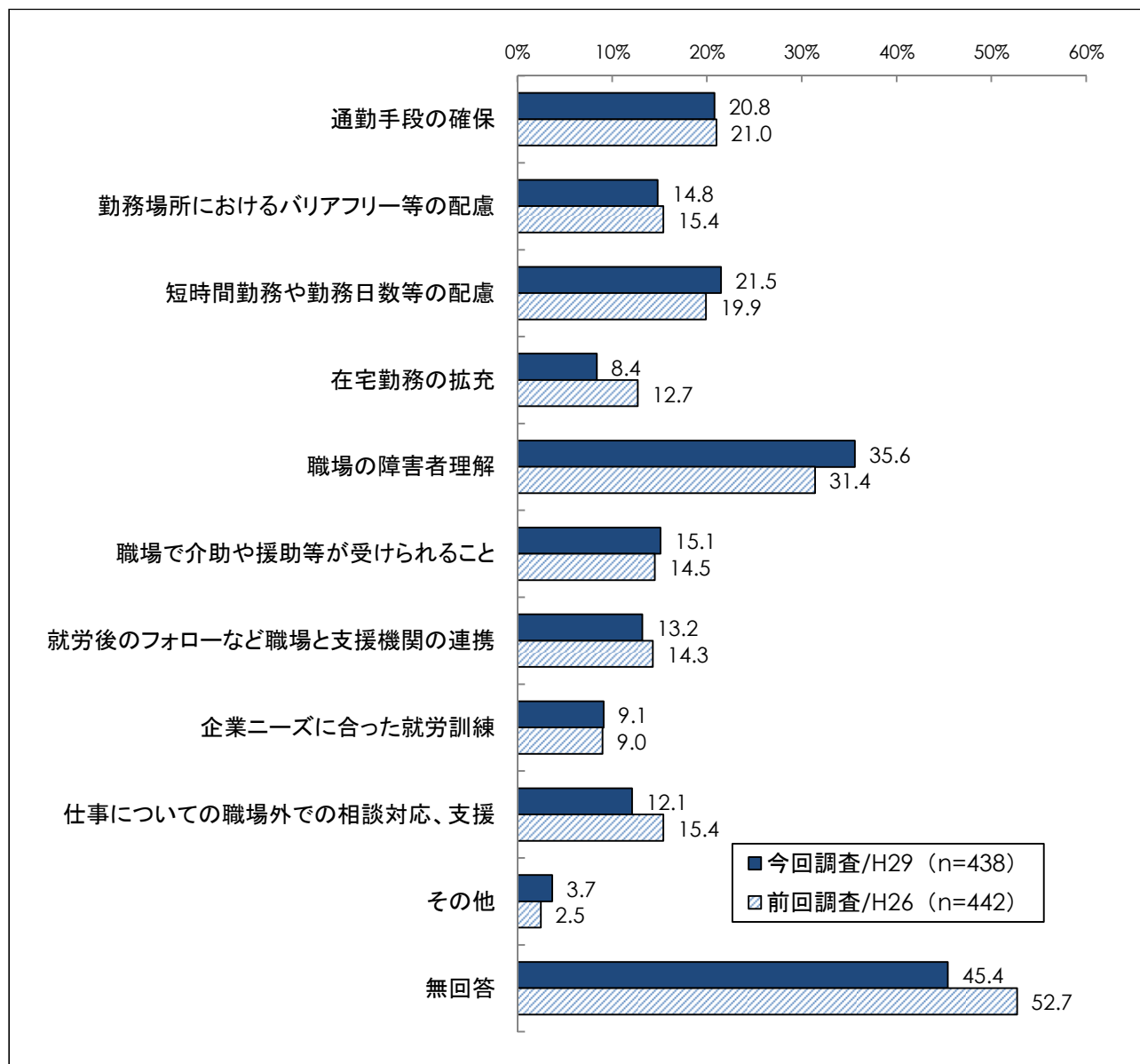
問 32 あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

就労のために必要な支援をたずねたところ、「職場の障害者理解」が35.6%と最も多く、次いで「短時間勤務や勤務日数等の配慮」(21.5%)、「通勤手段の確保」(20.8%)、「職場で介助や援助等が受けられること」(15.1%)、「勤務場所におけるバリアフリー等の配慮」(14.8%) などとなっています。

前回調査と比較すると、「職場の障害者理解」は4.2ポイント増加、「在宅勤務の拡充」は4.3ポイント減少、「仕事についての職場外での相談対応、支援」は3.3ポイント減少していますが、概ね前回と同様の傾向となっています。

図表 73 就労のために必要な支援（全体、前回との比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害、精神障害では第1位から第3位まで全体の結果と同様となっており、第1位が「職場の障害者理解」、第2位が「短時間勤務や勤務日数等の配慮」、第3位が「通勤手段の確保」となっています。

知的障害では、「通勤手段の確保」に加えて、「職場で介助や援助等が受けられること」、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」が同率で第2位、3位となっています。

図表 74 就労のために必要な支援や配慮（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		職場の障害者理解 35.6	短時間勤務や勤務日数等の配慮 21.5	通勤手段の確保 20.8
障害別	身体障害 (n=362)	職場の障害者理解 32.0	短時間勤務や勤務日数等の配慮 21.3	通勤手段の確保 19.9
	知的障害 (n=69)	職場の障害者理解 56.5	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤手段の確保 ・職場で介助や援助等が受けられること ・就労後のフォローなど職場と支援機関の連携 36.2	
	精神障害 (n=36)	職場の障害者理解 36.1	短時間勤務や勤務日数等の配慮 27.8	通勤手段の確保 22.2

9 外出・移動支援について

(1) 外出時の交通手段

問 33 通勤や通学（通園）、施設や病院への通院など、外出する際の移動手段は何ですか。（おもなもの3つまで〇）

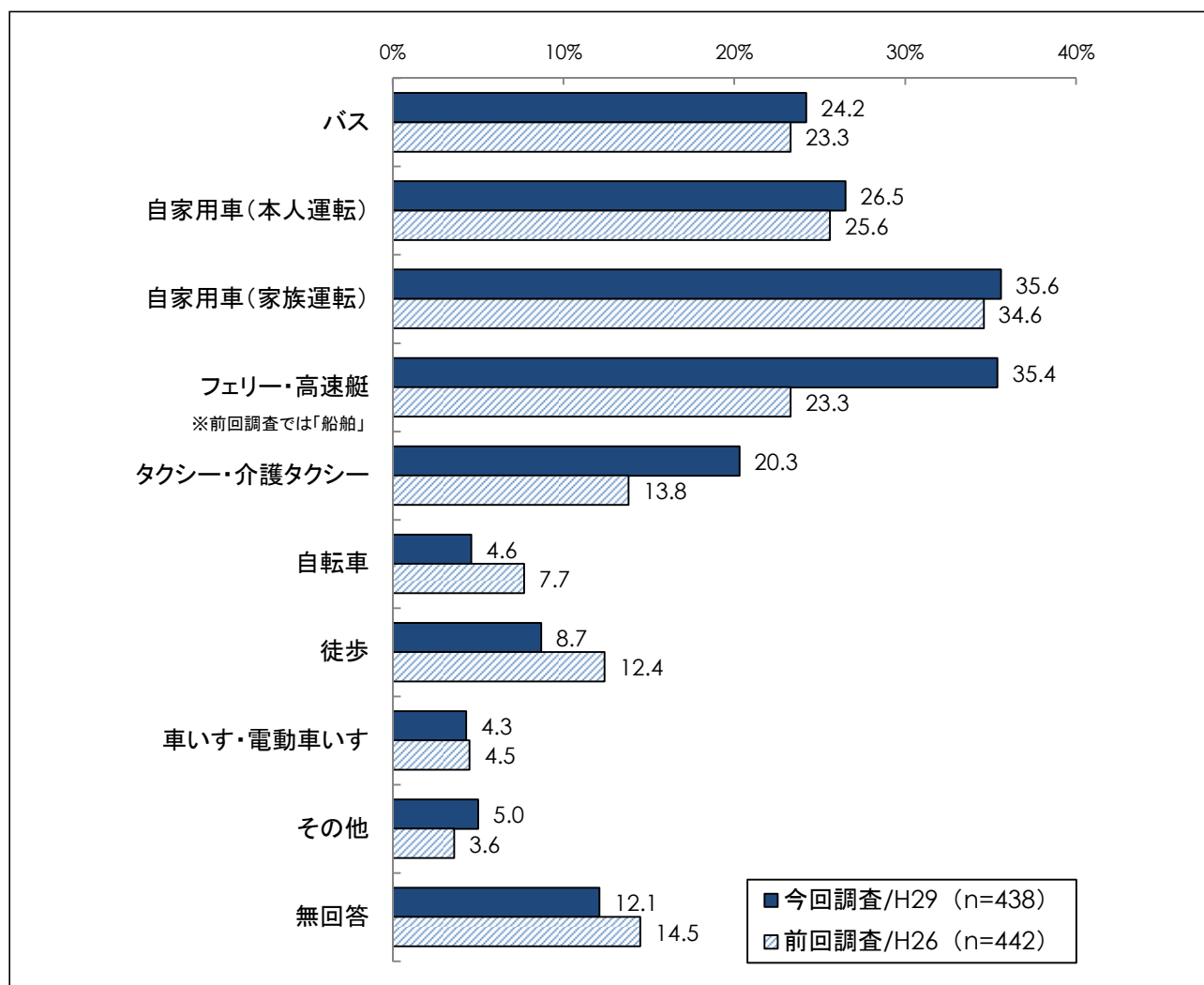
【全体の傾向】

外出時の移動手段についてたずねたところ、「自家用車（家族運転）」が 35.6%と最も多く、次いで 0.2 ポイント差で「フェリー・高速艇」が 35.4%となっており、この2項目が外出時の主要な移動手段となっています。

さらに「自家用車（本人運転）」（26.5%）、「バス」（24.2%）、「タクシー・介護タクシー」（20.3%）が続いています。

前回調査と比較すると、「フェリー・高速艇」が 12.1 ポイント大きく増加しています。

図表 75 外出時の移動手段（全体、前回との比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害、知的障害では「自家用車（家族運転）」が第1位、「フェリー・高速艇」が第2位となっています。第3位では違いがみられ、身体障害では「自家用車（本人運転）」が29.8%、知的障害では「バス」が26.1%となっています。

一方、精神障害では「バス」（38.9%）が第1位、第2位は「フェリー・高速艇」（27.8%）、第3位が「自家用車（家族運転）」（22.2%）となっています。

図表 76 外出時の交通手段（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		自家用車(家族運転)	フェリー・高速艇	自家用車(本人運転)
		35.6	35.4	26.5
障害別	身体障害 (n=362)	自家用車(家族運転)	フェリー・高速艇	自家用車(本人運転)
		36.2	35.1	29.8
	知的障害 (n=69)	自家用車(家族運転)	フェリー・高速艇	バス
		47.8	43.5	26.1
	精神障害 (n=36)	バス	フェリー・高速艇	自家用車(家族運転)
		38.9	27.8	22.2

(2) 外出の頻度

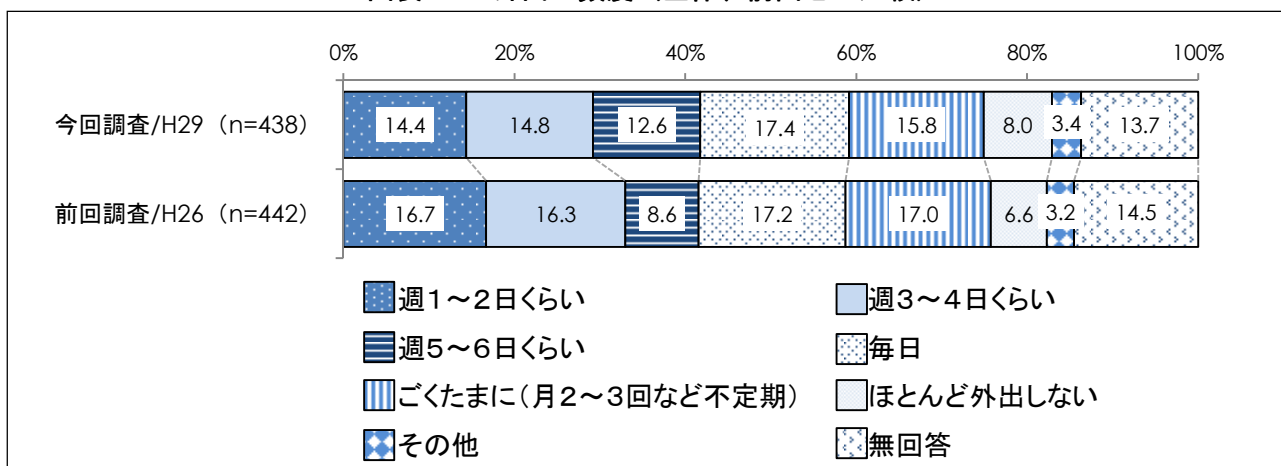
問 34 どのくらいの頻度（回数）で外出していますか。（〇はひとつだけ）

【全体の傾向】

外出の頻度についてたずねたところ、「毎日」が17.4%と最も高く、次いで「ごくたまに（月2～3回など不定期）」（15.8%）、「週3～4日くらい」（14.8%）となっています。

前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっていますが、1週間の内の外出頻度は「週1～2日くらい」、「週3～4日くらい」がやや減少、「週5～6日くらい」、「毎日」がやや増加しています。

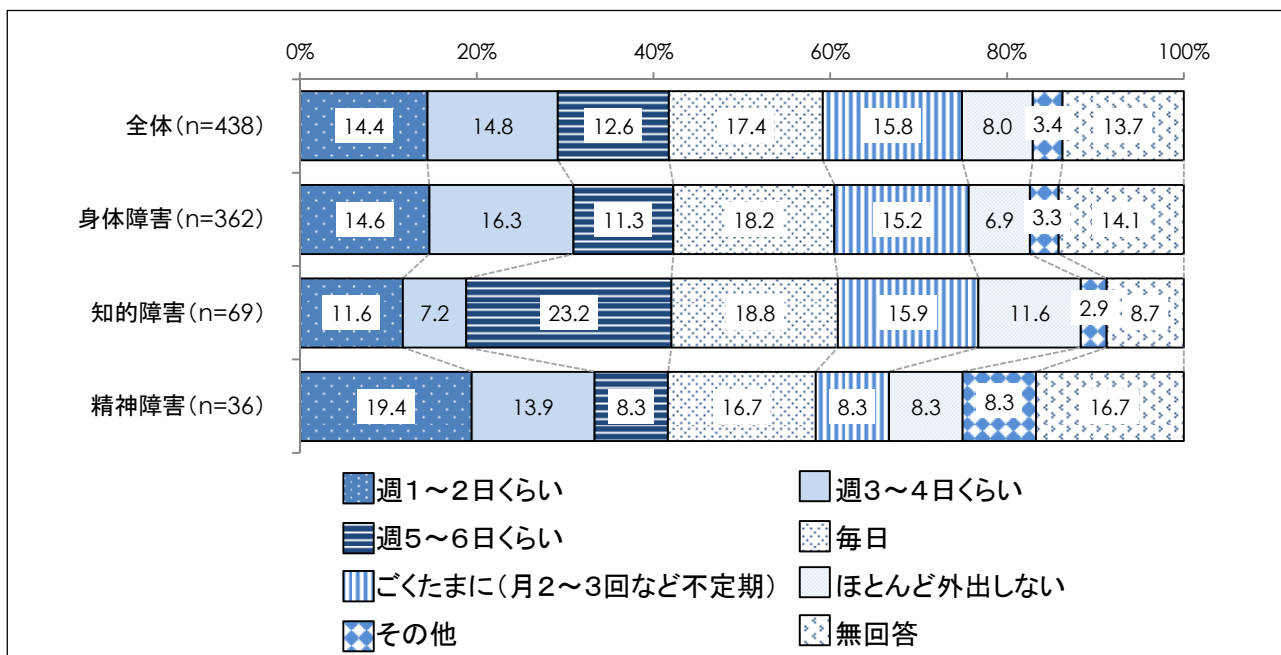
図表 77 外出の頻度（全体、前回との比較）



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「毎日」（18.2%）、知的障害では「週5～6日くらい」（23.2%）、精神障害では「週1～2日くらい」（19.4%）がそれぞれ最も高くなっています。

図表 78 外出の頻度（全体、障害別）



(3) 外出の際の同伴者

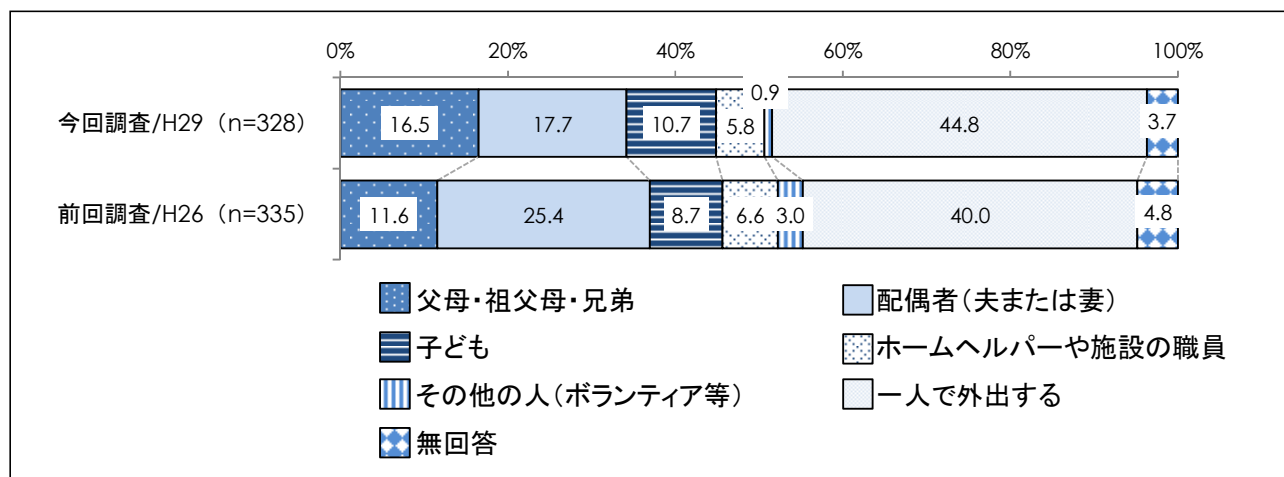
【問34で「週1～2日くらい」「週3～4日くらい」「週5～6日くらい」「毎日」「ごくたまに（月2～3回など不定期）」と回答した方】

問34-1 外出する際の主な同伴者は誰ですか。（○はひとつだけ）

【全体の傾向】

外出の際の同伴者については、「配偶者（夫または妻）」が17.7%と高くなっています。一方、「一人で外出する」は44.8%と最も高くなっています。前回調査と比較すると、「父母・祖父母・兄弟」は4.9ポイント増加し、「配偶者（夫または妻）」が7.7ポイント減少しています。

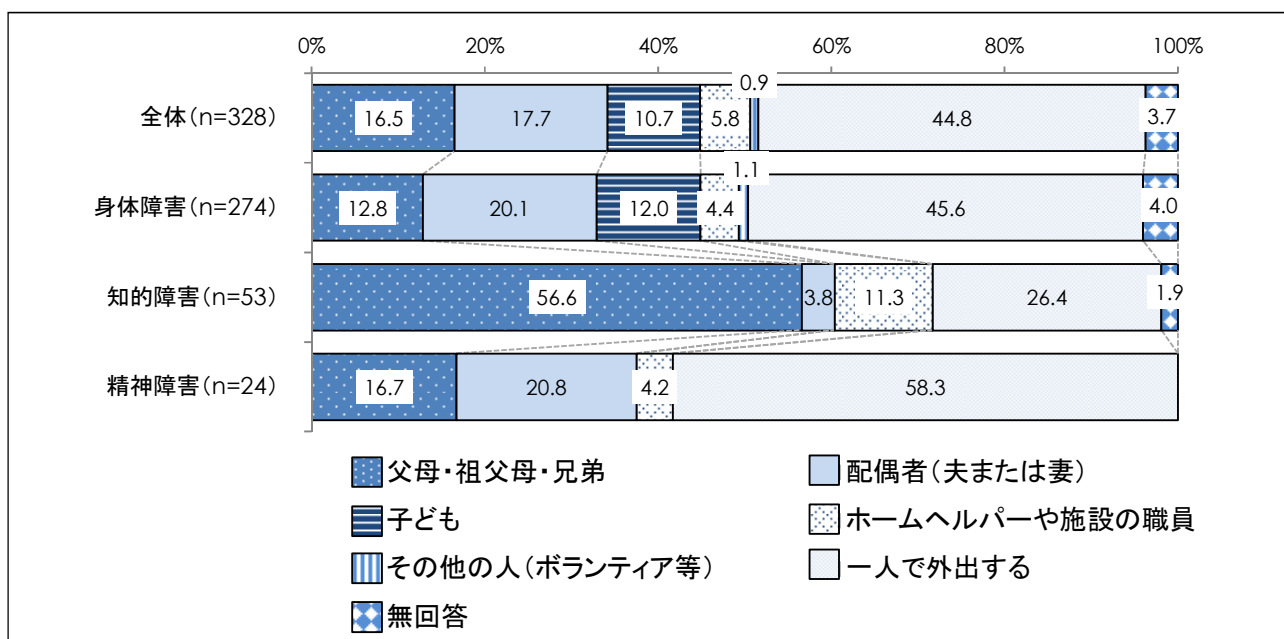
図表 79 外出する際の同伴者（全体、前回との比較）



【属性別の傾向】

障害別にみると、知的障害では「父母・祖父母・兄弟」が56.6%となっています。精神障害での同伴者としては「配偶者（夫または妻）」（20.8%）、「父母・祖父母・兄弟」（16.7%）などの割合が高くなっています。一方、「一人で外出する」が58.3%と最も高く、半数以上の方が一人で外出しています。

図表 80 外出する際の同伴者（全体、障害別）



(4) 外出の目的

問 35 どのような目的で外出しますか。(あてはまるものすべてに○)

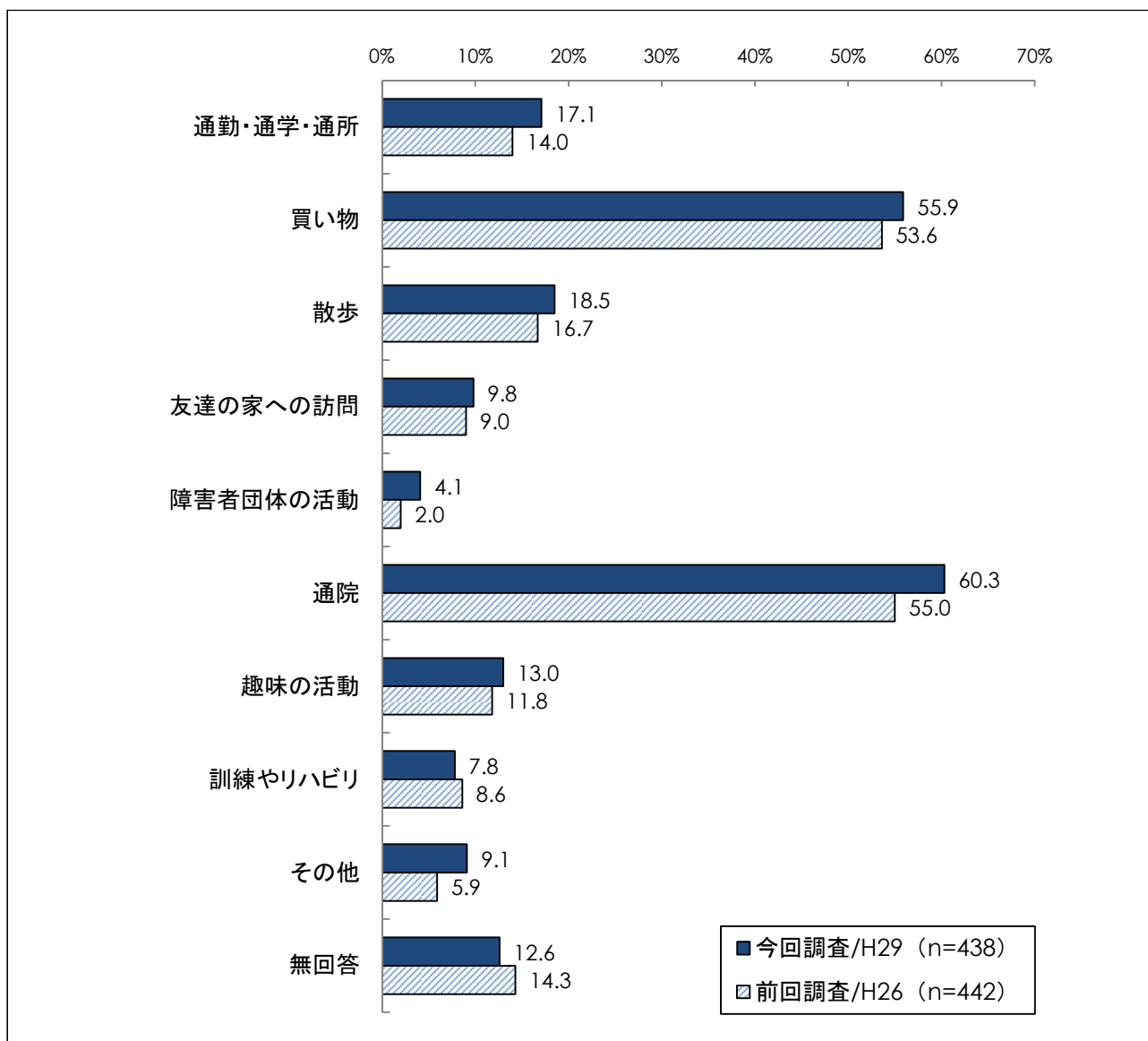
【全体の傾向】

外出の目的をたずねたところ、「通院」が60.3%と最も多く、次いで「買い物」が55.9%となっています。この2項目が主な外出の目的となっており、その割合は突出しています。

続いて、「散歩」(18.5%)、「通勤・通学・通所」(17.1%)、「趣味の活動」(13.0%) などとなっています。

前回調査と比較すると、「通院」が5.3ポイント増加、また、「通勤・通学・通所」が6.1ポイント増加、「買い物」が2.3ポイント増加していますが、概ね前回と同様の傾向となっています。

図表 81 外出の目的 (全体、前回との比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では第1位が「通院」（64.6%）、第2位が「買い物」（55.8%）、第3位が「散歩」（18.2%）となっており、全体と同様の傾向となっています。

知的障害では、第1位が「買い物」（58.0%）、第2位が「通勤・通学・通所」（40.6%）、第3位が「通院」（37.7%）となっています。

精神障害では、「買い物」（77.8%）が第1位、次いで「通院」（58.3%）、「散歩」（27.8%）となっています。

図表 82 外出の目的（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：%>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		通院	買い物	散歩
		60.3	55.9	18.5
障害別	身体障害 (n=362)	通院	買い物	散歩
		64.6	55.8	18.2
	知的障害 (n=69)	買い物	通勤・通学・通所	通院
		58.0	40.6	37.7
	精神障害 (n=36)	買い物	通院	散歩
		77.8	58.3	27.8

(5) 外出の際に不便に感じること

問 36 外出のときに不便に感じたり、困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

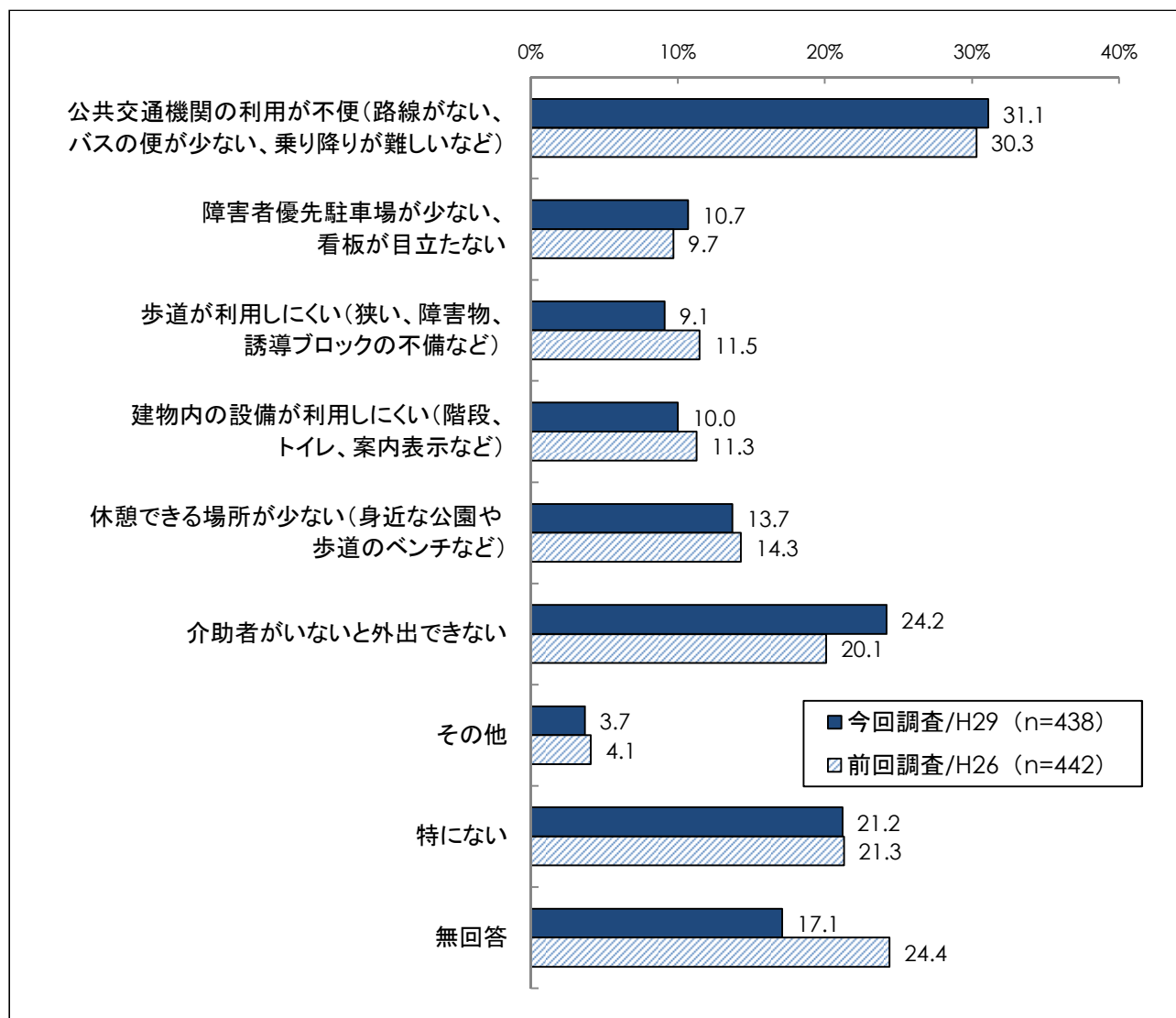
【全体の傾向】

外出の際に不便に感じることに ついてたずねたところ、「公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗り降りが難しいなど）」が31.1%と最も多くなっています。次いで「介助者がいないと外出できない」(24.2%)、「休憩できる場所が少ない(身近な公園や歩道のベンチなど)」(13.7%)、「障害者優先駐車場が少ない、看板が目立たない」(10.7%) などとなっています。

一方、「特にない」は21.2%となっており、全体では第3位の割合となっています。

前回調査と比較すると、「介助者がいないと外出できない」が 4.1 ポイント増加していますが、概ね前回と同様の傾向となっています。

図表 83 外出の際に不便に感じること（全体、前回との比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗り降りが難しいなど）」が 29.8%で第1位、第2位は「特にない」（22.7%）、第3位は「介助者がいないと外出できない」（20.4%）となっています。

知的障害では「介助者がいないと外出できない」が 50.7%と5割を超えており、第1位となっています。次いで「公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗り降りが難しいなど）」（39.1%）、「休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）」（14.5%）となっています。

精神障害の順位は、第1位、第3位は身体障害と同様となっています。一方、第2位は、「休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）」（27.8%）となっています。

図表 84 外出の際に不便に感じる事（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗り降りが難しいなど）	介助者がいないと外出できない	特にない
		31.1	24.2	21.2
障害別	身体障害 (n=362)	公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗り降りが難しいなど）	特にない	介助者がいないと外出できない
		29.8	22.7	20.4
	知的障害 (n=69)	介助者がいないと外出できない	公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗り降りが難しいなど）	休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）
		50.7	39.1	14.5
	精神障害 (n=36)	公共交通機関の利用が不便（路線がない、バスの便が少ない、乗り降りが難しいなど）	休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）	介助者がいないと外出できない
		36.1	27.8	19.4

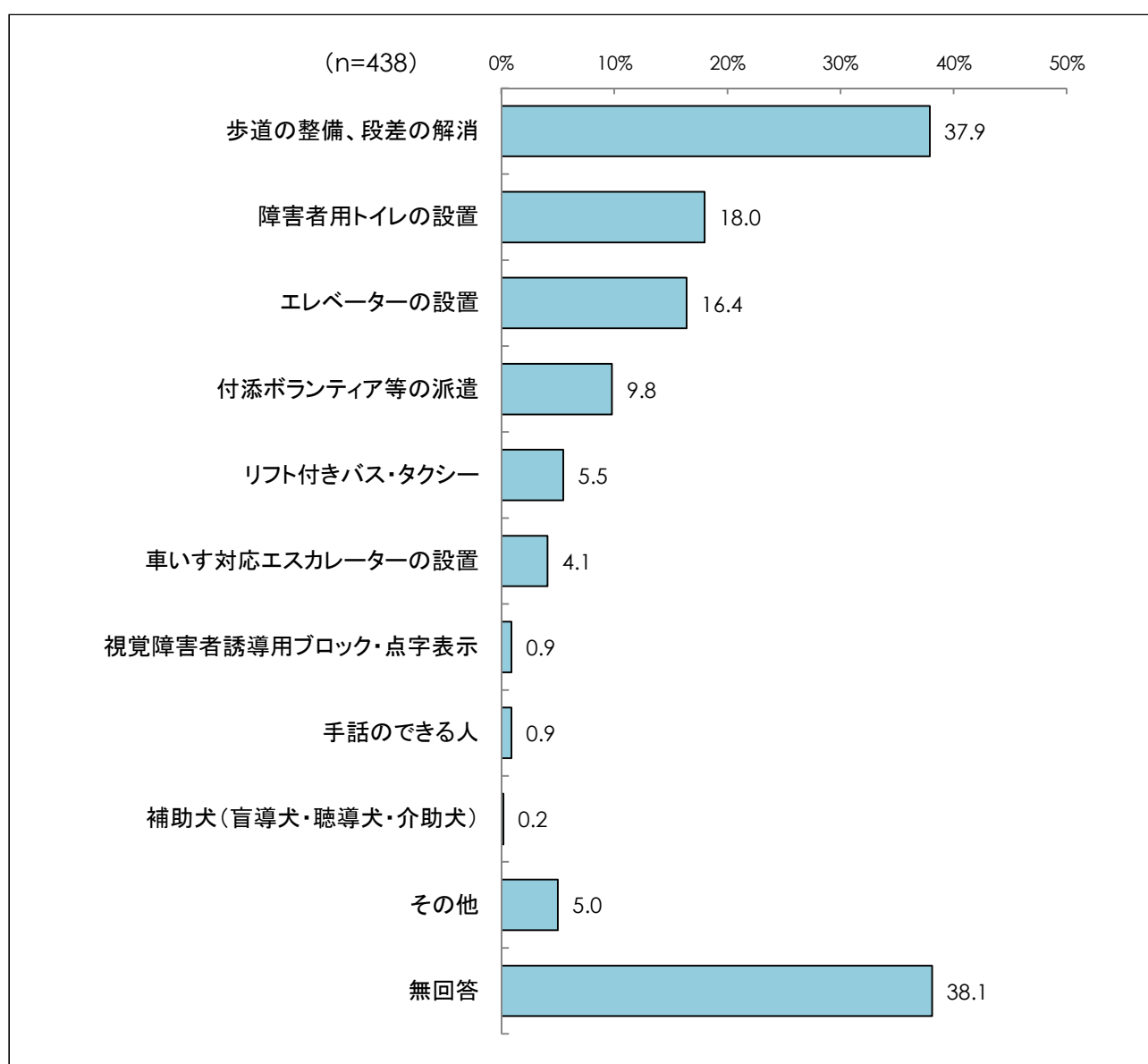
(6) 外出のために整備してほしいこと

問 37 外出のために整備してほしいものは何ですか。(おもなもの3つまで○)

【全体の傾向】

外出のために整備してほしいものをたずねたところ、「歩道の整備、段差の解消」が37.9%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「障害者用のトイレの設置」(18.0%)、「エレベーターの設置」(16.4%)、「付添ボランティア等の派遣」(9.8%)、「リフト付きバス・タクシー」(5.5%)、「車いす対応エスカレーターの設置」(4.1%) などとなっています。

図表 85 外出のために整備してほしいもの（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

障害別にみると、すべての障害において、「歩道の整備、段差の解消」が第1位となっています。

続いて、身体障害では、第2位は「エレベーターの設置」(18.0%)、第3位は「障害者用トイレの設置」(17.4%)となっています。

知的障害では、第2位、3位同率で「障害者用トイレの設置」、「付添ボランティア等の派遣」(24.6%)となっています。

精神障害では、第2位は「エレベーターの設置」(13.9%)、第3位は「障害者用トイレの設置」、「リフト付きバス・タクシー」、「付添ボランティア等の派遣」(同率 8.3%)となっています。

身体障害ではエレベーターやトイレなど設備的なもの、それに加えて、知的障害や精神障害では付添ボランティアなど人材の派遣を求める意見が多くなっています。

図表 86 外出のために整備してほしいもの(全体、障害別/複数回答)

<上位3位/単位:%>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		歩道の整備、段差の解消	障害者用トイレの設置	エレベーターの設置
		37.9	18.0	16.4
障害別	身体障害 (n=362)	歩道の整備、段差の解消	エレベーターの設置	障害者用トイレの設置
		39.5	18.0	17.4
	知的障害 (n=69)	歩道の整備、段差の解消	・障害者用トイレの設置 ・付添ボランティア等の派遣	
		39.1	24.6	
精神障害 (n=36)	歩道の整備、段差の解消	エレベーターの設置	・障害者用トイレの設置 ・リフト付きバス・タクシー ・付添ボランティア等の派遣	
	30.6	13.9	8.3	

10 社会参加について

(1) 最近の社会参加の状況と今後の希望

問 38 あなたは、最近（過去3か月程度）どのような活動をしましたか。（あてはまるものすべてに○）

問 39 あなたは、今後どのような活動をしたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

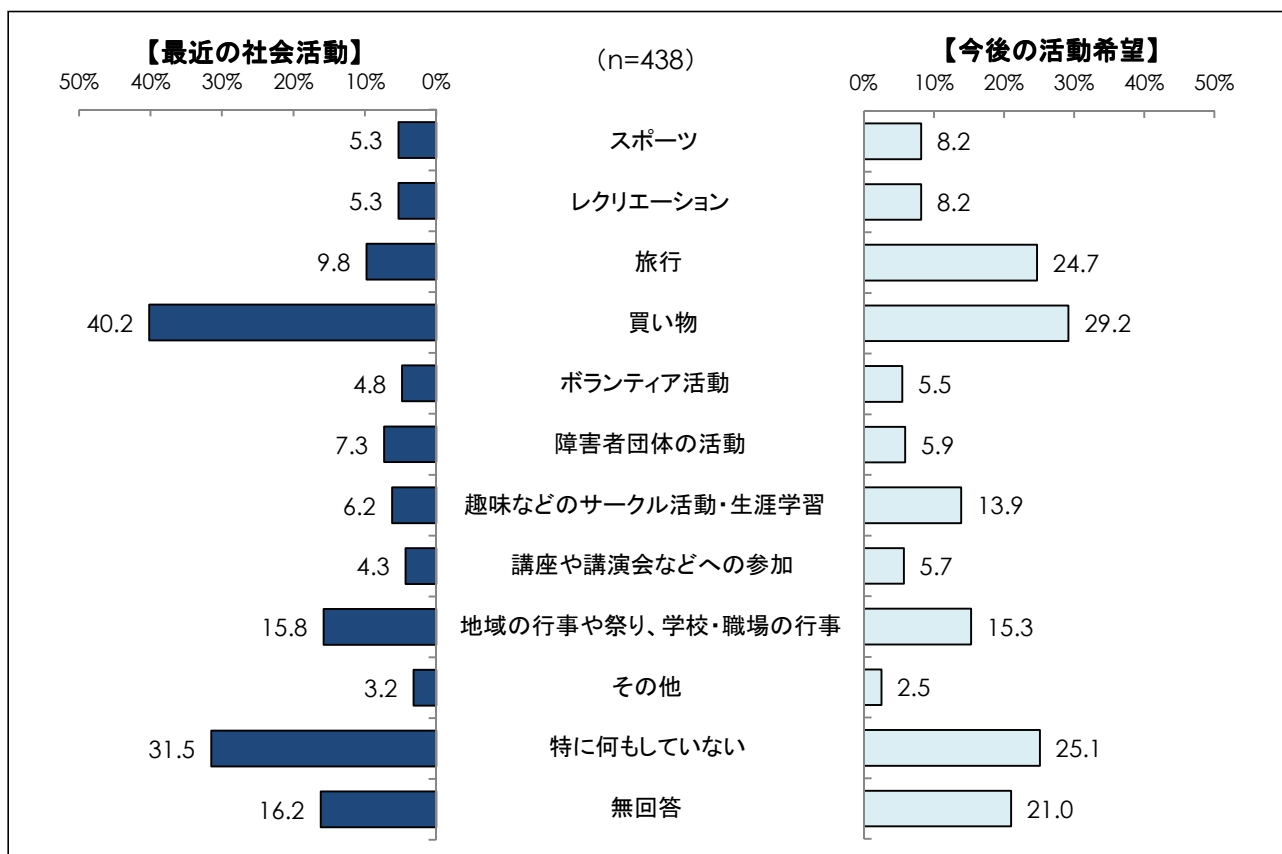
【全体の傾向】

最近の社会活動の状況についてたずねたところ、「買い物」が40.2%と最も多くなっています。次いで「地域の行事や祭り、学校・職場の行事」（15.8%）、「旅行」（9.8%）などとなっています。一方、「特に何もしていない」は31.5%となっており、全体では第2位の割合となっています。

今後の活動希望については、「買い物」が29.2%と最も多く、次いで「旅行」（24.7%）、「地域の行事や祭り、学校・職場の行事」（15.3%）、「趣味などのサークル活動・生涯学習」（13.9%）などとなっています。一方、「特に何もしていない」が25.1%となっており、全体では第2位の割合となっています。

また、最近の社会活動の割合に比べ、今後の活動希望の割合が上回っている項目は、「スポーツ」、「レクリエーション」、「旅行」、「ボランティア活動」、「趣味などのサークル活動・生涯学習」、「講座や講演会などへの参加」となっており、これらについては、最近では活動していないが、今後活動していきたい項目となっています。

図表 87 最近の社会活動の状況と今後の活動希望（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

障害別に最近の社会参加の状況をみると、知的障害では「地域の行事や祭り、学校・職場の行事」(29.0%)が第2位、身体障害、精神障害では「特に何もしていない」が第2位となっています。

今後の活動希望については、身体障害、知的障害の第3位は「旅行」、精神障害の第2位は「趣味などのサークル活動・生涯学習」、「特に何もしたくない」(同率 19.4%)となっています。

図表 88 最近の社会活動の状況と今後の活動希望（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：%>

【最近の社会活動】

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		買い物 40.2	特に何もしていない 31.5	地域の行事や祭り、学校・職場の行事 15.8
障害別	身体障害 (n=362)	買い物 39.5	特に何もしていない 31.8	地域の行事や祭り、学校・職場の行事 13.5
		知的障害 (n=69)	買い物 39.1	地域の行事や祭り、学校・職場の行事 29.0
	精神障害 (n=36)	買い物 61.1	特に何もしていない 19.4	地域の行事や祭り、学校・職場の行事 13.9

【今後の活動希望】

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		買い物 29.2	特に何もしたくない 25.1	旅行 24.7
障害別	身体障害 (n=362)	買い物 26.0	特に何もしたくない 25.4	旅行 24.6
		知的障害 (n=69)	買い物 42.0	地域の行事や祭り、学校・職場の行事 34.8
	精神障害 (n=36)	買い物 47.2	・趣味などのサークル活動・生涯学習 ・特に何もしたくない 19.4	

Ⅱ 地域防災について

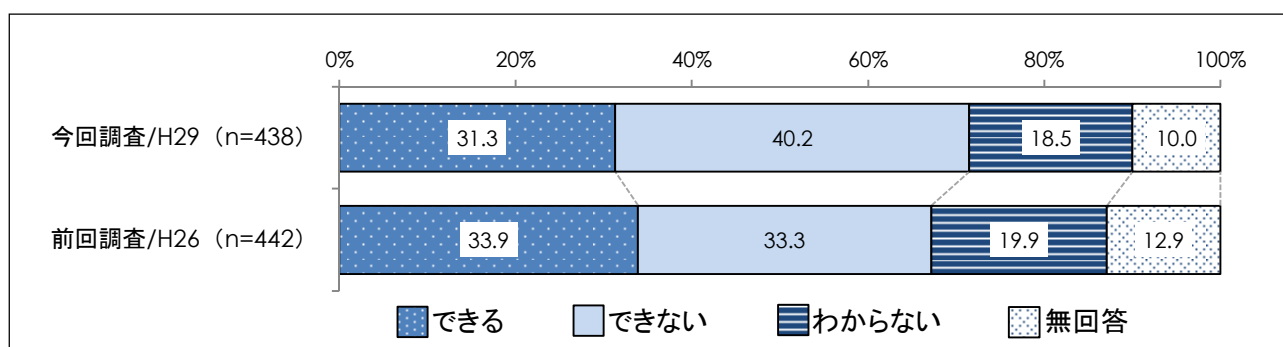
(1) 災害時の避難について

問 40 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

災害時に一人で避難ができるかどうかについてたずねたところ、「できる」が31.3%、「できない」は40.2%、「わからない」は18.5%となっており、一人で避難できない人が4割を占めています。

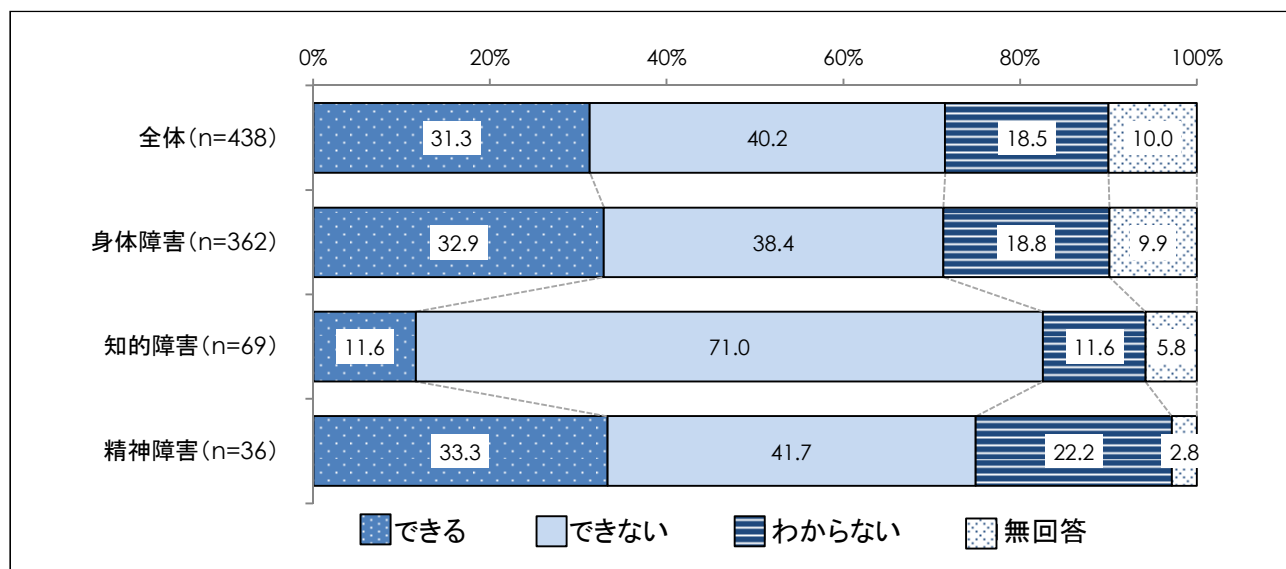
図表 89 災害時の一人での避難の可否について（全体、前回との比較）



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害、精神障害では「できる」が3割を超えています。知的障害では11.6%となっており、他の障害に比べて一人で避難できる人の割合がやや低くなっています。

図表 90 災害時の避難について（全体、障害別）



(2) 一人での避難が困難な理由

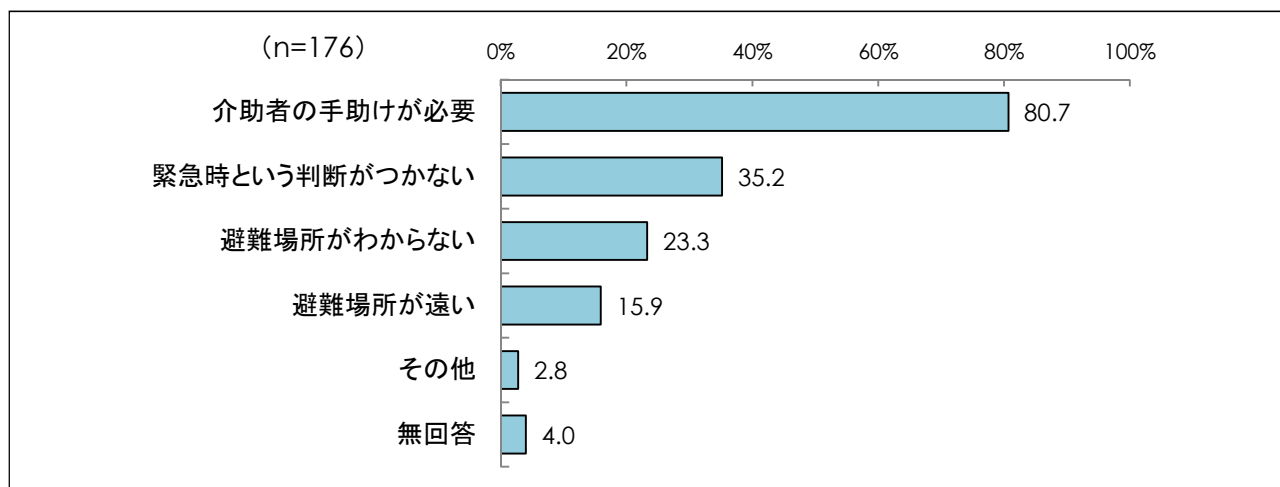
【問40で「できない」と回答した方】

問40-1 一人で避難できない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

一人で避難できない理由についてたずねたところ、「介助者の手助けが必要」が80.7%と最も多く、その割合は突出しています。次いで、「緊急時という判断がつかない」(35.2%)、「避難場所がわからない」(23.3%)、「避難場所が遠い」(15.9%)となっています。

図表 91 一人での避難が困難な理由 (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害の第3位は「避難場所が遠い」(17.3%)、また、知的障害の第3位は「避難場所がわからない」(44.9%)となっています。一方、精神障害の第1位は「緊急時という判断がつかない」(53.3%)、第2位は「介助者の手助けが必要」(46.7%)、第3位は「避難場所が遠い」(33.3%)となっています。

図表 92 一人での避難が困難な理由 (全体、障害別/複数回答)

<上位3位/単位:%>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		介助者の手助けが必要 80.7	緊急時という判断がつかない 35.2	避難場所がわからない 23.3
障害別	身体障害 (n=362)	介助者の手助けが必要 80.6	緊急時という判断がつかない 25.2	避難場所が遠い 17.3
	知的障害 (n=69)	介助者の手助けが必要 89.8	緊急時という判断がつかない 71.4	避難場所がわからない 44.9
	精神障害 (n=36)	緊急時という判断がつかない 53.3	介助者の手助けが必要 46.7	避難場所が遠い 33.3

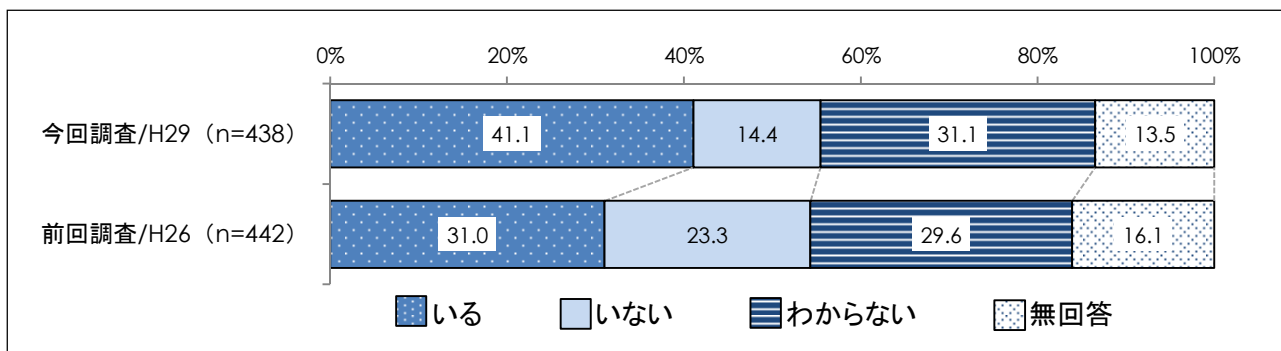
(3) 避難を援助してくれる人の有無

問 41 火事や地震などの災害時に近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(○はひとつだけ)

【全体の傾向】

災害時に、避難を援助してくれる人の有無については、「いる」は41.1%、「わからない」は31.1%、「いない」は14.4%となっており、約4割の人が近所に援助してくれる人がいると回答しています。前回調査と比較すると、「いる」が10.1ポイント増加しているのに対し、「いない」が8.9ポイント減少しています。

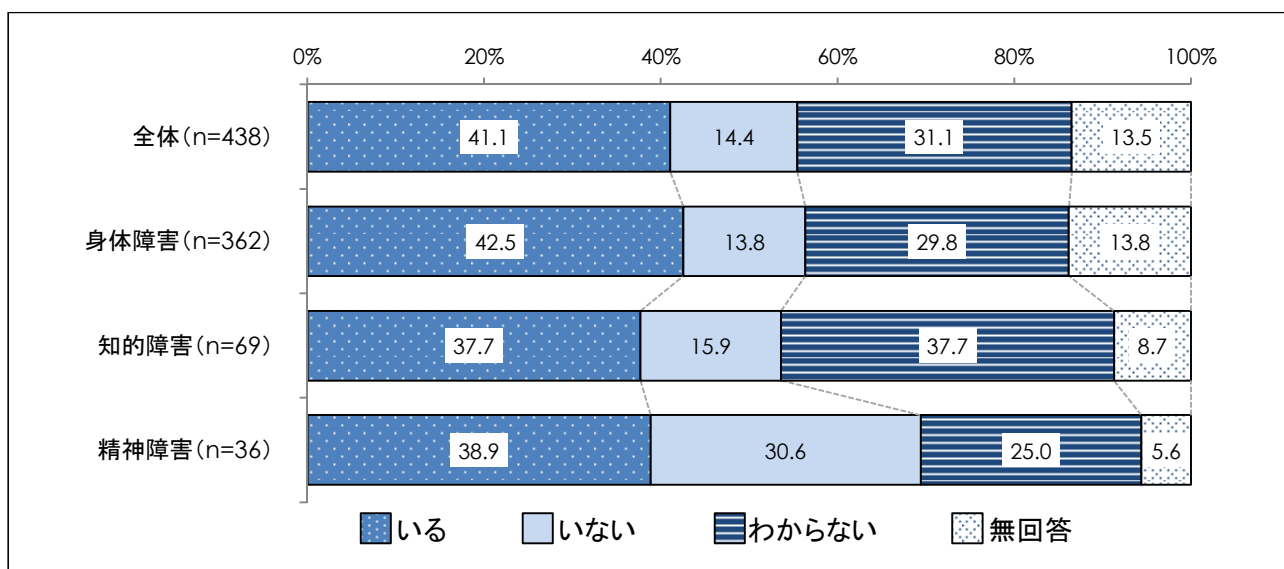
図表 93 避難時に援助してくれる人の有無（全体、前回との比較）



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「いる」の42.5%に対し、「いない」は13.8%と低くなっています。知的障害では「いる」、「わからない」の37.7%（同率）に対し、「いない」は15.9%と身体障害同様低い割合となっています。一方、精神障害では、「いない」が30.6%と約3割を占めており、他の障害に比べて援助者がいない割合が高くなっています。

図表 94 避難時に援助してくれる人の有無（全体、障害別）



(4) 災害時に困ること

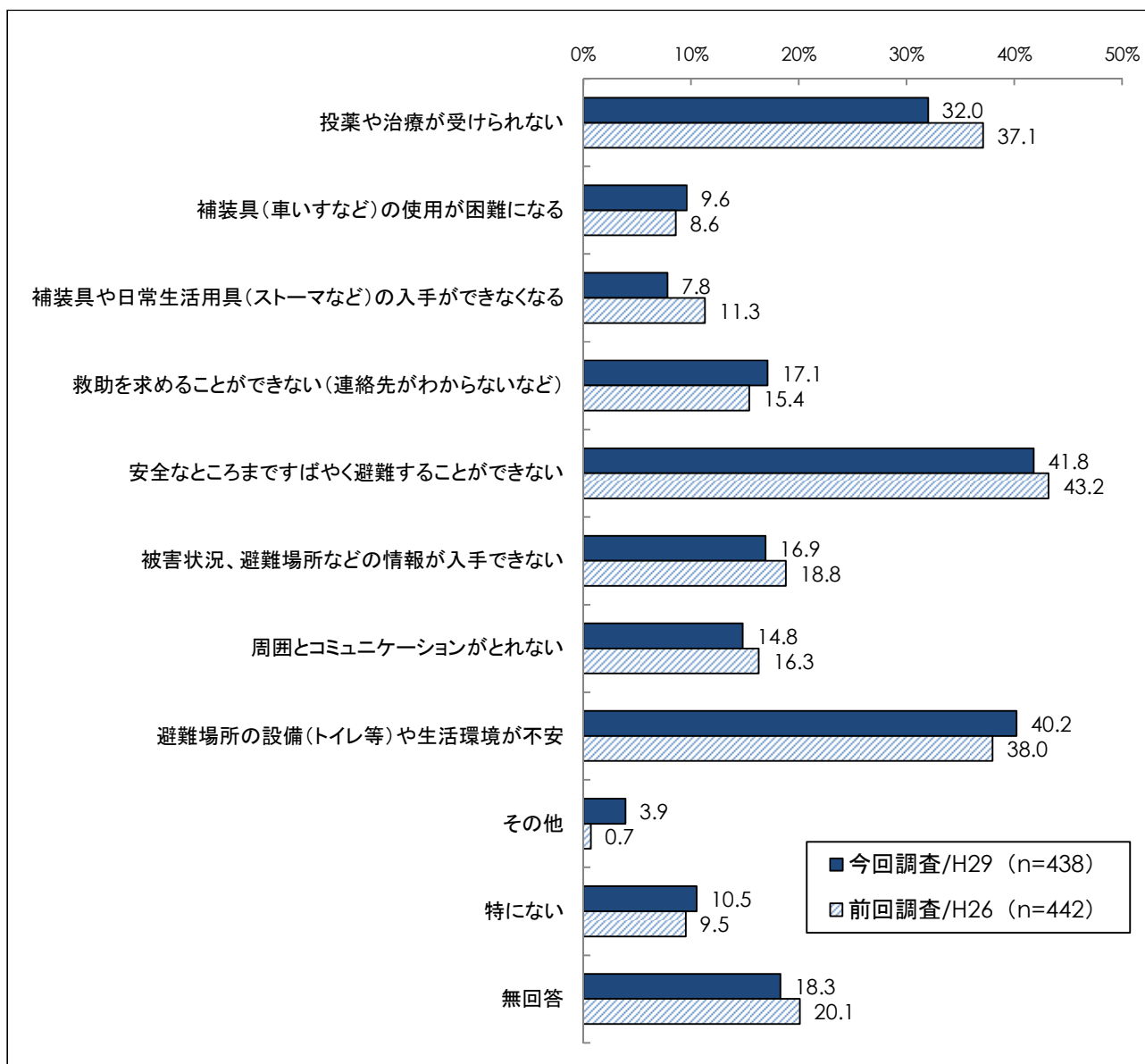
問 42 火事や地震などの災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

火事や地震などの災害時に困ることについてたずねたところ、「安全なところまですばやく避難することができない」が 41.8%と最も多く、次いで「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」（40.2%）、「投薬や治療が受けられない」（32.0%）、「救助を求めることができない（連絡先がわからないなど）」（17.1%）、「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」（16.9%）となっています。

前回調査と比較すると、「投薬や治療が受けられない」が 5.1 ポイント減少していますが、概ね同様の傾向となっています。

図表 95 災害時に困ること（全体、前回との比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「安全なところまですばやく避難することができない」（41.2％）が第1位、第2位は「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」（38.7％）、第3位が「投薬や治療が受けられない」（32.0％）となっています。

知的障害では「救助を求めることができない（連絡先がわからないなど）」（56.5％）が第1位、第2位は「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」（55.1％）、第3位は「安全なところまですばやく避難することができない」（53.6％）となっています。知的障害では第1位～第3位までの割合がすべて5割を超えています。

精神障害では「投薬や治療が受けられない」（41.7％）が第1位となっています。

身体障害ではすばやく避難ができないこと、知的障害では救助を求めることが困難なこと、精神障害では治療等が受けられないことなどが主な問題となっています。

図表 96 災害時に困ること（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		安全なところまですばやく避難することができない 41.8	避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安 40.2	投薬や治療が受けられない 32.0
障害別	身体障害 (n=362)	安全なところまですばやく避難することができない 41.2	避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安 38.7	投薬や治療が受けられない 32.0
		救助を求めることができない(連絡先がわからないなど) 56.5	避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安 55.1	安全なところまですばやく避難することができない 53.6
	精神障害 (n=36)	投薬や治療が受けられない 41.7	・安全なところまですばやく避難することができない ・避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安	38.9

12 その他のことについて

(1) 近所つきあいの程度

問 43 あなたは、隣近所とどの程度つきあいをしていますか。(〇はひとつだけ)

【全体の傾向】

全体では、「会えば挨拶する程度」が41.8%と最も高くなっています。次いで「大変親しいつきあい」が16.7%、「行事のある時はつきあう」、「ほとんどつきあいはない」とともに14.8%となっています。

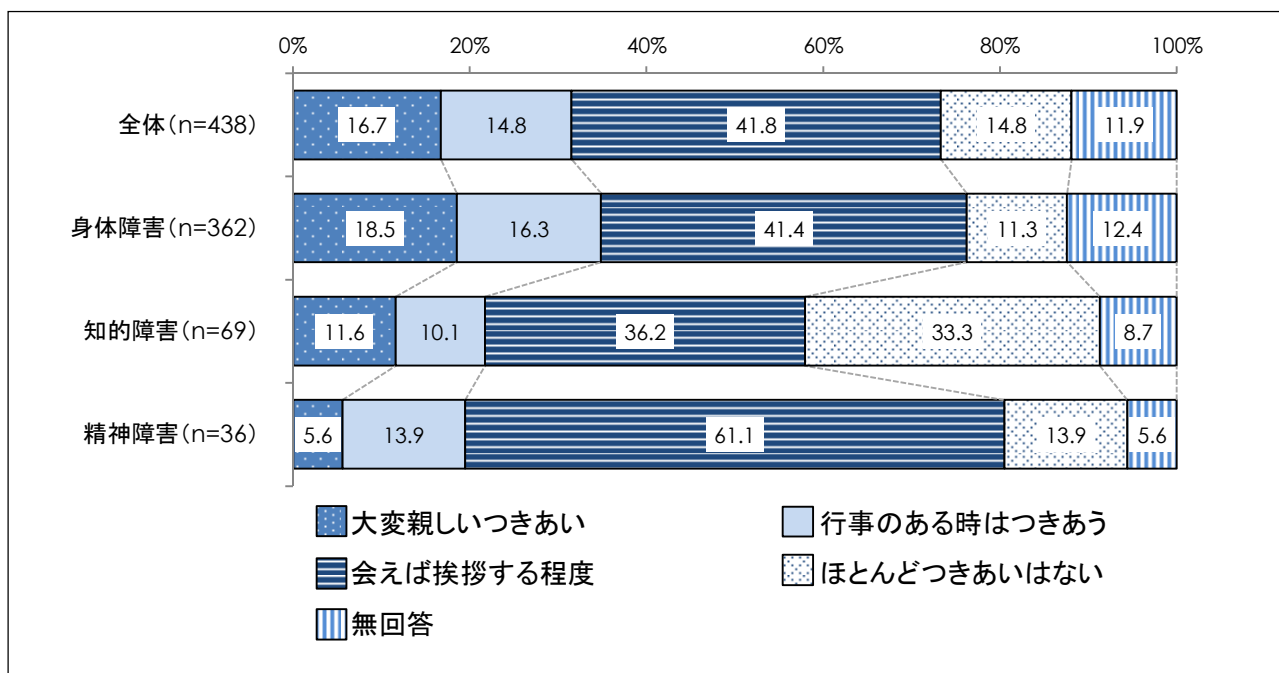
【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では「会えば挨拶する程度」が41.4%と最も高くなっています。

知的障害では「会えば挨拶する程度」が36.2%と最も高くなっていますが、「ほとんどつきあいはない」も33.3%と高く、わずか2.9ポイント差となっています。

精神障害でも「会えば挨拶する程度」(61.1%)が最も高く、約6割を占めています。

図表 97 近所付き合いの程度（全体、障害別）



(2) 障害者差別について

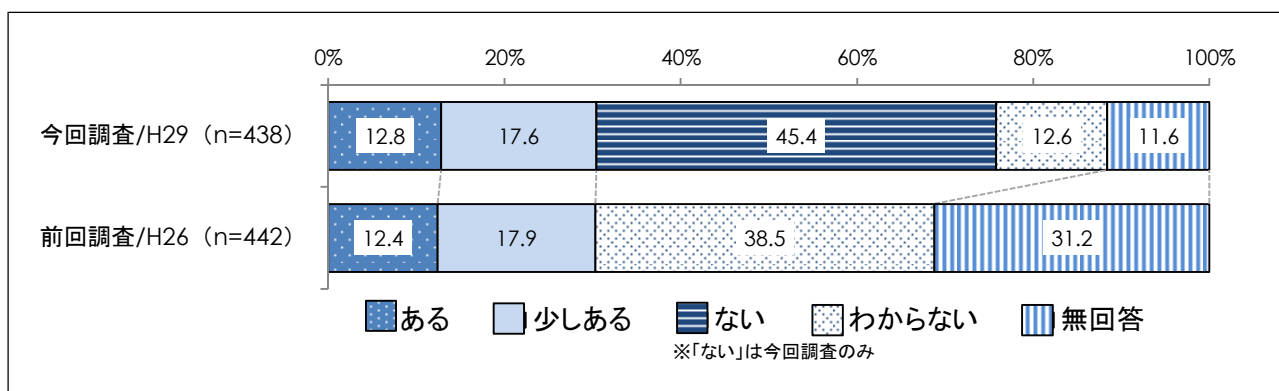
問 44 あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。（○はひとつだけ）

【全体の傾向】

障害等を理由に、差別や嫌な思いをした経験の有無についてたずねたところ、「ない」が45.4%と最も高くなっています。一方、「ある」（12.8%）、「少しある」（17.6%）を合計した『ある』の割合は30.4%となり、約3割の人が差別や嫌な思いをしたことがあると回答しています。

前回調査と比較すると、「ある」、「少しある」の割合に大差はみられません。

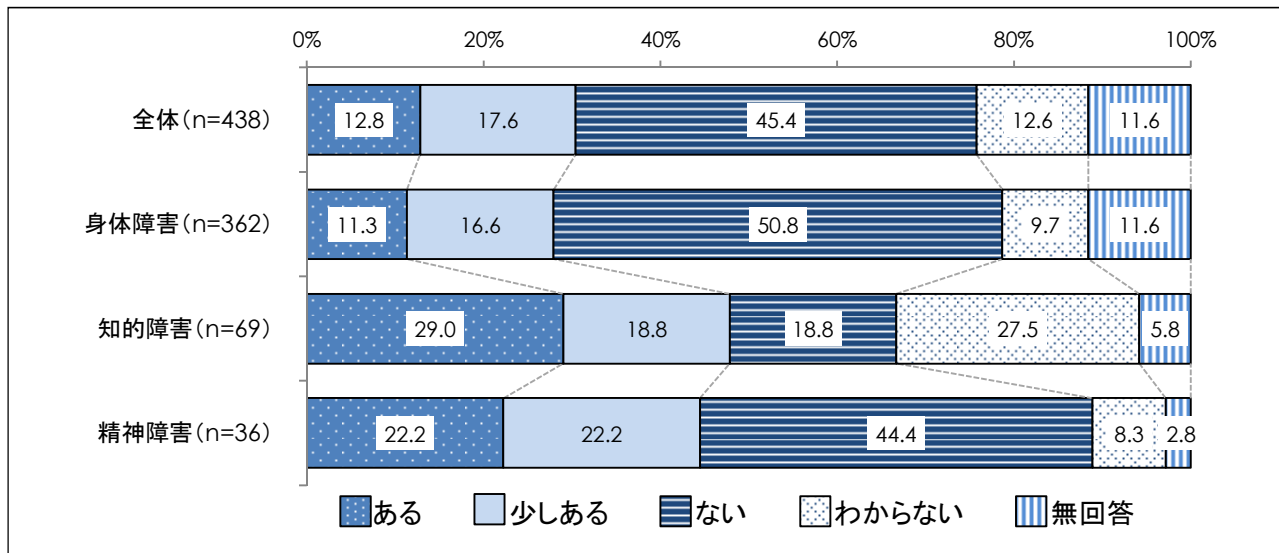
図表 98 差別や嫌な思いをした経験の有無（全体、前回との比較）



【属性別の傾向】

障害別にみると、『ある』の割合は、身体障害では27.9%、知的障害者では47.8%、精神障害では44.4%となっており、知的障害で最も高くなっています。

図表 99 差別や嫌な思いをした経験の有無（全体、障害別）



【問 44 で「ある」「少しある」と回答した方】

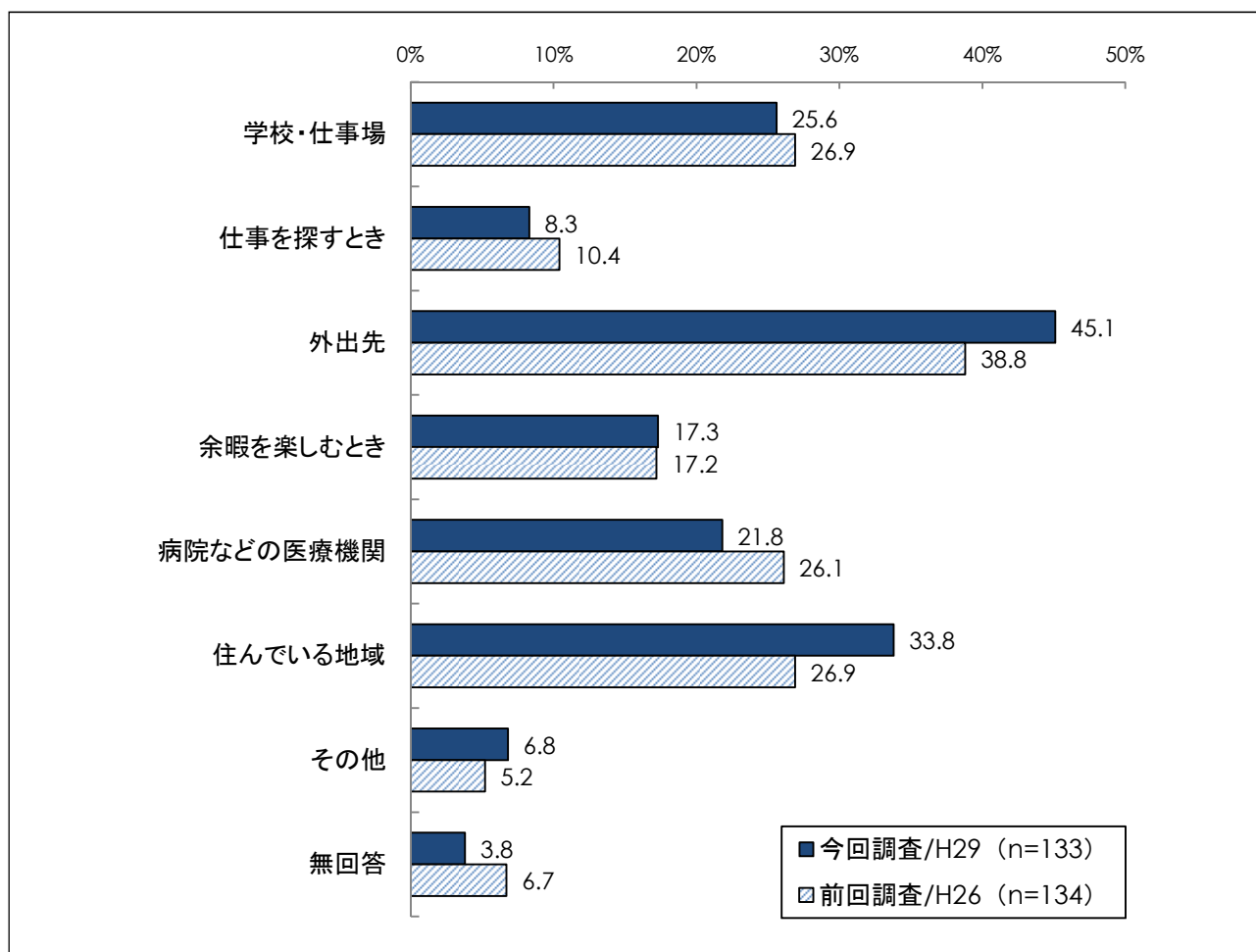
問 44-1 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

どのような場所で差別や嫌な思いをしたかについてたずねたところ、「外出先」が45.1%と最も多くなっています。次いで「住んでいる地域」(33.8%)、「学校・仕事場」(25.6%)、「病院などの医療機関」(21.8%)、「余暇を楽しむとき」(17.3%) などとなっています。

前回調査と比較すると「住んでいる地域」が6.9ポイント増加、また「外出先」も6.3ポイント増加しています。一方、「病院などの医療機関」は4.3ポイント減少しています。

図表 100 障害者差別を受けた場所など（全体、前回との比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害、知的障害では全体と同様の傾向となっており、第1位は「外出先」、第2位は「住んでいる地域」、第3位は「学校・仕事場」となっています。

精神障害では「住んでいる地域」(43.8%)が第1位、第2位は「外出先」(31.3%)、第3位は「学校・仕事場」、「仕事を探すとき」、「病院などの医療機関」(同率 18.8%)となっています。

図表 101 障害者差別を受けた場所など（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=133)		外出先	住んでいる地域	学校・仕事場
		45.1	33.8	25.6
障害別	身体障害 (n=101)	外出先	住んでいる地域	学校・仕事場
		42.6	33.7	23.8
	知的障害 (n=33)	外出先	住んでいる地域	学校・仕事場
		60.6	33.3	30.3
	精神障害 (n=16)	住んでいる地域	外出先	・学校・仕事場 ・仕事を探すとき ・病院などの医療機関
		43.8	31.3	18.8

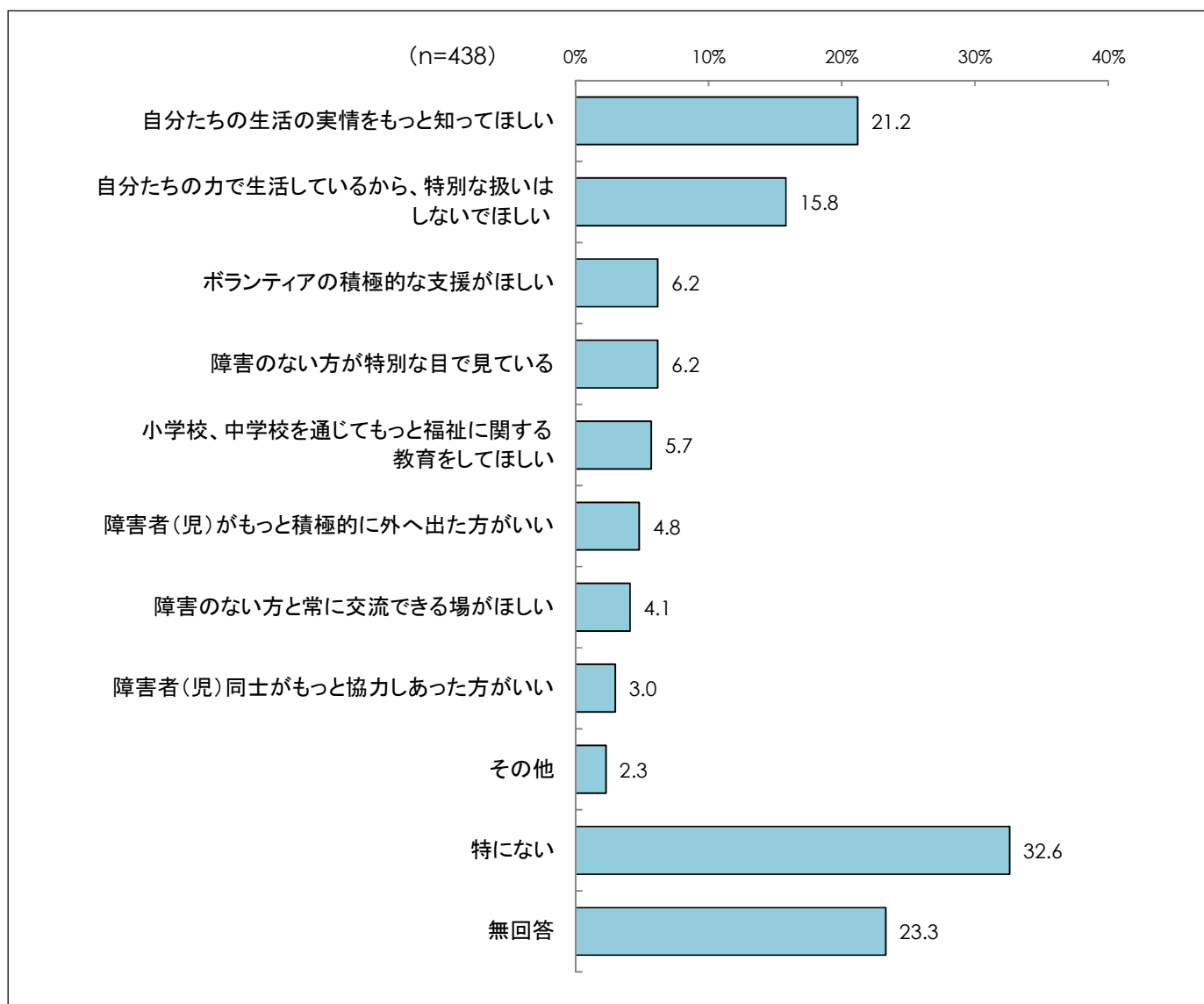
(3) 日常生活で感じること

問 45 あなたが日頃生活していて感じることは、次のうちどれですか。(おもなもの3つまで○)

【全体の傾向】

日常生活で感じることをたずねたところ、「特にない」が32.6%と最も高くなっていますが、それ以外の項目では、「自分たちの生活の実情をもっと知ってほしい」が21.2%と高く、次いで「自分たちの力で生活しているから、特別な扱いはしないでほしい」(15.8%)、「ボランティアの積極的な支援がほしい」、「障害のない方が特別な目で見ている」(同率 6.2%)、「小学校、中学校を通じてもっと福祉に関する教育をしてほしい」(5.7%) などとなっています。

図表 102 日常生活で感じること (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害や、精神障害では「自分たちの生活の実情をもっと知ってほしい」、「自分たちの力で生活しているから、特別な扱いはしないでほしい」などが第2位、第3位となっています。

知的障害では、「小学校、中学校を通じてもっと福祉に関する教育をしてほしい」、「障害のない方が特別な目で見ている」（同率 11.6%）が第3位となっています。

図表 103 日常生活で感じること（全体、障害別／複数回答）

<上位3位／単位：%>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=438)		特にない	自分たちの生活の実情をもっと知ってほしい	自分たちの力で生活しているから、特別な扱いはしないでほしい
		32.6	21.2	15.8
障害別	身体障害 (n=362)	特にない	自分たちの生活の実情をもっと知ってほしい	自分たちの力で生活しているから、特別な扱いはしないでほしい
		34.0	19.6	16.3
	知的障害 (n=69)	特にない	自分たちの生活の実情をもっと知ってほしい	・小学校、中学校を通じてもっと福祉に関する教育をしてほしい ・障害のない方が特別な目で見ている
		30.4	29.0	11.6
	精神障害 (n=36)	特にない	・自分たちの力で生活しているから、特別な扱いはしないでほしい ・自分たちの生活の実情をもっと知ってほしい	
		33.3		25.0

(4) 住みよいまちにするために必要なこと

問 46 障害のある人にとって住みよいまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。
(おもなものを5つまで○)

【全体の傾向】

障害のある人にとって住みよいまちをつくるために必要なことをたずねたところ、「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」が43.6%と最も多くなっています。次いで「サービス利用に関する手続きの簡素化」(35.8%)、「行政からの福祉に関する情報提供の充実」(25.1%)、「経済的な負担の軽減」(23.7%)、「保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上」(17.4%)、「災害のときの避難誘導體制(緊急通報システムなど)の整備」(15.1%)、「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」(14.8%)、「リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備」(14.4%)などとなっています。

前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっていますが、「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」が8.1ポイント減少しています。

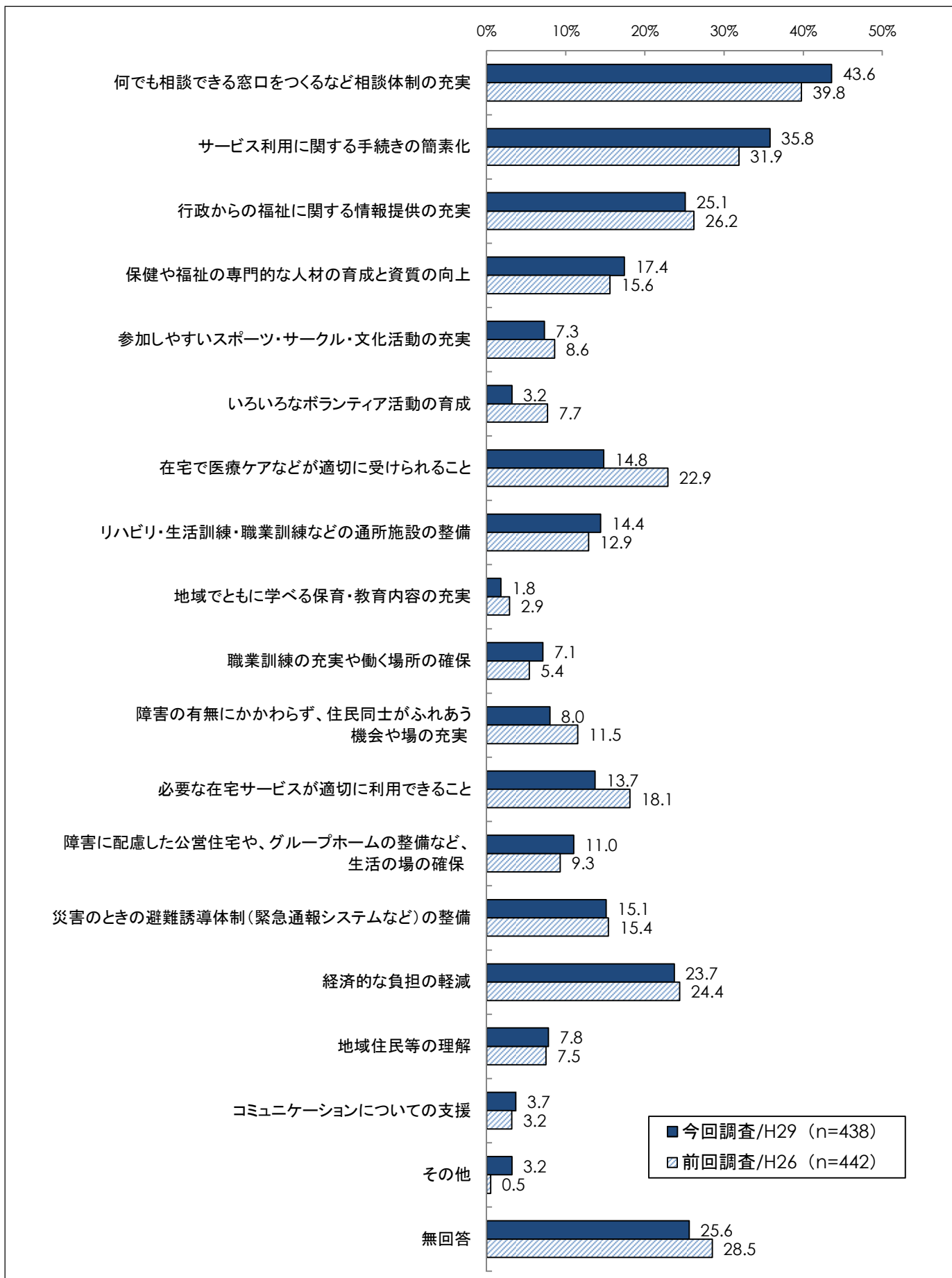
【属性別の傾向】

障害別にみると、身体障害では、「行政からの福祉に関する情報提供の充実」(26.2%)が第3位、「経済的な負担の軽減」(24.0%)が第4位、「保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上」(16.3%)が第5位となっています。

知的障害では「障害に配慮した公営住宅や、グループホームの整備など、生活の場の確保」(31.9%)が第3位、「リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備」(26.1%)が第5位となっています。

精神障害では「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」(22.2%)が第5位にあげられています。

図表 104 住みよいまちにするために必要なこと（全体、前回との比較／複数回答）



図表 105 住みよいまちにするために必要なこと（全体、障害別／複数回答）

<上位5位／単位：％>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=438)		何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実	サービス利用に関する手続きの簡素化	行政からの福祉に関する情報提供の充実	経済的な負担の軽減	保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上
		43.6	35.8	25.1	23.7	17.4
障害別	身体障害(n=362)	何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実	サービス利用に関する手続きの簡素化	行政からの福祉に関する情報提供の充実	経済的な負担の軽減	保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上
		42.0	34.5	26.2	24.0	16.3
	知的障害(n=69)	何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実	サービス利用に関する手続きの簡素化	障害に配慮した公営住宅や、グループホームの整備など、生活の場の確保	保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上	リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備
		44.9	39.1	31.9	30.4	26.1
	精神障害(n=36)	何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実	サービス利用に関する手続きの簡素化	経済的な負担の軽減	行政からの福祉に関する情報提供の充実	在宅で医療ケアなどが適切に受けられること
		52.8	41.7	30.6	27.8	22.2

Ⅲ 自由意見

あなたご本人への質問は以上です。最後に、障害福祉サービスや行政の取組について、何かご意見・ご提案がありましたら、自由にご記入ください。

1. 福祉施設・設備について 18件

No.	意見	障害種別
1	真に障害者の不便に配慮して施設、設備を整えてほしい。(例)前述とダブるがー・公的場所のトイレの洋式(腰掛)化。・公衆トイレの増設ー観光客用もさることながら…。・ベンチの整理、増設足・腰弱者になってみて、切実に感じます。・信頼するに足る避難場所の確保 ※アンケートの集計結果を公表してほしい。	身体
2	若い人にもお風呂に入れてくれるヘルパーがほしい。障害者が住みやすい平屋の一軒家を建ててほしい。障害者が利用する福祉施設を建ててもらいたい。無料のプールの福祉施設を建ててほしい。	精神
3	土庄町にも"ソレイユ"のようなグループホームを早く作ってほしいです。行政の取組が遅いと思います。	知的
4	グループホームを増やしてほしい。通所作業所を増やしてほしい。	身体・知的
5	・法改正や施策についての周知、啓発。・障害者に対して、町民の理解(病院、施設、スーパー等の障害用スペースの駐車場へ停めないようにしてほしい。)・公共施設のバリアフリー化	身体
6	地域に障害者と健常者の団らんを。	身体
7	小豆島中央病院の障害者駐車場スペースが正しく利用されていない。警備員がいたときは、障害者が車に乗っていても、駐車させてくれなかったし、今は警備員がいないので健常者が停めてしまい、結局障害者が利用できなくなっているのが現状。もう少し考えてほしいと思う。	身体
8	障害者駐車場に誰でも停めている。停める場所がない。駐車違反にして下さい。	身体
9	緊急時の調査票での結果報告はどのような型でありますか。障害者(児)の方は、避難先での過ごし方に問題点が多数あると思います。それに対応出来る事や場所があると、他の人に気を使わず、辛い思いをせずに過ごせると思います。親亡き後、又、それ以前にもグループホームでの生活を希望しています。ぜひ土庄町にグループホームをお願いします。宜しくお願いします。	身体・知的
10	親も高齢になり今後の事を考えると安心して預けられる施設に入所させたいと希望しています。よろしくをお願いします。	知的
11	障害者だけではなくですが、小豆島中央病院へ通院していますが、椅子がほとんど1人がけで、少し腰が悪く、長い間座っているのがつらく、長椅子が少しあれば5、10分でも横になる事が出来てよい。廊下の隅にでも1、2長椅子があれば横になれるのにといつも思います。	身体
12	介助が必要な知的障害者などの世話を日常的に行っている両親が、高齢になり自身の体も自由に動きにくくなり先行きが不安です。姉妹が居ても働かないと生計が成り立たず、その様な時に簡単に利用できる短期のグループホームの様な所が早く出来る様、希望しています。(先々は小豆島町にある長期も含むホームも)土庄町の福祉課では平素大変、お世話になり感謝いたしております。何の手続きに行っても、やさしく丁寧で、役場に伺うのが苦にならなくなりました。本当に有難うございます。	知的
13	島外受診の際、棧橋近く(出来るだけ近い場所)に駐車場(障害者専用)があればと思います。障害者専用には難しいとは思いますが何かいい方法があれば大変助かります。	身体
14	1. 公共の施設にはぜひエレベーターの設置をお願いしたい。2. 車椅子の利用者は町内でどれぐらいいのか知らないが車椅子で外出している人を見かけることは非常に少ない。坂道が多いこともあるがスーパーやイベント等でも見ることがほとんど無い。3. 障害者であることを恥ずかしいと思	身体

Ⅲ 自由意見

No.	意見	障害種別
	う人が多いのではないかと。人間としての自信を持たせるよい方法、効果的な方法は。	
15	昨年9月半ばまで自宅で生活しておりましたが入退院をくり返すようになり、医師の方からこれ以上自宅に連れて帰っての生活は無理だと言う危険ですと言われて慌てて、施設を探しました。生まれつきの全ろうで、人との意思疎通が取れないため、本人の心の中は全く理解してあげられないし、こちらもちも何もわかってあげられずただ、むなしさや切なさだけが心に残っています。このアンケートに答えるのも、おかしな話ですが本人の気持ちになったり、介護をしていた私の気持ちになって答えたりしています。今は、施設という有難いところがあって私自身預けた事でいろいろと思うところはありますが、毎日世話して下さる方々に感謝しています。出来れば土庄のオリーブに入所出来ればもう一つ有難いのです。船に乗って面会に行くのは、やっぱり大変で近くにあればいいのに・・・と思う毎日です。	身体
16	土庄町にもグループホームを作してほしい。	身体・知的
17	グループホームなどもっと設立してほしい。家族に何かあった時土庄町で生活していける場所が少ない。事業所なども増やしてほしい。現状では生活の場が少ないように思う。	知的
18	・グループホーム「ソレイユ」ができてとても助かっていますがすでに定員いっぱいです。ショートステイも1名なので必要な時利用できない事が多いです。必要としている人がもっと多いので1ヶ所だけではまだまだ足りません。早急に取組んで頂ければありがたいです。・平日の日中はひまわりの家を利用していますが、土・日・祝やひまわりの家が閉まってからの時間、日中預かりの場がなく困る時があります。・老人で手いっぱい、障がい者の経験がほとんどないなどで島内のヘルパーさんが利用できず、島外の事業所を利用している人が多いので島内のヘルパーさんが利用出来るよう人材の育成に取組んで頂きたいです。・アンケートの中〇の数を決められている所があるが、もっと〇をつけたいので悩んでしまう。	知的

2. 福祉サービスについて 10件

No.	意見	障害種別
1	・今利用していないのでわからない・今利用している人に聞くととても楽しそうに話ししてくれるので行ってもいいかなと思う事がある	不明
2	土庄港での駐車場が手帳割引希望。あと、船の料金が高く、とても毎日通って仕事等行くことができない。タクシーチケット配布を高松市はしているの、船チケットの配布もしてほしい。	知的
3	島には、リハビリの専門の方がいないので、1人くらいいてくれるとすごくよいと思います。	身体
4	障害のある息子(64才)と生活していますが障害福祉サービスが受けられたら助かります。私自身障害者だとは思っても見ませんでした。私も病気持ちなので大変です。	不明
5	サービスの手続に時間がかかりすぎ、窓口の担当者がよくわかっていない。相談支援の相談員は(基本相談)困って相談しているのに上から目線な物言いをしたり、適切なアドバイスをもらえないので相談しにくい。自立支援協議会の動きが全くわからない、関係者だけで研修会ばかりやって実践に生かせないと意味はないのでは。現状では安心して相談できるところが地域にないため、親が抱えこむしかない状態。法改正のたびに小豆に相談体制が悪くなっている感じがする。	身体・知的
6	専門性をもった担当職員の配置が望ましい。	身体
7	最近のことですが、タクシーに乗る時に手帳を見せるだけでいいと知りました。番号はいらないそうです。その様な事は知ることが出来ませんでした。それと手帳なしでも人に頼んで切符を買える様にしてほしいです。手帳の代わりとなるものは他にありませんか。	身体
8	・同封の「障害者緊急時の受入れに関する希望調査票」についてですが、手帳を持っていないが、介護保険の介護度の高い人についても調査してほしい。・我が家の場合は、地区の自治会長・消防団長・民生委員・駐在さん等がわかってくれています。重度の障害者(児)や介護度の高い人について、地域内での把握が必要だと思います。・通院時の介護タクシー利用者に対して割引制度があればうれしいです。・台風接近時、早目に避難の声かけや誘導をするべきだと思います。我が家	身体

Ⅲ 自由意見

No.	意見	障害種別
	はいつも自治会長さんが声かけや避難のお手伝いをしてくださいます。	
9	どんなに良い制度・サービスでも、的確に執行されなければ意味はありません。窓口での制度と手続きに関する正確な説明、又、正確な執行をしてほしい。その人のためになる制度を的確に判断して、説明・手続きは時間と診断書等の経費の無駄になります。	身体
10	今のところ困っていないが、今後困ることが出てきたらきちんと対応してほしい。	身体・知的

3. 経済的支援について 6件

No.	意見	障害種別
1	経済的な負担をとにかく軽くしてほしいです。特に交通費の負担を軽減してほしいと思います。	身体・精神
2	障害を持つと生活が大変であり、またお金もかかる。病気での通院回数は多いので当然通院費用もかかる。そのわりに障害年金は、2ヶ月で10万少し、これでは生活しづらい金額である。障害者になれば、どれだけ大変なのか、理解してほしいという思いがある。障害者に対する優遇措置、連絡などを無知なので、先方できちんとしてくれたら助かる。行政の手続きも軽自動車税、自動車税、事務所で障害者に対する労い、配慮が感じられない。障害年金の年金額が低すぎる。	身体
3	年金だけでは、生活・病院と大変なので、もう少し所得の少ない人に配慮してほしい。	身体
4	金の世の中で、金が無い人間は少ない年金で、これから先どんな病気になるのか、何が起きてくるのか、不安です。安心できて生活できる町であってほしい。形だけの福祉などいらない。	不明
5	障害をもつ子どもや家族を抱えている家庭の経済的負担は大変なものです。なぜなら小豆島には専門医もリハビリできる施設も少なく、診断書1枚入手するのにも、高松までいく度か診察・相談に行かなければいけないためです。交通費の負担も結構なものです。高松の養護学校へ中学部から通学するにも、義務教育であるにもかかわらず交通費(通学費)が全額は支給されず、多くの保護者が自己負担しています。数年前、小豆島町では自己負担の通学費について申請すれば、町から支給していただけるシステムができ小豆島町の福祉課の方に詳しく話を聞いて、土庄町への書類を作ってお願いに参りました。教育庁、福祉課の方々が同席して話を聞いてくださいましたが、結局お願いは通りませんでした。また経済的負担が少しでも軽減するようお願いしたいです。	知的
6	もう少しお金をもらえるサービスを増やしてほしい。(年金が少ないので)	精神

4. アンケートについて 6件

No.	意見	障害種別
1	もう少し質問を少なくしてほしいです。本人が暴れるから。代筆者より	知的
2	アンケートの質問の項目が多すぎます。アンケートの回数を年2回か3回がよいと思います。	身体
3	視覚障害のためこの書類を読んでもらい答えるのはつらい。	身体
4	・障害支援区分とは？・区分1～区分6とは？・認定を受けているか、いないかとは？わかりません	身体
5	最近目が悪くなって漢字が読めないのわかりません。	知的
6	・本人が理解出来ない、答えられない質問ばかりでアンケートを取る意味があるのか疑問に思えます。・同じ封筒が2通届いた。きちんとチェックして送付すべきだと思う。気分が悪い。	身体・知的

5. 行政について 4件

No.	意見	障害種別
1	・島に2町になっているが、障害者福祉・教育の行政の意識、施策において、差があるように感じる。もっと両町が協力して発展していかないといけないのではないか。・特別支援学校を設置する事になり、場所の選定で土庄町内に設置を要望しているところがあるが、保護者の立場で考えれば、大きな医療機関があり、新設高校もでき、土庄、小豆島両町の間点である池田に設置する方が良いと考えています。学校設置にあたり卒業後の就職先の確保や福祉の充実等の課題がたくさんあると思われませんが構想とかそういうもののビジョンが発信されておらず、行政の姿勢が見えてきません。・ひまわり福祉会すくすく教室の事業減少で、サービス利用ができなくなってしまってきている。以前程度に利用できるよう行政からの働きかけ、援助等はできないのでしょうか。・福祉会サービスの制度変更、新規導入等で手続きする際に説明不足でとまどいと不安に感じる時が多々ありました。もったきちんと説明ができないのでしょうか。	身体・知的
2	住みよいまちにするために必要なことの設問に回答した事が充実したらもっと安心出来ると思います。今現在は内臓不良で月1回病院に治療に行っていますが、歩けない、又食事が出来ない様になった時、前述の事がもっともっと充実したら安心かなと思います。	身体
3	障害があっても地域で教育を受け、成長し就労につなげるシステムや具体的な設備を一日も早く整備してほしい。そのためには、行政が積極的に動いていかなければ進んでいけないと思う。土庄町ももっと前向きに取り組んでほしい。小豆島町と一体になって進めてほしい。障害の重度の子の学び場、学校卒業後の就労の場そして親なき後の生活の場と、待たなしです。	身体
4	日本の福祉制度は他の国に比べて、少し遅れている気がする。もっともっと充実した福祉政策を打ち出してほしい。誰もが平等に住みやすい環境である事を節に望みます。	身体

6. その他 6件

No.	意見	障害種別
1	私事ですがあまり外に出てボランティアする元気が有りませんが歩道も整備されていて良い環境に住んでいると思っています。	身体
2	各施設で働いている職員が施設に通っている人の悪口などを外で言わないでほしい！！	身体
3	73才まで健康だったので、障害者と云われてショックのこともあります。役場に印を1か所押すで出かけるのは、どうかしてほしい時もあります。すぐ人の手伝いに頼るよりマイペースでゆっくりと自分で出来る様になりたいので、すぐ手を出さず見守る介護をお願いしたいと思います。	身体
4	パラリンピックに出場している選手の努力している姿をテレビで見ていると勇気がいただけます。障害者であっても、少しでも社会に役立つ事は、たくさんあると思います。これから将来AI(人工知能)の利用が、さかんになれば、それぞれの障害者の能力に応じた、学習支援が可能になり、障害者が、資格取得に努力して、社会の役に立つために努力するようになればいいと思います。	身体
5	施設入居者の状態がうわさとして伝わってくる事がある。職員等の職業倫理を高めてほしい。	身体
6	生活保護者の人で若い人が多いと思う。民生委員の人はどう考えているのか？私は仕事を斡旋して仕事させればいいと思う。それで少なれば足らずを出すと良いと思う。汗して働く人は安い賃金で年金生活者も安い。それに比べると今の生活保護を受けている人は良い生活している。生活している人を良く見てほしい。これは町議会の人へのお願い。町議会議員も賃金高い。議会休む人に賃金出す必要ないですよ。	身体